

2019年度 取材インターンシップ 取材記録

2019年9月19日

共愛学園前橋国際大学COC事務局

取材インターンシップについて

- ・取材インターンシップ

数名の学生チームで群馬県にある企業や市役所を1日訪問して、社長や社員、職員の方々取材するインターンシップです。

夏休み期間中(8月～9月)に事前研修・職場訪問・事後研修の活動を行います。

- ・スケジュール

- ① 事前研修：8月6日～8月8日の3日間(10:30～16:30)

学内でキャリア研修と訪問先企業についての調査、質問事項の作成を行います。

- ② 職場訪問：8月9日～9月13日の間で1日

訪問先にアポイントをとって、企業を訪問します。

会社経営者、社員、職員 みなさんに取材インタビューを行います。

取材後にインタビュー記録をまとめて、取材記事を作成します。(1～2週間程度)

- ③ 事後研修：9月17日～9月19日の3日間(10:30～16:30)

振り返りと取材内容の発表(プレゼンテーション)を行います。

取材インターンシップの日程

	8月6日 (火)	8月7日 (水)	8月8日 (木)	8月9日(金) ～ 9月13日(金)	9月17日 (火)	9月18日 (水)	9月19日 (木)
事前研修	10時30分 ～ 16時30分	10時30分 ～ 16時30分	10時30分 ～ 16時30分				
	チームビル ディング	質問事項 作成	企業調査 発表会				
職場訪問				1日職場訪問 (2～3時間)			
				1～2週間で 取材記録のまとめ			
事後研修					10時30分 ～ 16時30分	10時30分 ～ 16時30分	10時30分 ～ 16時30分
					取材記録 の発表	最終プレ ゼン作成	最終 発表会

取材訪問日程

アイオー信用金庫	8月9日
株式会社ヤマト	8月19日
前橋市 文化国際課	8月26日
前橋市 生活課	8月28日
前橋市 環境政策課	8月29日
エアムーブ住宅株式会社	9月10日
群馬トヨタ自動車株式会社	9月10日
株式会社小川屋	9月11日

2019年度「取材インターンシップ」参加者リスト

グループ	チーム	氏名	コース	学年	決定
1	A	松下 実希	心理人文	2	アイオー信用金庫
1	A	女屋 菜々	情報経営	2	アイオー信用金庫
1	A	黛 優菜	情報経営	2	アイオー信用金庫
1	B	富澤 陽菜	国際	2	アイオー信用金庫
1	B	尾池 優香	国際	2	アイオー信用金庫
2	C	川田 美桜	情報経営	2	エアムーブ住宅
2	C	齋藤 未来	心理人文	2	エアムーブ住宅
2	D	尾崎 史奈	情報経営	2	エアムーブ住宅
2	D	阿部 楓	情報経営	2	エアムーブ住宅
2	D	吉井 萌葉	情報経営	2	エアムーブ住宅
3	E	栗原 麻衣	心理人文	1	エアムーブ住宅
3	E	深津 夕希	心理人文	1	エアムーブ住宅
3	E	荻原 希々	心理人文	1	エアムーブ住宅
3	F	狩野 美佑	英語	2	エアムーブ住宅
3	F	田村 和	情報経営	2	エアムーブ住宅
4	G	荒木 彰悟	情報経営	2	ヤマト
4	G	堀米 康希	情報経営	2	ヤマト
4	G	長澤 健留	情報経営	2	ヤマト
4	G	竹内 将也	情報経営	2	ヤマト
4	H	松田 真香	情報経営	2	ヤマト
4	H	白井 日菜	情報経営	2	ヤマト

グループ	チーム	氏名	コース	学年	決定
5	J	坂田 優香	心理人文	2	小川屋
5	J	佐々木 麻友	国際	1	小川屋
6	K	武井 奈々子	情報経営	2	群馬トヨタ自動車
6	K	武井 絵里香	情報経営	2	群馬トヨタ自動車
6	K	久保田 凱	情報経営	2	群馬トヨタ自動車
7	L	大澤 千夏	心理人文	2	前橋市文化国際課
7	L	小林 友美	国際	2	前橋市文化国際課
7	M	富岡 千晶	国際	2	前橋市文化国際課
7	M	高田 奈緒美	国際	2	前橋市文化国際課
8	N	齋藤 麻厘愛	情報経営	2	前橋市環境政策課
8	N	設楽 理紗	情報経営	2	前橋市環境政策課
8	N	清水 歩果	情報経営	2	前橋市環境政策課
8	P	富樫 季実	心理人文	2	前橋市環境政策課
8	P	笛木 茉悠	心理人文	2	前橋市環境政策課
9	Q	高橋 瑞歩	情報経営	2	前橋市生活課
9	Q	中村 有澄	情報経営	2	前橋市生活課
9	R	諸岡 里南	心理人文	2	前橋市生活課
9	R	久松 みな美	心理人文	2	前橋市生活課

取材記録

—アイオー信用金庫—

A チーム

0183016 女屋菜々

0183068 黛 優 菜

0184043 松下実希

1. インタビュー内容

今回私たちはアイオー信用金庫様に 8 月 9 日取材インターンシップを行った。人事副部長である金子正則様と、入行して 6 年目である櫻井綾花様にお話を伺った。

まず初めに人事副部長である金子様に行ったインタビューから述べていきたい。アイオー信用金庫様は共存同栄という経営理念を掲げておりこれは、前理事長から引き継いでいるそうだ。金子様自身良い理念であると思っており、地域と共に歩んでいき狭域高密度なところが銀行と違う良い点であると考えているそうである。名称変更した理由は金子様の想像によると、平成 14 年に伊勢崎太田信用金庫となり、愛称がアイオー信用金庫であった。そのためお客様が混乱してしまい 1 つにしたとされている。中小企業セミナーなどを行ったことによる効果は、製品を作り、そのためにお金が必要になり、信用金庫でお金を借りて、売り上げも上がるというサイクルになるそうだ。他にもアドバイザー契約の場を設けるなどは間接的であるためすぐに効果は出ず、ボランティアのような感じであるそうだ。県外進出と地域密着のバランスについては群馬県以外とも取引は出来るそうだが支店はないそうで、上にも述べたように狭域高密度を大切にし、限られた地域のみとの取引であるため内容が濃くなるようである。ボランティアの影響と誰が参加しているかについては、いせさきまつりであると約 150 人が参加していくことで宣伝・PR にもなるそうだ。参加者は希望者を募っているそうで部署など関係なく出ることができる人が参加しているそうである。

ここからは生活面などについて述べていきたい。育休取得率は女性の場合は 100%で男性でも数日取得する人もいるそうだ。育休は給料が出ないそうなので夫婦 2 人とも取得することは難しいそうだ。復帰後は原則同じ部署に戻り、違う部署であれば事前連絡を行っているそうだ。1 年休暇したために、状況などが変わり辞めてしまう人もいるそうだ。アイオー信用金庫様ではくるみんマークを取得しておりそのために行ったことは、男性の育児休暇率が 0%であったものを上げるようにしたそうである。ワークライフバランスについてどう考えているかは、当然そうあるべきでなぜ今更話題になっているのかと思っているようである。そのため金子様は仕事とプライベートは完全に分けており、家では仕事の話は一切しないそうだ。入行した経緯とやりがいについては、高校生の時自宅にアイオー信用金庫の営業の人が来ており、なんとなく憧れたそうだ。やりがいはお客様から「ありがとう、助かった」などと言われた時や笑顔を見たりした時だそうだ。

最後に学生たちに向けてインタビューしたことを述べていきたい。どんな学生に来てほしいかは、地元や地域が良いと思っている人や笑顔な人であるそうだ。また、自分の良さを発揮できる人がいいそうだ。学生の時にやっておくべきことは、何もやらなくていいそうだ。学生時代を完全燃焼し、二度と戻れない学生生活を全力で楽しんでおくことが大切だそうだ。学生の時しかできなかったと思うことはたくさん遊ぶことであるそうだ。

次に境支店融資係である櫻井綾花様についてのインタビューを述べていきたい。入行の経緯と経歴は大学生時代、住宅金融の仕事に就きたかったそうで就活をしていくうちに金融の仕事に魅力を感じたそう。入行後から3年目までは本店の営業部預金係にいたそう。4~5年目は宮郷支店の渉外係で、今年から境支店で融資係をしているそう。入社前と後で想像と違ったところは、窓口は3時に閉まるため早く帰れると思っていたが、閉まってから数字清算をするため閉まった後の方が忙しいということである。内定をもらうために努力したことは企業研究と信用金庫に電話をして見学をさせてもらったことだそう。直接電話をすることは名前を覚えてもらうためにしていたそう。仕事をする上で苦労したことは事務が思っていたよりも細かくお客様の記入などが少しでも違っていたら、また会いに行くなどが大変だったそう。事業内容で個人的に力を入れていることは融資の際は不備などがないか、お金が本当に返ってくるか注意を払うことだそう。また、先輩に言われたことはすぐにメモができるように至る所に付箋を置いているそう。仕事のやりがいは住宅ローンを組んだ時、更地から家ができた写真を見て達成感を感じるそう。職場の雰囲気は良いそうで、1支店に10名ほどしか人がいないため年齢が近い同性の先輩もいたため、話しやすかったそう。また、お客様の雰囲気は、支店ごとに違うそうで、例えば宮郷支店は若いお客様が多いなど特色があるそう。

ここからは、生活面について述べていきたい。仕事と生活の両立については仕事内容によって帰る時間帯が違うため人それぞれであることが分かった。現在の融資係は定時で帰ることができるため自分の時間も大切にすることができるそう。仕事と生活の中で大切にしていることは健康で、仕事をするにもプライベートを充実させるにも大切なことであると仰っていた。今後のライフプランは産休や育休が取得しやすい職場であるため、活用したり、様々な業務をしている人は少ないため活かしていったりしたいそう。

続いては、学生時代の話や学生に向けてインタビューしたことを述べていきたい。学生時代に行っていて役に立ったことは、FPを取得するための授業を履修していたことで、取得できる資格は学生時代に得た方が良いそう。学生時代に気を付けていたことは、スケジュール管理と適度なリフレッシュをとることだそう。頑張ったことや力を入れたことは手話部に所属したことで耳が聞こえない人のために行うノートテイクの手伝いだそう。また、就職後窓口で一度耳が聞こえないお客様に対して手話で対応をしたことがあるそう。主体性・やる気の身につけ方は、一つ一つ壁を乗り越えたり、先輩に聞いたりすると良いそう。どんな学生に来てほしいかは、やる気があり、明るく率先できる人だそう。また、やるべきことは何か探せるような人が良いとも仰っていた。

2. 感想

0183016 女屋菜々

アイオー信用金庫様に取材インターンシップに行く前の事前研修で予め調べていましたが新しく知ったことや取材したからこそ知ることができた話がたくさんあり、短い時間であつたがとても有意義な時間を過ごすことができました。

金子様に対して行ったインタビューでは、金子様は本当に地元や地域を大切にしている事が分かりました。狭域高密度や、限られた地域であるため内容を濃くなどと仰っており、地域を大切にする信用金庫は、銀行とは違った魅力があることが分かりました。また、私は県内で就職を考えているため、地域を大切にしている仕事に魅力を感じました。ボランティアについて部署などは特に無く、自由参加であるのにもかかわらず職員の半分近くがいせさきまつりに参加していることは、非常に驚きました。育休取得率は HP 上には載っていなかったため気になっていましたが女性は 100%と聞き、誰でも働きやすい職場であるということが分かりました。近年では男性も数日育休を取得する人がいるそうで、くるみんマークも取得したそうです。くるみんマークはキャリア・プランニングⅡの授業で聞いたことがあり、取得していることは凄いと思いました。学生のうちは何もやらなくていいと仰っており意外でした。資格などを取得するために頑張るだけでなく、二度と戻れない学生生活を旅行などにたくさん行って充実した日々を送りたいです。

櫻井様に対して行ったインタビューでは入社前と後でイメージと違った話や職場の雰囲気などを聞き、取材インターンシップだからこそ聞くことができる話であると思いました。私も今までは金融業の窓口は早い時間に閉まるため早く帰ることができると思っていましたが閉まってからの方が忙しいということは意外でした。また、金子様が仰っていた様に女性の育休取得率は 100%と聞き、櫻井様からはマタニティサイン用の制服があると知り本当に良い職場であると思いました。マタニティ用の制服があるだけでも女性は働きやすいと思うしそのような準備がされていることは非常に良いと思います。学生の時の手話部が仕事に活用された話はとても素敵な事であると思いました。自分も所属している聖歌隊が直接何かの役に立つかは分からないが活かすことができたらいいと思いました。

今回の取材インターンシップでインタビューを行ったお二人は気さくな方で自分はテレビで見るようなインタビューのように進めていくかと思っていましたが、気軽に話していいと仰ってくださり、緊張していた自分は少し落ち着いて話を進めることができました。人のことを気遣い、優しく接することができるような人になりたいと思いました。金融業は今まではそれほど気になってはいませんでしたでしたが地域を大切にする信用金庫は少し気になりました。また、アイオー信用金庫様の駐車場が見つからず、歩いていた女性に聞いたときにその女性も長年アイオー信用金庫様にお世話になっている、と仰っていました。そのことからアイオー信用金庫様は地域を大切に、多くの人に愛されているような存在であるということが分かりました。取材インターンシップ本番で有意義な時間を過ごすことができ、残りの事後研修も一生懸命取り組んでいきたいです。

0183068 黛優菜

今回、取材インターンシップではアイオー信用金庫様に訪れました。大学入学後、初めての企業訪問ということもありとても緊張している中での取材となりましたが、多くのことをお聞きすることができました。

アイオー信用金庫様では、社員の櫻井さんと役員の金子さんに取材をしました。お二方への取材で、最も印象に残っていることをそれぞれ挙げていきます。

まずは、櫻井さんへの取材で印象に残っていることについてです。それは、信用金庫は確認作業が多いということです。事業内容で個人的に力を入れていることとして、櫻井さんは、確認をすることだと仰っていました。以前の私は、信用金庫について、お金を扱う職業であるため、大変な仕事であるのだろうと曖昧なイメージしか持っていませんでした。しかし、今回櫻井さんの話を聞き、取材前より信用金庫についてのイメージが以前より明確になりました。信用金庫は、15時に窓口が閉まって業務終了ではなく、15時からが業務の本番であり、そこから何度も不備がないかを確認していくそうです。そのため、確認作業が業務の中で最も重要なことの1つであることを知ることができました。

次に、金子さんへの取材で印象に残っていることについてです。金子さんへの取材では、大学生は就職のために何もしなくてよいということが最も印象に残っています。今しか楽しめない大学生活を、大学生の内は満喫してほしいというように仰っていました。今までの私は、何となく大学生活を送り、とりあえず資格を取得したいというように、「なんとなく」「とりあえず」で大学生活を過ごしてきました。しかし、金子さんへの取材を通し、これからは自分のやりたいことや、やらなければならないことに今より積極的に取り組んでいくことが大事であると分かりました。また、アイオー信用金庫様の育児休暇取得率や、ボランティア、金子さんのワークライフバランスの考え方に強く魅力を感じました。アイオー信用金庫様の女性の育児休暇取得率は、100%だそうです。男性も数日取得する人は増加傾向にあるそうで、育児休暇の制度が充実しているのだと感じました。また、地域のボランティア活動は会社の宣伝活動の面より、地域貢献の思いが強いのだと聞き、地域密着の企業であるのだと再認識することができました。また、金子さんはワークライフバランスのバランスが取れることが、当然であるという風に考えているそうです。これらのことから、アイオー信用金庫様では、社員も地域の人々も、大切なステークホルダーであると考えているのだと分かりました。

取材インターンシップでは、アイオー信用金庫様の業務の大変さ、楽しさ、考え方について知ることができました。多くの話は学生の立場からすると魅力的なものが多かったため、アイオー信用金庫様はとても働きやすい環境が整えられているのだと思いました。私は将来、金融関係と保険関係のどちらかに就職をしたいと考えているため、今回の取材インターンシップをきっかけに、他の企業様についても調べ、様々な企業について知りたいと思うきっかけになりました。

0184043 松下実希

2019年8月7日(水)、大学の取材インターンシップの授業でアイオー信用金庫様を取材させていただいた。計3名のグループを組み、境支店融資係の櫻井綾花様と、人事部副部長の金子正則様に取材を行った。今回は、アイオー信用金庫様への取材で学んだことや、その感想について述べてゆきたい。

最初に、櫻井様のお話を伺った。櫻井様は入行して6年目の職員であったので、入行の経緯や入行後に苦労した経験など、入行する前と後の考え方の変化が分かるような質問を主に行った。櫻井様は入行後、営業や融資など、様々な業務を経験された。それらのお話から、信用金庫のお仕事の大変なところを知った。大きなお金が動くお仕事であるため、確認に次ぐ確認が必要になること、窓口が閉まった後の業務が多いことなど、櫻井様のお話を伺って初めて知った。

また、取材を行う前、櫻井様も共愛学園前橋国際大学国際社会学部国際社会学科の心理人間文化コースをご卒業なさったのだと伺った。私も現在同じ専攻を学んでいる最中である。私は、この専攻から金融の職に就くことは難しいのではないかと考えていた。しかし、櫻井様は大学に在学している時から金融の仕事に興味を持っていたため、ファイナンシャルプランナーの検定の勉強をなさっていた。在学中にはできなかったが、就職後に同検定を取得なさったという。これらのことから、アイオー信用金庫様は大学の専攻や経歴を重視するのではなく、就職後の仕事へ取り組みを重視する職場なのだと感じた。

次に、金子様のお話を伺った。金子様には、地域貢献や育休取得率などの業務に関することや、学生に求める事を主に伺った。アイオー信用金庫様は、女性の産休・育休の取得率がほぼ100%であると伺った。男性に関しては、数日間取得できるようだ。更に、アイオー信用金庫様はくるみんマークを取得なさっている。金子様は、名刺にもくるみんマークを載せていらしかった。しかし、名刺交換の際にそのことが話題上がることは今までなかったそうだ。アイオー信用金庫様は産休・育休支援に積極的な企業にこのマークが知られていても、他の企業ではまだ認知されていない可能性があるのではないかと感じた。

また、どのような学生に就職してほしいか？という質問に関しては、地域のことが好きで、笑顔の人にきてほしい、という話を伺った。理想の人材を挙げればいくつでも挙げる事が出来るが、集団で仕事を行うため、最終的に自分の良いところを発揮することが出来ればよいと伺った。このことから、集団やグループで一つのことに取り組むうえで、最低条件として挙がるくらい、「笑顔」は重要視されうるものなのだと学んだ。

訪問取材全体を通して、アイオー信用金庫様の皆様は非常に優しくかった。最初は緊張していたが、その優しい態度で次第に緊張がほぐれ、取材ができたと感じる。最初は敬語がうまく話せずに言葉がつかえてしまったが、皆様の優しいお言葉で緊張がほぐれてから、マナーや敬語を自然と表すことが出来たと感じる。うまく話さなければ、ということに気をとられ、お時間をいただいていることへ感謝の気持ちや、敬意を忘れてしまっていたの

だ。感謝の気持ちや敬意を意識してこそ、マナーが身につくのだと学んだ。確かに、マナーに関する技術や知識はもちろん大切だ。それを媒介とすることで、より効果的なコミュニケーションをことが出来る。しかし、まずは感謝の気持ちや敬意を忘れないことが大切だと気が付いた。自分のやるべきことを見失わず、これからも様々なことに取り組んでゆきたいと思う。

2019 年 9 月 13 日(金)

アイオー信用金庫取材記録(B チーム)

訪問先 アイオー信用金庫様
日 時 2019年8月9日(金)午後1時
場 所 アイオー信用金庫本店 2 階会議室
学 生 共愛学園前橋国際大学
国際コース 2 年 富澤陽菜、尾池優香

インタビューリスト
人事部副部長 金子 正則 様

1. 経営理念・経営目標

経営理念としては、中小企業や地域住民のための地域金融機関として、相互扶助の精神に基づき、地域の皆様のニーズに応えること。また、『共存同栄』として、地域社会反映への奉仕、中小企業の健全な発展、豊かな国民生活の実現、の三つのビジョンを具現化するために、地域・お客様、金庫、職員の三社が三位一体となって同じように反映していくこと。

2. どのような経緯があって名称変更をしたのか。

H14伊勢崎信用金庫と太田信用金庫が一緒になった。もともとその愛称がアイオー信用金庫だった。正式名称と愛称が違って、お客様により親しみを持ってもらえるようにするため。

3. 企業サポートによる効果として、どのようなものがあったか。

様々な視点と企業との繋がり幅は幅広く関わりあっている。事業だけでなく、旅行やスポーツで親睦を深めることによって協力関係を保っている。

4. ボランティアに力を入れていたことで、どのような影響があったのか。

行う目的は、見返りを求めないのが前提。しかし、いろいろな場所に赴くことによって、PR 効果もある。野球や吹奏楽部も行い、有名になると、お客様との話題作りになり、取引を行いやすくなるようにするきっかけにもなる。

5. 育休取得率・女性比率。

女性(パートの方も含め)41.3%育休(1年2ヵ月)取得率は100%。子供を産んだ女性は必ずとっている。男性は何日かしか取れていないのが現状。育児休暇中は給料がもらえないため、生活を営むのが困難。育休をとっている間、誰が代わりにやるのか。

6. ワークライフバランスについてどのように感じているのか。また、バランスを維持するときに困難なことはあるのか。

ワークライフバランスを保つために、趣味とプライベートのメリハリをつけることを大切にしている。仕事をする時には、一生懸命にやり、仕事の時間が終わったら(17:15)、仕事のことを考えず、家庭や趣味などのプライベートの時間を大切にすることによって、バランスを保っている。

7.入社の際緯・やりがいについて。

大学を卒業してからずっと働いている。支店長として4年間働いた後、今年の4月から人事部として働いている。

嫌なことも沢山あったが、楽しい、よかったと思うこと何かをお客様にやって「ありがとう」「助かった」という言葉、顔を見ることができること。提案して、満足してもらえると嫌なことも忘れられる。ミス(計算間違い、金銭的な間違い)をやってしまう。金融機関＝完璧な人とのギャップが信用を失う。ミスをしてしまった時は、上司に相談して、悩みが軽くなる。同じ立場で共有して同じく考えてもらえる。支店長になると、自分で解決しなくてはならない。そのため、インターネットを利用したり、開き直って覚悟を決めて行った経験をしたりする。言葉の取違いや本部とお客様との間に立つて行うのが難しい。

8. 業務の中で困っていること。(＋学生にやってほしいこと。)

キッズ金融塾(今年は8/1に行われた)の企画・提案を学生してほしい。このイベントは、11年前に金子さんが提案して、企画した。きっかけは、他の銀行の活動を新聞で見て、やろうと思った。このイベントの目玉は、1億円を持つことができることである。

9. どんな学生に来てほしいのか。

地元を愛し、良い場所であると思っている学生にきてほしい。伊勢崎と太田を中心に地域に密着して活動をしているため、その場所に思いがある人材を必要としている。実際に、地元の出身だけでなく、様々な場所の出身の職員の方がいる。

しかし、ニコニコして、愛想の良いような人柄であるといいとおっしゃっていた。特に窓口で働くような女性には、信用金庫の顔としてお客様と接するので、その時の対応によって信用金庫の印象にも影響がある。

10. 学生がやっておくべきこと(資格など)。

取っておくべき資格などは特にはない。学生という立場をしっかりとやりきってほしい。学生時代にしかできないことをやり、社会人になったら気持ちを切り替えて仕事に取り組んでほしい。

社員・職員の方 境支店融資係 櫻井 綾花 様

1. 経歴や入社の際の経緯。

入行して6年目。学生の時に金融機関と建設で悩んでいたが、企業研究や調べていくうちに自分に合っていると思っていたため。

2. 入社前と後の考え方の変化。

窓口は3時まで。3時から5時までの間が本当の勝負。お客様から預かった数字合わせを精査するのが大変だった。

3. 内定をもらうために努力したこと。

お金を取り扱うところなので、何がしたいのか人事の方に伝わるようにしていた。地元に貢献して、様々なイベントに参加してみたい。

4. 入社して、苦労したこと、楽しかったこと。

入社から3年目まで窓口

窓口の対応によって金庫の印象が変わる。ほぼ女性が対応している。

4年目に支店に移動して、渉外係(営業)

毎月お積み立て(貯金)してもらい、口座引き落としよりは誰かが取りに来る方が嬉しいというお客様の要望を叶える。見守り隊の役割もはたす(一人暮らしの女性)。お客様の面談をきっかけに、保険や投資信託、ライフプランに合わせた融資の相談・提案をしている。元々のお客様以外にも新規のところにもいく。最近は共働きが多くなり、家にいないため、個人や企業に直接訪問する。男性の方がノルマを課せられることが多い。情報を取りに行くとポイントに換算される。取りに行った情報を基に形作られて行くポイント制になって、月にどのくらいとったのかグラフで表示される。書類のミスをしないように気をを使うのが大変だった。お客様と話して、金融以外のことも話せるようになること。月一回しか会わない自分のことを思ってくれていると実感した時が楽しいと思う。

6年目に融資係に配属

5. 仕事と生活の両立について、どのように感じているのか。また、気をつけていることはあるのか。

お客様の生活の時間(仕事帰り、休憩時間など)に合わせて仕事をするので、帰りが遅くなってしまっていた。しかし、融資係になってからは定時に帰れるようになった。それぞれの部署や係によって仕事と生活のバランスが異なる。

6. 仕事と生活の中で、一番大切にしていること。

健康でいることが大切。仕事をするにも、遊ぶ時にも、自分の体がしっかりしていなければ、どちらもできないと思うため。

7. 仕事のやりがい。

自分が融資を担当したお客様の建物などが実際に形になったのを見た時に感じる。自分が事務処理したことや建物を建てるために足を運んで話したことが生きているのだなと感動する。

8. 職場の雰囲気。

職場の方は、優しく良い人ばかり。人事の担当の方と一对一の面談があり、相談にも乗ってもらうことができ、人事相談がしやすい環境である。また、職場の環境が合わなかった場合、他の支店に移動することができるように、違う環境があるということは良い点である。

しかし、職場の環境は入ってみないと分からないことが多い。働いていく中で、特に長く働きたい時には、業務内容よりも人間関係が大切である。

9. 今後のライフプラン

このままアイオー信用金庫で働き続けたいと考えている。育休・産休制度も取ることができマタニティ用に制服もあることから女性も働きやすい環境である。また、信用金庫(銀行関係)はカレンダー通りに進むため、祝日と土日は必ず休みになる。また、夏休みはないが、年末年始と1年のどこかでリフレッシュ休暇(連続5日間)をとるが決められており、このことから福利厚生が整っている。しかし、支店によっては日曜相談会などのイベントが開催されるところもあるが、その代わりに水曜日を休みにするなど対策が取られている。

10. 学生時代に行って役立ったこと(+具体的なエピソード)

ファイナンシャルプランニングの資格があると良いと思う。この資格は仕事についても使うので、大学生の時から学んでおくと楽負だと思う。

11. どんな学生と働きたいか。

明るくてやる気のある学生と働きたい。たとえ失敗してしまっても、率先して行動するような人が良い。

以上

感想

尾池優香

今回、初めて金融機関の企業の調査、訪問をしました。元々、金融業に就くためには数学が得意でなければならないと思い、私とは縁の遠い職業だと思っていました。しかし、アイオー信用金庫様は、融資や預金などの業務の他に、地域の方のコンサルタントも行なっていると聞き、興味を持ちました。そして、今回、アイオー信用金庫様に取材をしてみたいと思い、申し込みました。

実際にインタビューをしてみて学んだことは2つあります。1つ目は、地域の繋がりをとても大切にしているということです。アイオー信用金庫様は幅広く地域の活動に参加しています。金融だけでなく、世間話をし合えるような関係を築いていると聞き、とても地域に根ざした信用金庫なのだと思います。様々なボランティアやセミナーの活動が信用金庫のPRに繋がるきっかけを生み出し、その信頼関係を築き続けていることがいまでも愛される信用金庫になっているのだと感じました。2つ目は、仕事に対して熱い思いややりがいを感じて仕事をする事の大切さです。今回インタビューさせていただいた金子さんや櫻井さんにお話を聞くと、苦しいこと、辛いことは今までにたくさんあり、覚悟を決めたときもあったとおっしゃっていました。しかし、今まで金子さんはアイオー信用金庫に勤めており、櫻井さんもこれからもアイオー信用金庫で働きたいというお話を聞きました。このように思うことができるのは、この仕事（信用金庫）でやりがいを感じているからなのだと学びました。今の時代、自分に合う職業を求めて、転職をする社会人が増加しています。しかし、このように長く同じ仕事を続けている、続けたいという気持ちにはお客様の感謝の言葉があるのだと知りました。私も、将来、どんな職業に就いたとしても自分の仕事に対してやりがいを感じることが経験することができれば、仕事をする意義や仕事を続けることができるのではないかと思います。

富澤陽菜

私はもともと金融機関に興味があり、今回の取材インタビューは、私にとってとても刺激的なものになりました。信用金庫ということもあり地域にとっても密着していて、実際にキッズ金融塾や伊勢崎祭りへの参加など様々な事業に参加しており、仕事内容がお金を扱う金融関係だけではなく、銀行のイメージからはほど遠いような事業も行っていて、かっちりとした仕事のみをこなしているという印象だった銀行のイメージが覆されました。また、お客様のことをすごく大事にしているという点にもすごく惹かれました。企業によるサポートも幅広く行っており、仕事のみでなく、サークルのような団体を作りお客さまとの交流も頻繁に行うことで長年のお客様からの信頼を獲得しているという話も聞いて、会社と顧客の関係維持も会社側にはとても大切なことなのだと勉強になりました。私が実際に今回インタビューさせていただいて一番印象に残ったことが、会社内の雰囲気や人間関係がとても良いなということです。仕事をしていくうえで働く環境はとても大事だし、環境は調べてもすべてをわかりきることはできなく、実際に働かないと感じ得ないものなので、このアイオー信用金庫 伊勢崎支店さまの良い雰囲気をきちんと覚えておきながら、今後の企業選びにも活用していきたいと思いました。そして、今回インタビューしたお二人は、仕事をしていくうえで大事にしていることとして、私生活とのメリハリをきちんとするというをおっしゃっていて、今回の取材で、金融機関の仕事内容だけでなく、今後の就職活動に関わる様々なアドバイスもいただけた気がしてとても嬉しかったです。金融機関に対して、今までは堅苦しく難しい

印象しかなかったけど、今回インタビューさせていただいたことで、金融関係の仕事により興味を抱くことができ、さらに以前よりは企業というものの具体的なイメージがついてきたので、今回の経験を踏まえて今後の自分の活動にうまく反映させていきたいと思います。とても貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

以上

2019 年 9 月 17 日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 エアムーブ住宅株式会社様
日 時 2019年9月10日(火)午後1時
場 所 エアムーブ住宅株式会社
学 生 共愛学園前橋国際大学
情報・経営コース 2年 川田 美桜 チームC
心理人間文化コース 2年 齋藤 未来 チームC

インタビュー記録

代表取締役 深川 修 様

1. 経営者としての仕事内容について教えてください。
元々経営者になるつもりはなくてなってしまうている。まだまだ分からない部分がたくさんあるから助けてもらいながら仕事をしている。
2. 社長になる際に大変だったことはどのようなことですか。
社長になる際に大変だったことは全部で、そのうち社長になるから準備しておいてと言われることもなく、世代交代の一環でなぜか選ばれて、分からない中で日々やるしかなかった。
3. 経営ではどのようなことを大切にしているのでしょうか。
経営では「人を幸せにすること」を大切にしている。社員や仲間のために何かをやろう！と考えている。
4. 社員育成のために行っていることは何でしょうか。
社員の可能性を奪わないように、チャレンジする機会を与えたいと思っている。
5. 関連会社とはどのような関係を築いているのですか。
関連会社に、司コーポレーション白沢工場があり、前橋と沼田で離れてはいるけれど日々の仕事の中で助け合いながら関係を築いている。
6. 人生で一番苦勞したことを教えてください。
問題が起きると社長に回ってきて、問題を解決すると、また違う問題が起きての繰り返しで大変だけれど、苦勞したことを忘れてしまう。苦勞を考えないよう

にしている。苦勞をするのが仕事だと思っているから、苦勞を苦勞だと思っていない。苦勞は成長の糧で、今苦勞していることはきっと役に立つし、良い経験だ。

7. 学生時代にやっておくべきことについてアドバイスを聞きたいです。

1つ目は、卒に捕らわれずにできる限り色んなことをやること。2つ目は、バイト先の人や、地域の人など、大人の人と関わるために積極的に外に出ていくことが大事。嫌なことがあっても良い経験になるから、めげずに折れずに！

8. 儲けるためにはどうするべきか。

なかなか上手くはいかないが、周りにかかわる人たちに喜んでもらえるようにしている。

9. 学生時代に何をしていましたか。

みんなに自慢できるようなことは特に何もしていなかった。

10.1 日の仕事の流れを教えてください。

設計のプランを考えたり、仕事関係の人と打ち合わせをしたり、現場を見に行ったり、会議をしたり、経営者の集まりに参加したりしている。毎日同じ仕事をするというわけではなくて、日々違う仕事をしている。

11. 経営者同士の集まりは何をしているのですか。

中小企業家同友会で、仕事とは？働くこととは？ということについて話している。

12. 今の学生に求める能力は何ですか。

人の役に立ちたい！や、誰かのために何かをやるという意識を持っている人を求めている。

13. 人生で1番嬉しかったことは何ですか。

何かしら嬉しいことが毎日ある。家族といるときも、みんなと話しているときも嬉しい。

スマイルクリエイター 北爪成実 様

1. 入社の経緯について教えてください。

私の家がエアムーブ住宅でずっとエアムーブ住宅に住んでいたことと、就活の際に好きなものは何かを考えたときにやはり自分の家が好きということでエアムーブ住宅に決めた。

2. 1日の仕事の流れを教えてください。

日にとっていろいろな仕事をしている。営業事務という肩書だが、本社にすることもあればモデルハウスやゲストハウスの見学の準備、管理、お客様と話しをして契約をとることや、イベントの企画、運営、サポートをしている。お客様向けの情報誌を書く、スーモ、群馬の家などの雑誌に載せるための取材の手配や写真など様々なことを行っている。ルーティーンのような仕事はない。

3. 仕事でやりがいを感じる時はどのようなときでしょうか。

お客様にエアムーブ住宅をいいと思ってもらったり、家を建ててもらったりすること。エアムーブ住宅の北爪のファンになってもらうこと。イベントが成功した時。情報誌が完成した時。OBの方に冊子を楽しみにしていると言われた時でやる気にもつながる。

4. 仕事とプライベートの両立はできていますか。また、両立のために意識していることはどのようなことでしょうか。

両立はできている。お休みをお休みとして楽しむために5日間で計画を立てて全力で終わらせる。

5. 学生時代にやっておくべきことについてアドバイスをお聞きしたいです。

大学生の時代ほど自由な時間があるときはない。まとまったお休みが取れるのは今だけなので旅行に行く。まとまった時間が取れるからできることをする。大学時代の出会いは一生続くので、友達を増やしたり人の輪をつなげたりすることは大切。勉強だけに集中できる期間なので興味のあることの勉強はおもいつきりする。図書館で有名どころの文学本を読む。

6. インターンシップには参加しましたか？

朝日印刷工業という印刷物や地域の情報誌を扱う会社に行った。もともと文章をまとめたり考えたりするのが好きだったので、それを中心に考えていた。全く違う業界だけど結果としてここでも似たようなことができていたのでよかった。

7. 学生時代に、やっていたよかったことは
アルバイトでの経験。全部やることは違うけどお客さんへの対応はどこに行っても大きく変わることはないので今でも役に立っている。

8. 仕事をやっていくうえで大変なことはありますか？
元々建設の勉強をしていたわけではないので、知識ゼロの状態でのこの業界に飛び込んだので知識や情報を常に得ていかなければならないし、お客様と対等に渡り合えないから勉強がずっと必要。逆を言えば、全く知らない業界でもなんとかなるので自分の間口を狭める必要はない。

感想

川田美桜

今回の取材インタビューで私は大きく3つのことを学びました。まず1つ目は社会人と話すことの難しさについてです。社会人の方と話すということで敬語はもちろん大切ですが、何よりも初対面の方に失礼のないように話すということが難しかったです。2つ目に、話を広げるということの難しさを感じました。質問を用意していったけどそれだけでは足りなくて、そういう時に臨機応変に対応できる力が必要なのではないかと感じました。例えば、質問の答えからさらに質問をして話を深めていくことが出来るともっとたくさん話を聞くことが出来るのではないかと思います。3つ目は、トーク力についてです。トーク力は大学生活や就活ではもちろん必要な力であるけど、一生必要な力だと感じました。営業の仕事や公務員でも人と関わることがない仕事はないと思うので人と話す力や聞く力はとても重要だと思います。さらに、トーク力は学生と社会人の違いなのではないかと今回の取材を通して学びました。今回学んだことを今後も活かして大学生活充実させていきたいです。

齋藤未来

私は、新しいことに挑戦したいという思いから取材インターンシップに参加することを決めました。実際にエアムーブ住宅株式会社様を訪問し、社会人の方と話をすることができ、貴重な経験になりました。

取材インタビューを通して、学んだことや印象に残っている事柄が2つあります。1つ目は、話題を広げることが難しいということです。現代社会においてコミュニケーション能力は重要であると考えるので、社会に出てから恥をかかないよう、積極的に大人の方と関わるのが重要だと感じました。2つ目は、苦労を苦労だと思わないということです。何か問題が起こると社長が問題を解決し、問題が解決し終わると、また違う問題が起こるという現状があることは大変だけれど、苦労していることは将来役に立つから苦労を苦労だと思わないようにしていると深川社長がおっしゃっていました。その言葉を聞いて、苦労も嫌なことも、良い経験になり将来役に立つものだという前向きな気持ちを持って乗り越えようと感じました。

今回の取材インターンシップを通して、学んだことや印象に残っていることを
今後の学生生活に活かして、実りある学生生活を送りたいです。

以 上

2019 年 9 月 17 日

2019 年取材インターンシップ 取材記録

訪問先 エアムーブ住宅株式会社様

日時 2019 年 9 月 10 日(火)午後 1 時

場所 エアムーブ住宅株式会社

学生 共愛学園前橋国際大学

情報・経営コース 2 年 阿部 楓 チーム D

情報・経営コース 2 年 尾崎 史奈 チーム D

情報・経営コース 2 年 吉井 萌葉 チーム D

インタビューリスト

代表取締役 深川 修 様

1. 経営者としての仕事内容について

私は本当に経営者になるつもりは無くてなってしまった。まだまだ色々とみんなに助けられながらこの仕事をしている。会社の 1 番上なので総責任者として仕事をしている傍ら、今は設計の仕事とかもしている。会社がみんなで上手く回るようにやっている。

2. 社長になる際に大変だったこと

全部が大変だった。自分の場合は元々決まって「そのうち社長になるから準備しておけ」の形でなったわけではなくて、会社自体の世代交代の一環で何故か選ばれてしまったところがあるので、非常にびっくりしたし全てが大変だった。準備してないんで。本当に全然分からなかった。右も左も。今も。とりあえず分からない中で日々やっていかなくちゃいけないくて、大変だったけど今まで一緒にやってきた先輩や後輩、仲間もいるので助けられながら、今に至る感じ。

3. 経営ではどのようなことを大切にしているか

経営理念に掲げている「思いは人へ環境へ」人を幸せにすることが会社のある意味だと思うので経営のいろんな判断をしていかなければならない中ではお客様にためになることをやろう、一緒に働く社員や仲間のためにやろう、作ってくれる大工さん・職人さん・業者さんとかのためにどうしたら良いか常に考える。なので会社なので儲けないといけないが、儲けるためにはどんな手段を使っても良いとか、少し誤魔化したり手を抜いたり安く仕上げて高いお金で売ったりとかやろうと思えば出来るが絶対やらない。周りに関わる人達がいかに幸せになるか良くなるかを考えて判断する経営をしている。中々上手くはいかない。でも気持ちだけはそういう気持ちで。

4. 社員育成のために行っていること

色々日々の仕事をしながら育成していく。心がけているのは色々チャレンジする機会を与えたい。やらせないとか、まだ早いとか、1 人の社員さんの可能性を奪わないように。意識、やりたいとか見れば機会を与えたいというような育成を心がけている。

5. 関連会社とはどのような関係を築いているのですか。

関連会社には、司コーポレーションという会社があり、主にエアムーブ住宅の壁や基礎の材料などを製造している。今の司コーポレーションの社長は、以前エアムーブ住宅の専務であった。そのため、エアムーブ住宅と司コーポレーションは、繋がりが深い会社となっており、良い関係が築けているという。エアムーブ住宅は前橋市にあり、司コーポレーションは沼田市にあるため、社員同士で頻繁に行き来することはできないが、行事ごとや仕事の中で助け合いながら業務を行っている。

6. 人生で一番苦労したことを教えてください。

今の社長という仕事にも苦労はしているが、基本的に苦労したことを覚えていないという。そのため、具体的な例はない。その理由は、苦労したことはいずれ自分の成長の糧になっており、それがあったから今の自分があると考えているからだそう。誰かが、社長は次々と発生する問題をすべて解決していかなければならない仕事だと言っており、その通りだと思った。それからは、社長は苦労するのが仕事だと考えている。

7. 学生時代にやっておくべきことについてアドバイスを聞きたいです。

とにかく色々なことを枠にとらわれずにできる限り沢山やるのがいい。それと、大人といっぱい関わるといい。学内だけでなく、色々な人と関わった方が後々いいと思う。色々な人と関わる中で、嫌なこともあると思うが、めげずに頑張るのが大切だと思う。

スマイルクリエイター 北爪成実 様

1. 入社の経緯について教えてください。

就職活動の際に自分の好きなものを考えてみると、自分の家が好きだということに至り、その家を建てたエアムーブ住宅に話を聞きに行ったことがきっかけ。そこからはトントンと就職した。

2. 1日の仕事の流れを教えてください。

日によって色々な業務をする。肩書きとしては営業事務になるが、エアムーブ住宅の本社にいてもあれば、モデルハウスに入って案内をするために1日いることもあり、その日その日によって、いる場所もやる事も様々。例えば、二件隣にあるモデルハウス、ゲストハウスの見学ができる状態に準備をする、オープンの準備や、モデルハウスの管理、事務、他にも、営業の方ではお客様と直接話をしながら、契約を取る営業の方のサポートに当たる事務作業など毎日ある。エアムーブ住宅で行われているイベントのサポートや、企画して事務をして、企画運営も担当している。会社の広報、情報を発信していくことも行っている。お客様向けにお渡ししている日々のお便りのようなパンフレット、年に3、4回発行している。その情報誌の内容の作成、エアムーブ住宅を推していくためのお客様の目に入るような情報雑誌、スーモや群馬でおうちを建てる方のために向けた群馬の家という雑誌に載せるような写真や書体の手配など行っている。1日の流れとして説明するのは難しい。流れだとなかなか説明しづらいところがある。北爪さんの場合、1日で必ずこれをやってこれをやって終了する様な流れがあまりない。毎日ルーティンみたいに決まっていることをやるというよりかは、その日その時によってやる事が違うことを自分の肩書きにかかわらず色々やらせてもらっている。エアムーブ住宅の会社自体がそんなに大規模な会社ではなく、少人数の中で、それぞれが色々な仕事を持って全員でやるため営業事務にとらわれず色々行っている。

3. 仕事でやりがいを感じる時はどのようなときでしょうか

仕事でやりがいを感じる時は、お客様にエアムーブ住宅の会社を良いと思っていただけてうちで建てていただけていただくことが一番の会社としての目的でもある。私が接客をしたお客様がエアムーブ住宅を好きになっていただけて、欲を言えば北爪のファンになっていただけて。あなたが接客をしてくれてあなたが担当してくれたからここに決めたっていただけておうちをエアムーブ住宅で建てていただいくというのが一番やりがいを感じる。また、一番嬉しい瞬間でもある。もっと細かいやりがいを出すたくさんあるが、例えば、イベント、企画などで、微調整をしていくと色々大変なことも多かったりするが、イベントを企画してから準備をして、そのイベントが無事終わると、とりあえず良かった、終わったというようなやりがいを感じます。他にも、お客様向けに作っている、エアムー

ブ住宅の情報の冊子、その内容のほとんどを私が色々な取材をしたり写真を撮ったり文章考えたりしており、ようやく一つの形になったときは、また今回も無事に完成してよかったなと感じる。実際にものを見るとさらによかったと感じる。それがやりがいである。おうちをすでに建てていただいたお客さんのうちで、その方達にも冊子をお送りして、冊子自体を毎回楽しみにしています、というお声を掛けていただいていることも、やりがいも感じつつやる気を出させていただいているところがある。

4. 仕事とプライベートの両立は出来ていますか

仕事とプライベートの両立は出来ている方だと思っている。お休みがちょっと増えたのでとてもありがたいと思っている。お休みを思いっきりお休みとして楽しめるように出ている 5 日でしっかり仕事を終わらせることに全力を尽くすことが両立させるための秘訣である。何も心配事がない状態でお休みを迎える事が出来るのがベストだと思いながら仕事をしている。

5. 学生時代にやっておくべきことについてアドバイスをお願いします。

自由がある時間帯が多いとき、まとまった休みが多いとき旅行に行っておくべきである。社会人になると、学生の時より時間の融通が利かなくなるため、まとまった時間に出来ることを有効に使うべきである。また、学生の時に出来た友人は一生関わりがあることが多いため、友人をたくさん作って人の輪を広げておくことが大事である。サークルやバイト先、シャロン祭の実行委員などたくさんある。学生の時にしか出来ない事をやっておく。例えばシャロン祭の実行委員など。勉強もしておくべきである。自分さえやる気になれば講義は取り放題なため、興味のある物は積極的に学ぶこと。また、本も読んでおくと良いと思う。行ってみたいところには積極的に足を運んで見る方がいい。

各自の感想

このようなインターシップや直接社会人の方とお話をするのは初めてで最初は不安でしたが、アットホームな雰囲気の中で落ち着いて話すことができました。2 時間ほどの短い時間で様々なお話を聞けて良かったです。また深川さんの話を聞いていくうちに会社に対する熱い思いが伝わってきました。それは事前の調べだけでは分からないことです。実際に、訪問して面と向かって耳から聞くことで知り得なかった情報以上の話を聞くことができました。さらに職場の雰囲気や他の社員さんの様子を見ることで会社全体のイメージを掴むことができました。このように貴重な経験ができたのでしっかりと心に留め、これからの学生生活や就職活動・その先の社会人としての生き方に活かしていきたいと思いました。そして事後研修では最終プレゼンを通してエアムーブ住宅の特徴をしっかりとみなさんに伝えていきたいです。(阿部)

取材インターンシップを受講し、経営者や社員の方から直接お話を伺うことができたのは良い経験となった。特に、深川社長へ人生で一番苦勞したことについて質問した際に、覚えていないと返答されたことが印象的だった。苦勞したことでも何かの役には立つと思っているから、苦勞とは考えていないと聞き、驚くと同時に、そのように前向きに考えられるようでないと経営者というのは務まらないのであろうと思った。話の内容だけでなく、それに伴うマナーや企業の事前学習なども自分の足りない点を学ぶ良い機会になった。中でもそれを感じたのは、質問が終わると会話が続けられず、詰まってしまった時である。次に似たような機会があった時のためにも、普段から会話の引き出しを増やしておきたいと思った。今回の経験を生かして、今後の学生生活や就職活動などを頑張りたい。(尾崎)

今回、取材インターンシップというものに参加して、社会人と話すことに緊張していたが、良いインタビューが出来た。北爪さんの話では、自分の会社に対してとても熱い思いが伝わってきて、全ての仕事に対して全力で取り組んでいることがわかった。また、社長の話では、毎日苦勞しつつも楽しさを感じるような日々を送り、苦勞をしても今後の自分の糧となるという言葉がとても心に残った。社会人の方、社長など、普段話すことできない方々と関わり、色々な話をするという貴重な経験をすることができ、吸収することがとても多かった。また、様々な考え方やものの見方を学ぶことができた。他にも、社会人としてのマナーや心構えなどインタビュー以外でも学ぶことが多くあった。自分の気持ちが引き締まるような体験をすることが出来た。事後研修では、取材をして新たに分ったことや素晴らしいと感じたことなどを発表出来たら良いと思う。また、今回学んだ事を今後に生かせるよう、自分が出来る所から実践していきたいと考える。(吉井)

2019 年 9 月 17 日

2019 年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 エアムーブ住宅株式会社様

日時 2019 年 9 月 10 日(火) 午後 1 時

場所 エアムーブ住宅株式会社

学生 共愛学園前橋国際大学 心理・人間文化コース1年

栗原 麻衣 E チーム

深津 夕希 E チーム

荻原 希々 E チーム

インタビュー記録

代表取締役 深川 修 様

1. 仕事内容を教えてください。

会社の総責任者であり、経営をしながら家の設計もしている。

2. 御社の歴史を教えてください。

元々は司建設株式会社という名前で 40 年前に創業された。初代社長である松井様が 27 歳の時に独立という形で沼田市に拠点を置いた。30 年ほど前から会社の強みとなるエアムーブ工法を開発し、今現在も進化し続けている。今の名前になったのは 20 年ほど前である。以前は学校などの耐震工事も請け負っていたが、今はエアムーブ工法に専念している。

3. エアムーブ工法の特徴はなんですか。

まず、エアムーブ住宅とは名前の通り家の中で空気が自然の力で循環する仕組みの家のこと。最近ではエアコンなどの機械で空調を管理し、高性能な断熱材で熱を逃がさない家が多くなっているが、それはある意味密閉された窮屈な空間である。エアムーブ住宅は機械に頼らずにもともとある自然の力を使っているため、より快適に過ごすことができる家である。

4. モデルルームはどのように活用していますか。

家のデザインや雰囲気だけでなく、家の中で空気が循環するエアムーブ住宅の特徴を体感してもらうために活用している。

5. 社員食堂を設置した理由について教えてください。

モデルハウスを作る際に、ただお客様に見学してもらうだけではもったいないと考え、エアムーブ住宅に住んだ時どのような生活になるのかを体感してもらうためにキッチンを作った。そこでさまざまなイベントを開催したが、他にも活用できるのではないかと考え、また食堂のシェフとなってくれる人とたまたま繋がりがあったため設置した。

6. ちなみにどんなメニューがありますか。

本当に色々なメニューがある。料理名がわからないような普段食べられない料理が出てくる。シェフは2人いて、女性の方は肉料理、男性の方は魚料理が得意。とても美味しい。

7. 社長になった経緯を教えてください。

家を買うとなると客層が大体 30～40 代になる。その方たちと一緒に仕事をするために、社長の年齢も近くしている。初代は 40 代の時に 2 代目になり、2 代目も 50 代で代替わりした。深川様も 40 代で社長を任された。

8. 社長に任命された時どう感じましたか。

エアムーブ住宅では社長は世襲制ではないことは知っていたが、驚いた社長になるために仕事をしていただけでは無かったし、突然の指名で戸惑ったが自分にできることならやろうと指名を受けた。

9. 社長になる前に経営の勉強はしていましたか。

まったくしていなかった。強いて言うならば、中学校の耐震工事の現場監督を任されたことがあった。現場監督といっても小さな会社を任されたような感じだったのでいい経験になった。

10. 会社を経営する上で気をつけていることは何ですか。

第一に経営理念に基づいた経営をすること。それに加えて、お客様や仕事仲間が気持ちよく、幸せになれるような経緯をすること。誰かのためになるなら手間を惜しまずに、ズルはしないこと。

11. どのように人材育成をしていますか。

誰かに教えてもらうのが当たり前で、そうしないと何もできないのではなく、自分から興味を持って仕事をする人を育てることを目標にしている。そのために、若いから、経験がないからといって何もさせないのではなく、さまざまな機会を与えるようにしている。

12. 今後のビジョンについて教えてください。

エアムーブ住宅をより良くすることを常に考えている。漠然としてはいるが、お客様のためになることを愚直に考え、家だけでなく、接客やサービスなどの質を上げていきたい。

13. エアムーブ住宅が求める人材はどのような人ですか。

お客様に対しても、仕事仲間に対しても、相手のことを思いやれる人。

14. 新入社員の採用は誰が行なっていますか。

人事部の人。

15. 学生の頃にやっておいた方がいいことはなんですか。

何にでもチャレンジしてみる。自分が嫌だと思ふことや苦手なことをやっておくのも大切。

16. 学生の頃は何をしていましたか。

何もやっていなかった。だからこそ、今のうちにやりたいことはなんでもやった方がいい。

17. 学生時代の夢はなんでしたか。

何もなかった。今の仕事に進んだきっかけも、図書館で見た雑誌がきっかけだった。

スマイルクリエイター 北爪成実 様

1. 仕事内容を教えてください。

肩書は営業事務だが、実際には何でも屋のような存在。大きな仕事は、モデルハウスに来た人の接客、営業の人のサポートなど。他にもイベントの企画、準備、運営、広報、連絡係、ゲストハウスの使用状況の調整など。日によって仕事が変わるため、決まったルーティンはない。

2. 仕事を覚えるのは大変でしたか。

大変かと聞かれば大変だったが、いきなり専門的なことはしなかった。自分のできる最大限の事を頑張った。

3. やりがいはなんですか。

自分が接客したことで、エアムーブ住宅を選んでもらえた時に1番やりがいを感じる。

4. 仕事をする上で大変なことはなんですか。

専門的な知識が無い状態でこの会社に入ったため、お客様と対等に渡り合えるように日々勉強であり、ずっと努力しなくてはいけないこと。

5. もともこの業界に興味があったのではないということですか。

自分が建設業界に入るとは思ってもみななかった。就職活動が始まった時、自分の好きなものってなんだろうと考えてみて、自分の家が思い浮かんだ。そこからエアムーブ住宅に就職する事を考えるようになった。

6. 職場の雰囲気はどのような感じですか。

年齢も、やっている仕事もさまざまだが、お客様に幸せな暮らしをしてもらうという最終的な目標は同じためバラバラになることはない。和気藹々としていて、人同士の距離も近い。そのため、社員の意見も反映されやすい職場。

7. 就職のために頑張ったことはなんですか。

情報収集と目的を明確にすること。

8. 学生時代に頑張ったことはなんですか。

3年間シャロン祭の実行委員をしていた。遊びと勉強のメリハリをしっかりとつけること。

9. 受けていてよかった授業はなんですか。

インターンシップが社会に出る際にとっても役立った。会社に所属することとはどんな事なのか知ることができた。あとは自分の興味のある授業を取っていた。

10. 就職を意識したのはいつ頃ですか。

四年生になる前の1,2,3月くらい。

11. ワークライフバランスはどのように取っていますか。

休みの日に仕事のモヤモヤを持ち込まないために、仕事のある5日間は全力でやる事。程よく遊びつつ、仕事はしっかりやる。

12. 学生の時の夢はなんでしたか。

印刷関係の仕事で、編集や取材をすること。インターンも印刷関係のところに行った。

13. 今の仕事に就こうと思ったきっかけを教えてください。

就職を考えた時に1つの候補として出てきていた。自分の家がエアムーブ住宅だったこともあり、自分の好きな家を作った会社に興味を持ったことから、エアムーブ住宅をもっと広めたいと考え就職を決めた。

14. 学生のうちにやった方がいいことはなんですか。

まとまった自由な時間があるうちに自分がやりたいと思った事をやること。色々なところでバイトをしたり、友好関係を広げたり。

15. 他社と比べた強みはなんですか。

自然エネルギーを利用して住まい心地を追求していること。機械に頼らない暮らしがしたいというお客様向けの住宅を作っていること。帰りたくなるような家を提供していること。

16. 大学時代はどのコースに所属していましたか。

心理人間文化コース。

感 想

心理・人間文化コース 荻原希々

エアムーブ住宅様に取材に行くにあたって、とても緊張していましたが回答してくださった深川様、北爪様のお二方がとても優しく丁寧に質問に答えてくださり楽しく取材をすることができました。

まず、反省点としては質問者やメモを取る人などの役割を事前に決めていたのに、あまりスムーズに質問をすることができなかった点と、言葉に詰まってしまったり、無言の時間ができてしまったりした点、あまり質問を掘り下げ、会話をするように質問することができなかった点です。緊張していたということもありますが、事前に各自で誰がどの順番で質問をするのかなど、確認をとり練習をするなどしてスムーズに取材ができるように準備をしておくようにしておけばよかったと思いました。また、グループ内の連絡がほとんど無かったので、LINE を交換するなどしてちゃんと連絡を取りあえるようにしておけば良かったと思いました。この反省を今後の活動に活かしていきたいです。

良かった点は、エアムーブ住宅様へのプレゼン発表が練習通りにちゃんとできた点、考えていたよりも多くの質問をすることができた点と、だんだんリラックスして取材することができたことです。エアムーブ住宅様の皆様がとても親切だったこともあり、事前に練習していたためプレゼンは原稿を読むだけにならず、周りを見ながら発表をすることができました。また、取材に関しては事前に考えていた質問のほかにも質問をすることができました。また、1つ1つの質問に対してとても丁寧に回答していただけたので多くの情報を知ることができました。また、逆に回答者のお二方から質問をしてくださったりして、楽しく交流しながら取材をすることができました。

今回の取材インターンで他ではできない貴重な体験をすることができました。一年生のうちに 1 日ではあるけれどインターンに行くことができ、いい経験になりました。この経験を就職はもちろんこれからの活動に活かしていけるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

心理・人間文化コース 深津夕希

今回、エアムーブ住宅株式会社様に取材をしてみて、自身と社会人との違いを感じることが出来た。私たちが事前に質問を考えていたにも関わらず、緊張からうまく質問ができなかったり、無言になってしまった場面でも、冷静に応答してくださったり、逆に質問を投げかけて場を和ませていた。私は自分の考えを言うことが人より苦手であるが、社会に出る上で必須の能力なので、これからの大学生活で意識して身に付けていきたい。

次に取材内容で印象に残ったことが 2 つあるので述べていきたい。一つ目は、エアムーブ住宅様の社員の方々の距離の近さである。取材インターンシップの説明を受けたでアットホームな雰囲気が魅力だと伺っていたが、実際にインタビューさせていただいたときにも、代表取締役の深川さんは聞いたことを何でも答えて下さり、時には冗談をおっしゃるなど非常にラフに接してくださった。また、スマイルクリエイターの北爪さんが年齢差や業務の差はあれども自分の意見をよく聞いてくれるとおっしゃっていたことから、エアムーブ住宅様の魅力の一つであることが感じられた。二つ目に、過去に自分が経験したことが今後の将来に繋がるということが印象に残った。理由として北爪さんが、学生の頃インターンシップで経験したことと業界は違えども、現在似たような仕事が出来ていると話していたからである。また、深川社長も学生時代は何もしていなかったとおっしゃっていたが、建築業に興味を持ち、会社で経営に繋がる業務を経験していたことで社長になってからもそれが活かしているという話をしていた。このことから、その時には何てことない経験でも後に役立ってくるかもしれないと今回の取材で気づかされた。

エアムーブ住宅様にインタビューする前は、自分には就職という言葉はまだ縁のない言葉だと考えていたが社会人と接してみて、自身がまだまだ社会に通用する力を持ち合わせていないのを痛感したとともに、これから挑戦することが巡り巡って将来の職業に繋がる可能性があるので、時間を無駄にしないといけないと心構えをすることが出来た。今回の経験を参考にして、今後の大学生活また就職に活かしていきたい。

心理・人間文化コース 栗原麻衣

お二人のお話を聞いて、常に人のためになることを考えてお仕事をされているということがわかり、エアムーブ株式会社様の経営理念である「想いは、人へ、環境へ」という想いがとても伝わってきた。代表取締役である深川修様は、お客様はもちろん、一緒に働く職人の方や社員の方のことも考えた経営をされているということだった。深川様のお話や人柄から、アットホームで雰囲気のととても良い職場のように感じた。社長になられた経緯を聞くと、家を建てるお客様と社長の年齢が近い方が、感覚が近く、より良い家づくりができるからという理由だった。そこでもお客様のことが考えられていた。また、お金儲けのことだけを考えず、手間がかかるとしても誰かのためになることをするとおっしゃっていたのが印象的だった。社員である北爪成実様は、家や会社、社員を好きになることで、エアムーブ住宅をお客様に選んでいただくことが一番のやりがいだとおっしゃっていた。また、寝るだけの場所としての家ではなく、帰りたくなる家づくりをしているとおっしゃっていたのが印象的だった。

学生時代にやっておくべきこととして、深川様は、何事にもチャレンジし、嫌なこともやってみることが良いとおっしゃっていた。北爪様は、まとまった時間がないとできないことをやってほしい、人との出会いを大切にしてほしいとおっしゃっていた。これらのことをこれからの学生生活に生かし、悔いのないものにしたい。

インタビューをしてみて、いくつか反省点があった。一問一答のようになってしまって会話になっていなかったり、質問と質問の間に沈黙が続いてしまったりしたことがあった。私たちのグループは質問者が2人いたが、誰がどの質問をするかという役割分担をしていなかったなので、細かい役割分担をしておく必要があると感じた。また、相手との会話を広げられるような質問の仕方を身に着けたいと感じた。

インタビューを通して、これからの学生生活や、自分が社会に出て働く上で役立つことをたくさん学ぶことができた。さらに、改善点も見つけることができた。また、企業に訪問し、社会人の方と関わるができる貴重な機会だったので、参加することができてとてもよかった。今回学んだことをこれからの生活に生かし、充実したものにしていきたい。

以 上

2019 年 9 月 17 日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先	エアムーブ住宅株式会社様		
日 時	2019年9月10日(火)午後1時		
場 所	エアムーブ住宅株式会社		
学 生	共愛学園前橋国際大学		
	情報・経営コース2年	田村 和	チーム F
	英語コース2年	狩野 美佑	チーム F

インタビュー記録

代表取締役 深川 修 様

仕事内容を教えてください。

- ・3 代目総責任者
- ・会社の経営や設計業務

御社の歴史を教えてください。

- ・40 年前 沼田市で「司建設株式会社」という名前で創業
- ・平成 29 年 「エアムーブ住宅株式会社」に社名を変更
会社の強みであるエアムーブ工法ができた
省エネ、自然エネルギー(パッシブ住宅)
地震対策
過去に沼田市の公共工事(学校の耐震工事など)を行った
現在はエアムーブ住宅に専念

エアムーブ工法の特徴について教えてください。

- ・家の中で空気が自然の力で循環する仕組みの家
- ・機械に頼らずに自然の力を利用して暮らす家を目指す
- ・自然の力で熱を逃がす、暖かさをまんべんなく広げるように空気を動かす

モデルルームの活用について教えてください。

- ・デザインなどのかっこよさ、きれいさを見る
- ・エアムーブ工法の空気の動きを体感する

社員食堂を設置した理由を教えてください。

- ・モデルハウスを見学だけでなく、くつろげる場所にしたいと思い、ゲストハウスを作っ

た

- ・“食“を体験できるようにするため、ゲストハウスにはキッチンを作った
- ・料理教室などのイベントなども行っているが、社員で食事をする機会があってもいいなと思った
- ・社食係によるオリジナルメニュー

社長になった経緯を教えてください。

- ・お客様は 30 代から 40 代なので、お客様と年齢を合わせるため、世代交代
- ・次の社長だと突然指名されて戸惑ったが、できることならということで受け入れた
- ・社長になってから会社経営について学んだ
- ・沼田市の中学校で耐震工事の現場監督を行い、指示を出すことや、資料作りや打ち合わせなどの経験を生かす

会社を経営する上で気を付けていることは何ですか。

- ・経営理念に基づいた経営
- ・職人、社員のためになるような経営
- ・儲けるための経営はしない

どのように人材育成を行っていますか。

- ・教えてもらうのが当たり前と考えずに、自ら興味を持っていろいろ学ぶことができるようにする
- ・積極的に動けるように、多くの機会を与える

どのような人材が必要ですか。

- ・相手を思いやる気持ちを持っている人
- ・どうしたらお客様に喜んでもらえるか考えられる人

学生のうちにしておくべきことは何ですか。

- ・枠にとらわれずに多くのことにチャレンジする
- ・嫌なことや面倒なことにも取り組む

今後のビジョンを教えてください。

- ・エアムーブ住宅を利用して暮らしている人が幸せになるにはどうするか、ということ
を常に考えていて、お客様とともに幸せを作れるようにする
- ・家づくりや接客、アフターサービスなどの質を上げる

スマイルクリエイター 北爪成実 様

仕事内容を教えてください。

- ・営業・事務(肩書)
- ・枠にとらわれず活動
- ・モデルハウス、ゲストハウスでの接客
- ・営業の方のサポート
- ・イベントの企画や手伝い
- ・情報の発信 年に 2.3 便りを発行(広報)
- ・日によって違う仕事をする
- ・ゲストハウスを使用したい方と連絡を取り合う

やりがいは何ですか。

- ・お客様が最終的にエアムーブ住宅を選んでいただくこと

大変なことは何ですか。

- ・建設などの勉強をすること
- ・日々勉強 お客様と対等に話せるようにするために建設の知識を勉強すること

職場の雰囲気はどんな感じですか。

- ・仕事はそれぞれ違うが最終的目標は同じため和気あいあいと活動をしている
- ・仲が良く、距離が近い
- ・意見が上に通りやすい

就職のために頑張ったことは何ですか。

- ・情報収集

学生時代はどのように過ごしましたか。

- ・心理人間文化コース
- ・シャロン祭実行委員でイベントを企画
- ・単位を落とさない
- ・やることはやり、遊ぶときには遊ぶ
- ・メリハリを大切に
- ・インターンシップは受けてよかったと思う
3 年 印刷会社に行く

文章の編集など、おもしろそうだった

就職活動はどのように行いましたか。

- ・3年と4年の間の1, 2, 3月くらいから開始
- ・4月 エアムーブ住宅の話を聞きに行く
もともとは編集などに興味があったが、自宅が好きだと気づき、自宅がエアムーブ住宅だったことがきっかけ
- ・早いうちから職業の種類を知っておく
- ・就活の始める速さは目指す場所による
- ・早いに越したことない
- ・世の中には思っている以上に仕事がある
- ・世の中にある仕事の内容を把握する

ワークライフバランスについて教えてください。

- ・5日間仕事を真剣に取り組む
- ・仕事関係の悩みなどを持たない状態で2日休み

学生時代にやっておくべきことは何だと思いますか。

- ・興味のある授業をどんどん受けること
- ・まとまった時間がないとできないこと
- ・色々なところでバイト
- ・知り合いを増やすこと
- ・出会いを大切にする

他社と比べた強みは何だと思いますか。

- ・自然エネルギーを利用し、機械に頼っていないところ
- ・暮らしを楽しむ、帰りたいと思うような家づくり

取材インターシップ(企業訪問を終えて)

田村 和

今回の取材を終えて学んだことが沢山あります。会社の概要、独自の工法だけでなく一番は社会人と関わることににより得られる事が大きかったです。

初めに社会人の方と関わる事が少ない私にとって、社会人の方と話すことはもちろん相手から話を聞き出すことはとても難しいことでした。振り返ってみると今回の企業訪問は成功したと言えないと思います。事前に質問を用意しましたが、答えていただく内容から話を広げることができず、質問、答えていただく、質問、答えていただく、という流れになってしまいました。答えていただいた後から違う質問に移るまで変な間ができてしまい気まずい思いをさせてしまいました。これは質問する側が質問される側の気持ちを考え、より答えやすい雰囲気にする必要があったと考えます。しかし今の私には話を広げる話術や話していただいた中で出てくる単語の意味など、様々な知識力が欠けているため話を広げることができませんでした。また普段関わっている人たちと年代が違っているので、普段人と話すことに抵抗が無い人でも緊張してしまい話せない事がわかりました。これらから今後の目標として社会人の方と話す機会を持つとうと思います。なかなか社会人の方と話す機会が少ないですが、先生方と話し敬語でしっかり話せるようにしておくことなどが対策であると考えます。インタビューの中で学生時代のお話が一番印象に残りました。社長の深川さん、北爪さんにインタビューしましたが、北爪さんは共愛学園前橋国際大学、心理人間文化コースのご卒業のため授業についての質問を多くさせていただきました。授業を取るべき科目や就職活動についてお聞きしました。とるべき授業はインターンシップという実践型の授業でした。就職活動では初めに好きなものを連想して「家」が出てきて、その家がエアムーブ住宅株式会社で作られている事からエアムーブ住宅株式会社に見学に行くことになったお話を聞き、北爪さんの家がエアムーブ住宅で建てられた事にとっても驚きました。自分が住んでいる家から就職先の候補が出てくることから、就職先のヒントは身近にもあるのだと感じました。社長の深川さんのお話では、将来の夢が決まっていないうちに図書館で建築家の安藤忠雄さんの本を見つけそこから建築関係の仕事を目指そうとした話を聞き、今将来の夢が決まっていないう私でもどこかのタイミングで将来の夢につながる何かを発見できるのではないかと思います。

今回の企業訪問で将来の考え方や学生時代の過ごし方を、人生の先輩のお話を聞くことができこれからの生活、就職活動につなげる事ができると思います。そのため今回社会人の方とお話ができる機会に参加できて心から勉強になり、良い経験ができたと思います。

取材インターンシップ企業訪問 感想

狩野美佑

私は、エアムーブ住宅株式会社様を訪問しました。事前にプレゼンテーションの練習をしていましたが、実際に社長さんや社員さんの前で発表すると考えると、緊張して冷静にうまく話すことができませんでした。インタビューの際は、事前に考えておいたインタビューリストに沿って話を伺いました。緊張してしまい、事前研修のときに練習した、相手の答えを聞いてそこから話を掘り下げることがあまりできなかったのも、今回の反省点だと思いました。

エアムーブ住宅様の強みが自然エネルギーを生かした工法だということは事前に調べて知っていたのですが、会社に訪問して中に入ったときにとても木のぬくもりを感じて心地よかったです。他の家とは何となく違うなと感じました。社長さんと社員さんにインタビューをして、立場が違うので多少異なる答えが返ってくると思っていましたが、お客様が幸せに暮らすにはどうしたらよいかという、根本的な考え方は変わらなかったのも、会社の理念を貫いていることと、立場にかかわらずみんなで協力しているということを感じられました。社長さんに人材育成について伺った際に、教えてもらうのが当たり前と考える人ではなく、自ら興味を持つような人材を育てるために多くの機会を与えているとおっしゃっていたので、社員のうちからチャレンジできることは素敵だなと思いました。その後社員さんに仕事内容を伺った際に、肩書は事務だけれど、イベントの企画などもしているとおっしゃっていてとても楽しそうだったので、いいなと思いました。少人数の会社で、社員の方と立場が上の方の距離が近かったので、雰囲気は前国に似ているなと思いました。また、お二方から、学生時代は興味のあることや少し嫌だなと思うことでも積極的にチャレンジしたほうが良いとアドバイスをいただいたので、今後様々なことに取り組んでみようと思いました。

社会人の方に話を聞くということと、インタビューをするということは私にとって初めての経験だったので、一見簡単そうに思えるけれどその難しさを実感しました。至らない点だらけだったにも関わらず、優しくインタビューに答えてくださったのでとても感謝しています。伺ったお話やインタビューの経験は、就活の際や就職後にも役に立つと思うので、活かしていきたいと思いました。

以 上

2019 年 9 月 15 日

2019年度取材インターンシップ 取材記録(チーム G)

訪問先 株式会社ヤマト様
日 時 2019 年 8 月 19 日(金)午後1時 30 分
場 所 ヤマト朝倉工場
学 生 共愛学園前橋国際大学
情報・経営コース 2 年
チーム G 堀米、長澤、荒木、竹内
チーム H 松田、白井

インタビューリスト

取締役企画推進部長 鳥居 博恭 様

1. 会社の強み、特徴(どんな技術に優位性があるか)について教えてください。
幅広い事業、サービスに取り組んでいること。具体的にはお風呂のろ過システム、エネルギー保証サービス、冷蔵など。
2. 会社にしかない魅力(他社との差のつけ方)について教えてください。
ワンストップサービスの提供、見える化の取り組み、サポートセンター。
3. 力を入れている事業(前橋再開発計画についてのビジョンやプランなど)を教えてください。
上武道路沿いの道の駅開発。前橋市から「民間の知恵が欲しい」と委託された公共事業である。
耐震が老朽化に伴ったスズランの建て替え、千代田町の再開発であり、エリアマネジメントの事業。
4. 仕事をする上でのやりがいは何でしょうか。
自分が経験したことのない新しいことへのチャレンジ。事業が成立した時の達成感。
5. 生活との両立は可能ですか。
可能というより、しなければならない。プライベートがあるから仕事ができないという考え方は面白い仕事の妨げになる。
6. 新入社員の頃の話(苦労したことや大変だったことなど)をお聞かせください。

入社する前に持っていた企業のイメージが、実際の姿とかけ離れていたこと。入社してから専門的なことをできるようにならなければならなかった。

7. 失敗の乗り越え方は何でしょうか。

深刻に落ち込まないこと。周りから助けてもらえるような人材になっておくこと。

8. 転職して群馬にきて現職にいたる経緯を教えてください。

お客様と距離が近い仕事をしたかった。奥様が群馬の人だったから、群馬の企業を考えた。

9. 下請けから転換していると伺っていますが、詳しくお聞かせください。

質問不能。

10. 採用の際、重視していることは何でしょうか。

質問不能。

11. 学生のうちにやっておくべきことは何でしょうか。

質問不能。

12. どんな学生、人材に来てほしいですか。

今までは理工学などの技術に秀でた人材に来てもらいたかったが、今後はマーケティングや商品開発などの分野に秀でた人材を求めている。

13. 今後インフラ工事が期待されるが、資材機械の価格上昇や、人手不足への対応はどのようにされますか。

質問不能。

1. 入社の際について教えてください。
土木に興味があったこと。モノづくり、人と関わるのが好きだったから。
2. 入社して大変だったことは何でしょうか。
言葉で仕事を説明できるのは簡単だけれど、成果物として表現するのが難しかったこと。
3. 入社前入社後の考え方の変化がありましたら教えてください。
仕事があるのが当然という考え方が、積極的に仕事を作っていくのが当たり前という考え方になった。
4. 仕事のやりがいは何でしょうか。
お客様に想いが伝わったとき。日々の行いを上司に認められるとき。コミュニケーションが上手くいったとき。
5. 具体的な仕事内容(一日の流れ)について教えてください。
坂本様の部署であると、省エネなどのヤマトの技術、サービス、商品をお客様に買ってもらえるように理解してもらう仕事。
6. 会社の雰囲気はどのような感じでしょうか。
制度、雰囲気共にしっかりしている。年齢関係なく、自分の考えを伝えられる程風通しが良い。
7. 産休・育休がとりやすい環境でしょうか。
6と同様。
8. 新人社員の頃の話(苦労したことや大変だったことなど)を教えてください。
2と同様。
9. 失敗の乗り越え方は何でしょうか。担当者様の経験談から教えていただけるでしょうか。
考え、落ち込み、人に話して理解してもらうことで乗り越える。
10. 学生時代就職の為にどのような対策をしていましたか。
バイトしかしていないが、在庫管理や発注など、バイトで学んだことが今に生きている。就活の面接時に自分の考えや取り組んできたことを上手く文章化し、素直に誠実に話すこと。
11. 学生のうちにやっておくべきことは何でしょうか。
遊んでおくこと。遊ばなくても、何事に対しても遊び心を持つこと。

12. 会社にしかない魅力(他社との差)は何でしょうか。

設備会社であるのにも関わらず、様々なことにチャレンジしている。
発想が面白い。

以上

取材記録まとめ（H チーム）

情報経営コース

チーム H 白井日菜、松田真香

インタビューリスト

取締役企画推進部長 鳥居 博恭 様

1. 会社の強み、特徴（どんな技術に優位性があるか）について教えてください。

空調設備だけでなく、上下水道や建築、冷蔵など多くの分野をやっていることが強み。蓄熱のシステムや冷蔵のシステムなど特徴のある技術が他社に比べて自社しかないことである。

2. 会社にしかない魅力（他社との差のつけ方）について教えてください。

蓄熱システムや冷蔵システムなどの技術。

3. 力を入れている事業（前橋再開発計画についてのビジョンやプランなど）を教えてください。空調設備は全体の 70 パーセントから 80 パーセントではあるが建築関係が力を入れている。配管だけでなく全体の配置も考えているところ。

4. 仕事をする上でのやりがいは何でしょうか。

自分の中でやったことのないことにモチベーションが上がる。からだれもやってないことを自分で形にすることがモチベーションに繋がる。

5. 生活との両立は可能ですか。

6. 新入社員の頃の話（苦労したことや大変だったことなど）をお聞かせください。

いろんな資格を取ることは大変だったが、その資格を取ったらどうつながるかを明確にしておけば頑張ることができる。挫折しないと思う。

7. 失敗の乗り越え方は何でしょうか。

信条として人間は完璧ではない、心配をすることで成長することができる。と思っている。

8. 転職して群馬にきて現職にいたる経緯を教えてください。

元々は農学部を専攻していて一度はその種の会社に勤めていたが、この業界の会社に入った。三年くらいは苦労したが段々作業はわかるようになった。奥さんが群馬出身であったこともあり群馬で探したときにヤマト株式会社を見つけ、募集をしていなかったが直接メールをおくって採用をこぎつけた。

9. 下請けから転換していると伺っていますが、詳しくお聞かせください。

大きな仕事を受け持てば名前は売れるけどそうじゃなくて、群馬のお客さんと向き合うことが大切。この企業が売れて群馬に税金を多く収めていい橋や道路、病院を作り生活しやすい環境づくりをずっと考えている。群馬の本店以外はいらないと考えている。

10. 採用の際、重視していることは何でしょうか。

男子社員が中心で採用していたが、今は物事にチャレンジすることが大事、先を見る力が大切。

11. 学生のうちにやっておくべきことは何でしょうか。

12. どんな学生、人材に来てほしいですか。

チャレンジ精神がある人に来てほしい。

13. 今後インフラ工事が期待されるが、資材機械の価格上昇や、人手不足への対応はどのようにされますか。

企画推進部 坂本 紗弓 様

1. 入社の経緯について教えてください。
⇒大学は工学部。もともと建築・ロボットに興味がある。就職活動の時、建築でもロボットでもなんでもいいから物作りに関わりたかった。人と関わるのが好きなので人と関わる仕事をしたかった。就職した後の生活感を考えた時、地元がいい。休日は土日休みがいい。
2. 入社して大変だったことは何でしょうか。
⇒ない。当時は大変だったと思う。しいていうなら、会話の中で自分の考えを言う。
3. 入社前入社後の考え方の変化がありましたら教えてください。
⇒1年研修がある。何をしたいのか学んで考えられた。
4. 仕事のやりがいは何でしょうか。
⇒自分が評価されているとき。やりがいというものは特にない。
5. 具体的な仕事内容（一日の流れ）について教えてください。
⇒企画の進行。建築の設計。現場訪問。道の駅。
6. 会社の雰囲気はどのような感じでしょうか。
⇒仕事に真剣に打ち込んでいる環境。
7. 産休・育休がとりやすい環境でしょうか。
⇒どちらかといえばとりやすい。ヤマトは1年間産休がとれる。
8. 新人社員の頃の話（苦労したことや大変だったことなど）を教えてください。
⇒ない。当時は大変だったと思う。
9. 失敗の乗り越え方は何でしょうか。担当者様の経験談から教えていただけるでしょうか。
⇒考えすぎない。考えすぎてしまうとさらに落ち込んでしまう。また、誰かに相談する。そうするとアドバイスをもらえる。
10. 学生時代就職の為にどのような対策をしていましたか。
⇒就職するために対策は特にしていない。
11. 学生のうちにやっておくべきことは何でしょうか。
⇒就職する上では特にない。長期休みがないので遊んでおくべき。（旅行）
12. 会社にしかない魅力（他社との差）は何でしょうか。
⇒部署がたくさんある。そのぶん流れがスムーズ。

感 想

情報・経営コース2年 荒木彰悟

ヤマト様を訪問して工場見学をしました。そこでは鳥居様が解説付きで説明してくださいました。現場と工場とのギャップなど業界特有のお話や、経営学で習ったばかりの JIT システムなど、そういった細かい話まで伺えたので工場見学はとてもタメになったとともに面白かったと思っています。

取材をして感じたことは、やはり上場しているだけあって規模が大きいのでやれることが大きいことや、工事をほぼ請け負っている会社ならではの考え方をしているということでした。私が事前研修で会社のことを調べたときに、ヤマト様はみえる化が強みと紹介されていましたが、私はなぜ強みなのかよくわかっていませんでした。聞いたお話を簡単にまとめると、プロセスごとの違いをまとめ全体の生産性を上げることでした。確かに 3D モデルでお客様にイメージを提供できて視覚的に訴えられることができ、トータルで工事を請け負っているので全体として無駄がなくすことができます。一番驚いたことは CAD 製作費が無料ということでした。さらに、地域に根差した企業であるので、前橋についての強い想いや構想段階の道の駅など、私にとっても興味があることで盛り沢山でした。私たち学生が構想する前橋よりも、より現実的で具現化できる内容でしたので、少し感動的でした。これらの話から、これからの前橋はきっとより良いものになっていくと期待できるようになりました。また、会社についてではなくその人についての質問もしました。キャリアプランニングでも卒業生などに同じような質問をしましたが、それぞれの人の考え方があるので聞いていて面白かったです。とくに上場している会社の役員に聞ける機会は今後ないと思うのでとても貴重な時間でした。

取材を通して、個人的な感想を言うと取材が下手くそだった気がします。事前研修でオープンクエスチョンなどを実践しましたが、やはり当日は少し緊張して話を掘り下げられなかったです。おそらく、緊張というよりは企業のリサーチ不足だったと思います。そこで本当に大切なのはリサーチ力ということに気づきました。鳥居様がおっしゃったことについていくには調査をしないと理解できなかったことは、ことためだったと思います。少し後悔の残る取材でしたが、ヤマト様を訪問できてとてもよい経験になったと感じています。

2019/08/19

株式会社ヤマトを訪問してみて

共愛学園前橋国際大学情報・経営コース 2年 竹内将也

本日は株式会社ヤマト様に取材訪問をさせていただきました。短い時間ながらも、工場見学やインタビューなどをさせていただき、多くの学びを得ることができました。

印象に残っているものとして、事前調査プレゼンが挙げられます。こちらは自分たちの力だけでヤマト様について調べ、その結果をプレゼンするというものでした。共愛に入学してからプレゼンをする機会は何度も経験してきて、ある程度の実力はついてきたのかなと思っておりましたが、今回のプレゼンは非常に難しかったです。企業という視点を持ち、業務や、それを行うにあたっての志などを全体的に把握することは大変でした。それでも結果として良いプレゼンが出来たと思いましたが、分析の箇所で「なぜ、その技術（道具）を使うのか、使うことによって何を成し遂げたいのか、という部分を掘り下げたほうが良い」というお言葉をいただきました。自分でももう少し気になっていた箇所だったので、お言葉を頂くことで自分たちのプレゼンの粗さを正確に把握することができました。今後企業さんに関わる時は、その企業さんがどんなことを成し遂げたいのか理解するようにしてみようと思います。

取材インターン以外でも社会人の方と関わる機会が最近増えてきましたが、関わるたびに毎回「時間の使い方」というものを意識させられます。やはり社会人の方は時間の使い方の意識が学生とレベルが違います。時間を守るということは徹底していますし、むしろプレイベートと仕事は両立しなければいけないものになってきているというお話もお聞きしました。私も何かをするときに、時間配分を無視して勢いだけでやってしまうことがあります。社会人からすればそれは残業になりかねないので、与えられた時間の中で最高のものができるようにするという意識は、今のうちから身につけていきたいと思いました。

鳥居様からお聞きしたお話の中で、自己投資を惜しむなというお話がありました。失敗の乗り越え方をお聞きした際のお話してくれたのですが、鳥居様は仕事一辺倒になってしまうのはあまり良い状態ではない、とのことでした。休む間も無く仕事のことを考えるのではなく、あえて他業種のことを勉強するだとか、映画を観るだとか、世の中の良いものに触れることが大切だと仰っておりました。そうすることで人間としての深みが出て、周りの人間

からも信頼され、仕事が回ってくるとのことでした。このようなお話を社会人の方から実際にお聞きできることを非常に有難く思います。鳥居様からお聞きしたお話を忘れず、面白い人間であり続けたいなと思います。

今回の取材インターンでは非常に濃い学びをさせていただきました。学内では学ぶことのできないものを学ぶことができたと思います。この経験を糧に、今後も励んでいきたいと思っています。

取材インターシップ株式会社ヤマト 感想

情報・経営コース 2 年 長澤健留

今回株式会社ヤマト様に実際に訪問させていただき、多くの事を学ぶことができました。

株式会社ヤマト様にお話を伺う前に自分達のグループでヤマト様についてプレゼンのパワーポイントを作成し、まとめることで自分達なりにヤマト様がどのようなことをやっていて、どんなことに力を入れているのかなどについて事前に知ることが出来たのではないかなと思いました。

しかし、実際にヤマト様へプレゼンをさせていただき鳥居様のお話を聞き、ヤマト様の行っていることや強みがわかっていてもその強みによりどのようなことが具体的に良くなっているのかを、わかっていないことを知りました。例えば、ヤマト様の競争力を高める特徴の一つである「3DCGによる見える化」は建設する建物などを3DCGで作成し作業を早く進めることは調べていてわかっていたが、トイレを3DCGで作成した際にコンセントの位置などを作ってから直すのでは時間も費用もかかってしまうので、3DCGで作成する時点では、細かな全てのことを早い段階で決めておき、相手との意思決定をすることで時間と費用を抑えていることを学びました。その他に、少し疑問に思っていた「3DCGなどを毎回作成することで費用が多くかかってしまうのではないか？」という疑問にたいして、ヤマト様では無駄なお金が1億5000万円ほどでているのでそのお金で作成しているという説明を聞き無駄のなく効率の良いことをしているのだなと感心しました。

続いて、ヤマト様の工場を見学させていただき、ヤマト様の工場では外が暑い日などでも、比較的涼しい環境で作業することができ、パート人が多く働いていることを知り、働いている人のことを大事にしている企業だなと感じました。その他に、ヤマト様はジャストインタイムを採用せず、安い時に大量に買う方式であることや、配管などを番号と色で管理していること、その他にも自分が知らなかったような多くの技術を間近で見ることができ、すごく勉強になり良い経験になりました。

最後に、インタビューリストの質問について鳥居様と坂本様にお答えいただき、企業についてのさらに詳しい説明や新入社員の頃の貴重な話をさせていただきとても勉強になりました。また、学生時代どのような就職対策をしていたか、学生のうちにどのようなことをやっておくべきかなどの、今の自分にとってすごく為になるお話も聞くことができ有りがたかったです。

今回取材させていただいたことで、ヤマト様について深く知ることができ、今後ヤマト様の新しい取り組みについてより楽しみにしています。

取材インターン 感想

情報・経営コース 2 年 堀米康希

株式会社ヤマトへの取材インターンを通して、貴重な話を聞き、今後の生活において非常に役立つ知識を得ることができた。

取締役企画推進部長である、鳥居様へのインタビューを通して、会社の強みであったり、鳥居様個人についてなどの話を聞くことができた。株式会社ヤマトが他社と比べた時の、大きな強みや特徴は、さまざまなことに取り組んでいること、独自の技術を持っていることであると分かった。ヤマトの技術として、3DCG や CAD がある。これを用いることで仕上がりのイメージをし三次元的にみることを可能にしている。また、ワンストップサービスの提供により、企画から改修までのすべての事業を行っている。この技術を組み合わせることで、生産における手戻りや手直しを無くし、全体の生産性の向上を可能にしていると分かった。また、新たな取り組みとして、上部道路の道の駅の開発も行っている。このような点がヤマトの強みである。また、話を聞く中で、自分へ投資することが非常に大切であると分かった。さまざまなことに挑戦することで、人としての厚みをつけることが大切だと聞き、感銘を受けた。

企画推進部の坂本様へのインタビューを通して、重役の方と違った視点の話を聞くことができた。印象に残った話として、失敗したときの乗り越え方がある。失敗した際には人に話すことが大切だと分かった。人に話すことで、自分の気持ちの整理ができると感じた。信頼できる人とつながりを持つことは大切だと分かった。また、学生時代のうちにやっておくべきこととして、たくさん遊ぶべきというお話を聞くことができた。遊ぶといっても、興味を持ったことなど、さまざまなことに挑戦することが大切だと分かった。また、何事も遊び心を持つことで、楽しみながら取り組むことが大事であると分かった。このように取り組むことで、楽しみながら自分自身の力を伸ばしていけると感じた。

今回の取材、工場見学を通して、ヤマトの具体的な技術や、仕事を目の当たりにしたり、貴重なお話を伺うことができた。実際に企業に出向くことで、事前の企業調査の中で、曖昧であった部分や、疑問であったことが、解決することができ、より深く理解することができた。ヤマトでは、全体の生産性の向上させるために、さまざまな取り組みや、技術を用いていると分かった。他社との競争の中で生き残るために、独自の技術を開発し、そこにお金をかけることで、結果的に手戻り、手直しなどの無駄を省くことで、利益を上げ、会社を成長させていると分かった。実際に社会に出て活躍されている方の話を聞くことで、新たな情報を自分の中にインプットし、自分の価値観を広げることができた。他の企業についても調査してみたいと感じた。

感想

情報・経営コース

2年 松田真香

株式会社ヤマト様に訪問して印象的であったことは、きれいな工場であると思いました。プレゼンは、最初の時と違って改善を加えてスライドづくりや役割をしっかりと決めてスムーズに行うことができました。私は、写真担当でした。鳥居さんから「よくまとまっていっていいプレゼンでした。」とお褒めの言葉をいただけて良かったです。バーチャルルームは立体的に見せるための工夫があり24分割された画面を3分割にしているのがすごかったです。プレゼン発表の後に鳥居さんが株式会社ヤマトがどのような仕事をしているのかをより詳しく説明をいただきました。文章で見たものを少し理解していたが難しいところもあったのでそこを飼料を使いながら丁寧に説明していただけて良かったです。3DCGの技術と3DCADの違いを知ることができました。そしてなぜヤマトは県外に行かず群馬で経営しているのかを知ることができました。

工場見学では、配管について教えていただきました。工場内は、私たちのプレゼンで主要技術で上げていた大温度差蓄熱空調システムを使っていて、涼しい環境のなか作業をすることができる。そして作業効率もよくなり生産性もよくなる。ヤマトさんが行っている技術・サービスを自分の会社に行かせているところがとても良い所だと思いました。作業員の方々も快適に作業ができていると思った。配管加工の仕組みも学ぶことができました。配管を曲げたところよりも曲げていないところに亀裂が入って水漏れをしていることがあることを初めて知りました。

工場の見学やバーチャルルームを使った発表など個人訪問ではできないような体験・経験をすることができてよりヤマトさんの魅力を深く知ることができました。

鳥居さんと坂本さんにインタビューをしていて一つの質問に対して多くの情報をいただくことができてとても良かったです。情報量が多くいただけてとても良かったのですが、その分他の質問を聞く時間が少なくなってしまう間こうと思っていたインタビューリストの半分くらいしか聞けませんでした。30分間がとても短く感じました。時間の調節がとても大事だと思いました。

坂本さんには、かなり多くの質問をすることができました。家事・育児と仕事のバランスや学生のうちにやっておいたほうが良いことなど女性ならではの視点から回答してくださって良いお話を聞けて良かったです。

鳥居さんには、会社のことをメインで聞くことができました。ですが、質問を多くすることができなかったためあらかじめもうひとグループと相談して違う質問ができたならよかったのかなと思いました。

今回企業に訪問して自分たちのプレゼンをしたり、工場見学、取材をさせていただきました。取材インターンシップに参加していなかったらできない経験をさせていただけて、参加してよかったなと思いました。今回の取材インターンシップで収穫したものを事後研修でまとめて最終プレゼンでより良いものを作るように頑張りたいと思います。

感想

取材インターシップ 株式会社ヤマト
情報・経営コース 2年 白井日菜

私たちは今回取材インターシップという形で株式会社ヤマト様を訪問させていただいた。今回取材インターシップでヤマト様を訪問させていただくことになり、ヤマト様についてたくさん調べた。初めてヤマト様について調べたときは、ヤマト様はいったい何をしているのか全くわからなかった。ネットだけで調べた感想としては、「たくさんの事業に手をつけてただ大変なだけなのではないか。何でこんなことをしているのか。」という考えであった。だが、訪問してヤマト様からお話を聞いたり、工場を見学させていただいたことによりヤマト様は全てのことを効率よくするということを目指しているのだと理解することができた。

朝倉工場ではステンレス管の加工が行われている。上下水道設備、工場設備、住宅・ビル設備のステンレス管の加工が行われている。ステンレス管の加工をしている理由としては工事現場先で溶接を行うと溶接したところが錆びてしまうからである。そこで、ヤマト様は錆びることなく少しでも長続きするようステンレス管の加工をすることにしたそう。加工されたパイプ管を工場で実際にみせてもらったが加工されたものはパイプ管によるつなぎ目が全くなく、錆がない。一方現地で溶接されたものは繋ぎ目がしっかりとあり、錆が生じている。私はこの技術に心を揺さぶられました。少しの手間でこんなにも違うのかと。どのようにしてこのような技術が作られたのかはじまりについてもっと詳しく知りたかったなと感じた。

私が訪問させていただいた中で最も印象が残っているのは工場見学である。3Dでモデル化したものをコンピューターが自動で図面化し長さまで精密に表してくれるそう。そのコンピューターから送られたデータをもとに自動で機械がしたい長さにステンレス管を切ってくれる。私はこの技術にとっても感動した。私の印象では職人の人が手作業でサイズをミリ単位で直している印象であった。だが、ヤマト様ではほぼ全てのことがパソコンによって自動で行われている。時代の変化によるせいなのかはわからないが、この技術を生み出すのにはとても苦労したのではないのかなと感じた。

今回取材インターシップでヤマト様を訪問できてとても良かったなと考えた。私が知らない世界についてたくさん知ることができ、とても興味が湧いた。ヤマト様はつねに最先端に行くという感じでとても素敵だなと感じました。この先、機会があればヤマト様についてもっと学んでみたいです。また、今回学んだことを今後生かしていきたいです。

2019 年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先：株式会社小川屋様

日程：2019 年 9 月 11 日（約 1 時間 35 分）

インタビュー：伊藤大介社長（以下 伊）

インタビュアー：坂田優香 佐々木麻友（以下 坂、佐）

1. 歴史・特徴・優位性について

坂：御社の歴史や特徴などについて教えてください。

伊：先ほど調べていただいた通り 1875 年、明治 8 年の創業です。太物業という反物をやっている業種で初代が創業したんですけれど、その時から呉服一筋でやっています。歴史の中で特徴というのは、聞き馴染みがないかもしれませんが「良品廉価」という創業からのモットー、社是で、「良いものを安く」という意味です。この言葉を DNA というか、受け継いでいて、割と古くからやっている呉服のイメージだと高いものを少し販売しているというイメージが業界からも思われているんですけど、どちらかというとたくさん物を売ってたくさん流通させる方を昔から重視していて、単価の良い商売というよりは裾野を広げて幅広くというのが「良品廉価」の裏側にあるのかなという風に思います。特徴というのはこの大きい売り場と歴史に培われたものというのが一番の特徴だと思います。優位性というのがインタビューリストに書いてありますが、他店にないものがあるかということとそんなことは決してないんですけど、他所以上に揃えられるなどそういうのは歴史の中で培われているし、店の規模が大きいので、取引先も応援してくれやすい環境にあるというのは間違いないと思っています。

坂：ありがとうございます。

2. 伊藤社長の現職への経緯について

佐：続いて、社長の現役職への経緯について教えてください。以前東京の方にいらして、群馬のほうに来られたと聞いて、なぜ東京に残らず、住み続けず、こちらにいらしたのかということをお聞きしたいです。

伊：もともと大学を卒業して、卸業をやっている商社に入りました。総合商社で、もともとその商社も着物を扱っている店から総合商社になっていて、アパレルや寝具があつてという商社に入社し、もともとは寝具を希望していてその会社に入ったんですけど、配属が呉服でした。その呉服店への卸業をずっとしていたという経緯があつて、その中でこの社長の娘と知り合って結婚したという経緯がありまして、簡単に言ってしまうとそんな感じなんです。それでこちらに来ました。奥さんは三姉妹の長女だったのもあり、結婚するなら後を継いでくれという風に言われて、社長の職に就いたという感じです。

佐：ありがとうございます。

3. 以前勤めていた呉服屋と小川屋との違い

伊：だからインタビューリストの3番目にある質問の、以前勤めていた呉服屋の違いというのは、以前勤めていたのは卸業なので、卸と小売りという違いはありますが、呉服を扱うという点に関しては全く同じ。個人に販売するのが呉服屋で、その呉服屋に卸すのが以前の職種だったということです。ただこの業界の特徴でもあるのですが、全体の市場規模がグッと狭まっている中で、2兆円あった産業が、今3000億円くらいですからかなりの縮小した規模になっていて、呉服業のお店もそうですが買いに来る人が少ないから在庫を持たなくていいスタイルに変わりつつある。そうすると中間の間屋さんが商品を持っていて、小川屋で行われていた継承展などのイベントに間屋さんが持ってきたり、委託販売をするというやり方が結構多いので、そういう意味では卸の仕事をしていましたけど、事後と内容は小売りの業務がメインでしたね。消費者の方に対して仕事をするというのはずっと前からやっていたので、そういう意味では違いはないですね。逆に言うと、その経験というのはいろんな小売り屋さんを見ていたからそのいいことも悪いことも色々他の小売り屋さんを見られたというのは、以前の職場にいてよかったなと思います。

4. 経営戦略について

坂：小川屋さんの経営戦略などがありますか。

伊：さっきも言ったように市場規模が小さくなっていく中で、新規のお客様の取り扱いという状況がある。市場規模が狭まった分、ピンポイントで七五三や成人式が一番の新規さんの入り口になるのですが、市場規模が小さくなっているにも関わらず、七五三と振袖に関しては、写真館などの新規参入企業、異業種が多いという現状があります。そういう意味での経営戦略は、商品で言うと、新規参入が取り扱えないものを、昔からのパイプがあるので、トレンドなどにとらわれず、新規参入店が用意する商品は余裕で揃えることができるという強さがあります。それがどういう風になっているかということも含めてですが、どちらかというと新規のことに對する取り組みを今までやってこなかったに等しいので、ホームページも小売店組合に加入し何社か集まって共同でホームページを作るなどをとりあえずやっているというだけだったので、そうではなくて、昔からのお客様とのおつきあい、おじいちゃんおばあちゃん世代からずっといろいろな面倒を見させていただいたお客様がたくさんいるので、そういうお客様との付き合いを大事にしつつ、ウェブやSNSなどの新しい情報発信もきちっとやっていかないと、今の時代ではやっていけないので、そういう意味において言うと、新規獲得のための戦略というのに重点を置いています。その一環がるなばでないとはたたりします。他の人ができないことをやろうというのが、今の経営戦略です。呉服屋さんが絶対やらないようなことができるのは結構面白いなと思っています。あとは、新規参入が語れない、本物しか扱わないというこだわりはあります。今でも「小川屋さんならこういう振袖があると思ってきました」と言ってくれる人がいるので、絶対に期待を裏切

らない。ここでしかないものを突き詰めていけるようにしたいなというのを常に思っています。強みが何なのかをいつも思っています。

坂：その強みは、前橋市にあるからという部分がありますか。

伊：それはありますね。前橋市は統計を取っているわけではありませんが全国でもお茶をやっている人がすごく多いです。臨江閣のお茶会で並ぶことは他の県ではあまりない。よそから来た目で見ると、特殊な現象です。テルサの大きい勉強会など、文化度が高いというのは前橋の良さだと思います。文化度が高いから購買数が上がるというわけではないですけど、文化度が低い所よりははるかにやりやすいです。例えば写真館のことも見ていただきましたが、小川屋の写真館が他のお店と違うのが、七五三だと写真撮ったら終わりではなく、小川屋のメインは写真館があるのですが写真ではないです。何のために衣装を着るかというと、お参りするために着るので、そのために衣装を貸しているから、写真を撮らずに当日だったり、小川屋は写真だけ撮るというのはないんです。2回着れます。当日の時2回着れるようにしています。よく写真館で前撮りで七五三衣装無料などをやっているのですが、あれはお出かけがないんです。だから無料なんです。小川屋は前撮りだけでもお金を取るし、お参り行かないんですか。と聞く。意味がないじゃないですか。写真を撮る動機というのは、日本の伝統文化の継承とは異なるので、そこはちゃんとしたい。八幡様や東照宮さんとかに行かないんですか。と聞く。戦略というよりは、文化を大事にしている。大切にしている。

坂：ありがとうございます。

5. 仕事と生活との両立について

坂：社長としての仕事と趣味などご自分の生活の両立はどのようになされていますか。

伊：両立はできていない。趣味などで言うと、自分でも天職だと思うが、20年近くこの業界にいて、一番古い歴史がある織物は千何百年前からあって、そういう歴史があるから知らないことがいっぱいあるので、今でもこういう風にやっているんだとかこんなものがあるんだというものがたくさんあるから、何回見てもやっぱりすごいと思う。他の人と入り口が違うのでよく笑われるが、美術館や博物館に就職するまで全く興味がなかった。着物を扱うと、着物の柄などがそうした美術系がもとになって出てきたものもあり、奈良の正倉院に貯蔵されている文様などがあり、正倉院文様という着物の中では伝統柄があるのですが、そうしたところから、着物から入るという普通とは逆から入っている。正倉院展をやっているから国立博物館に行きたいだとか、江戸時代の琳派などの絵の世界も全く興味がなかったが、琳派展に行った。そう思うと仕事の延長で見たりするのが好きになったというのもあるので、そういう意味では、仕事をやっている時間が本当に好きですね。

坂：仕事と趣味、生活が分かれているというよりは、一体化しているような感じですか。

伊：でも子供にはいろいろな経験をさせたいと思っているから、そういう意味ではもうちょっと休みを取ってどこかに連れて行ったりしたいなと思うんですけど、こういう仕事をしているとお盆やゴールデンウィークやお正月は割と人が来る時期なので、ちょっと大変な

ことはあるかなと思います。生活というより、家庭との両立が一番難しいですね。

6. 学生時代にやっておくべき事について

佐：学生時代にやっておくべき事、やっておいた方がいい事について教えてください。

伊：よく遊んだほうがいいと思います。不登校の子がユーチューブでということなど多様性が挙げられたりしますが、社会人になって、若いうちに宿題や勉強をしっかりとやっていた人は仕事に対しても同じように立ち向かえるから、勉強していて損なことは絶対ないんですよ。宿題もできない人が仕事ができるわけじゃないじゃないですかと単純に思うときもあります。そういう風に、今の時代の中で多様性が大事にされているとって好きなことをするのは誰でもできる。でも自分が我慢できている、自制できているということは、マイナスでもプラスでも何でもなし、自分の強みだと思っていい。学生時代勉強ばかりしていたからという人がいるが、好きなことであればどんな人だって打ち込める。でも努力できる土壌は我慢できるかどうかというのが一つあるから、学生にしかできないことという風にあまりとらわれずに何でもやってみるのがいいと思います。勉強でもサークルでも部活動でも、普段のアルバイトでもそうです。生きない経験なんて一個もないから。社会人になると責任が増えるという話になるが、責任ってただお金が増えるだけなので、単位とるのに勉強するじゃないですか。給料が単位だとすると一緒なんです。自分で稼いでお金貰いたいと思えばちゃんと勉強しておかなくてはいけないし、やらない人は結局成長しない。今の若い人たちは見ても、何で教えてくれないんですかという人が多いが、気づいてできる人はわからないから教えてくださいときちんと言え。受け身になっていることが多いです。やっておくべきことは、とにかく経験を、何でもいいからとにかくやってみるほうが絶対いいと思う。自分がやりたいことがあっても、人に教えている時間は身になることもあるが結構大変じゃないですか。できないのを先輩のせいにされてもイヤでしょう。学ぶ気があるのかと言いたくなってしまう。それは社会人でも学生でもあまり変わらない。お金貰うから勝手に休めないというのがあがるが、学校も一緒。休んでいたら単位を貰えないですよ。だからあまり変わらないと思う。

坂：伊藤社長は学生時代にどんなことをされていましたか。

伊：何もしていない、けれど自分で考えて自分でやるという癖がついたのは学生時代なのかなと思う。また学生時代の友達は一生涯付き合います。高校までとは違う濃さがある。学生時代は友達と遊んでました。その友達が支えになっています。東京にいる友人が、わざわざ娘さんの七五三をするためにこっちに来てくれるなど、本当に恵まれていると思う。

佐：ありがとうございます。

7. 将来性について

坂：いろいろなイベントを多くやっていると思うのですが、小川屋さんの将来性や今後こうしたいというようなこと教えてください。

伊：イベントをするのは、会社にも役に立つからやっているのであって、実は着物を作っている年齢がひどいんです。本当に職人不足、後継不足が深刻です。日本の文化っていいなというところから始めないと、つらい部分しか見えない。浴衣でのファッションショーなど、着物に対する新しい価値を見出すことによって、作っている人に少しでもやりがいが出ればもっと辞めないで頑張るのではないかというのを期待しています。農家が野菜を作るのをやめたら八百屋さんが売るのがなくなるというのと一緒に、我々も職人さんがいなくなったら売るのがなくなってしまう。それを何とかしたいと思っている。それしか頭がない。そう思うようになったきっかけは、前橋の人ののおかげ。日本で作っている繭は、世界の1パーセントに満たない。その1パーセント未満のお蚕を作っているのは、前橋市にいる農家さん。3年連続で日本一を獲得している。去年は皇居にも呼ばれたり、本当にすごい方。現在は2人で養蚕をやっています。先日取材に行ったときに、お父さんに対する息子さんの思いを聞いてこれはまずいと思いました。「日本一すごいですね」といったら「こんな仕事やりたくない」と言っていた。日本一の人がこんなこと言ったらどうすればいいのだろうと思った。職人には、出来上がった作品に自己満足する人がいるが、実際に糸を作っている人はどうなんだろうと思った。結局出荷して、碓井製糸に行き、まゆから糸を作り、その先を全然知らないんです。きっとやりがいがないというのはそういうこと。今はどうしたらいいかわからないがとりあえず作られた糸で生地を作り、製品を作った。糸井さん（糸の生産者）のために何反も作って糸井さんの会をやりたい。糸井さんのおかげですと言わないとやめてしまうから今考えている。何かをやらなくてはいけない。一生懸命頑張っている人に光が当たらないとよく言われるけれど、知っているなら当てればいいじゃないかと思うので、職人さんの紹介などいろいろなことをやって、それが将来性になるかわからないけれど、「すごい」「いいね」と思う人がいるということは絶対マイナスじゃない。今日本の生産能力が落ちているといわれますけど、働き方を議論する前に、やりがいがあることをやっているかどうかのほうがよっぽど大事だと思います。稼いでいる人はみんな、生き生きしている人は絶対好きなことをやっているんです。自分の仕事に誇りを持てることがよっぽど大事だと思うので、一人でも増えればいいかなと思うし、そうやって感謝してくれるメーカーさんが出てきたら社員のやりがいにはなりますね。あなたたち頑張ったらメーカーさん喜んだね。変な話、売れて買って売っての関係性だと普通の商売ですけど、ちゃんと先のストーリーを伝えることによってみんなから感謝されることができるとたくさん手がかかっている着物の世界だからこそできることだと思っているので。産直で野菜を売ってたら農家の人だって「おいしいわ」と言われたら嬉しいし、それを八百屋さんが届けているかって言ったら、きっと届けている八百屋さんは売れているんですよ。顔が見えるとか。ほんとそういう時代になってきているから。それは「着物だから違う」「食べ物だからそう」ってことではなくて作っている人は必ずいるからそういうところに力を入れてより将来が楽しくなるように。一人またそこでね若い人が「こういう世界があるんだ」「職人になってみたい」って思ってくれたらそれはそれで嬉しいし。そういう将来性というか将来を作りたい。

坂：なんとなく呉服屋さんというと売だけのイメージがあったんですけど、そういうつなげるというか職人とつなげる買う人とつなげるいうことが意外というか発見です。

伊：いやね、今あそこにああやって振袖とか飾ってありますけど、あの振袖っていまボタン一つでできちゃうから。ね、インクジェットで。パーッと染められるから。もうお金を払う人たちの立場になって考えているから。「お嬢さんが来ている振袖はインクジェットで染めたんです。」というより、「たくさんの職人の手がかかって」っていうものを販売してるこっちも売りがいいがある。手に入れた喜びもあるんですよ。「同じ値段を払うんだったらいいもののほうがよくないですか」って言ったらみんな「いいものの方がいい」っていうんですよ。売るストーリーより、そういうストーリーの方がよっぽど大事ですね。だからね、特に親御さんなんて娘のために買ってあげる、用意してあげる、レンタルしてあげるって思ったときに味気ないものを出すよりは、やっぱそういう意味では売るだけってことには全くこだわっていない。まあ、売ればそれが一番いいですよ。でも、そこだけではないですよ。成人式だって当日が一番大事だし、レンタルしてね、何年か前にあった晴れの日みたいな、当日にいなくなるということを考えたら売った責任があるのでそこを全うしてこそ商売っていう。

佐：ものを売ると考えたときに私は量とか数をこだわっているのだと思っていたんですけど、社長さんの話を聞いていて売るまでの導線だったり、過程が大事なんだなって、そこを売りに出すと自分だけではなく、周りの人も巻き込んで同じ気持ちになれるのかなって思いました。

伊：そう。今年の経営計画発表会というのが、毎年やっているんですけど、社員の人には「物は売らないでください。価値を売ってください。」って。物の価値って買う側が決めるんですよ。実際は。コストがかかったからいくらですっていう商売が本当に多いのでコストがかかってこの人が一円の価値しかないって思ったら絶対一円の価値しか上がらないし。だって、マクドナルドが二千円だったら行かないでしょ？でも、マクドナルドが二千円のハンバーガー出したらどうしよう。ちょっと行ってみたいと思いませんか？だからそれが価値なんですよ。あのマックが二千円って言ったら何を出すんだろう？って。そういうのがすごい大事で。慣れてくるとこれはねこんなんだから百万するんですけど実は二十万でとか、荒い商売逆に感じてしまうことになってしまうので。そこで初めてたくさん物売りたいっていう良品廉価ですって言っている中で価格に自信があるならもっと価値を高めて売ってるほうが大事です。そこが、今一番みんなに言いたい。社員の皆さんにね。

8. レンタルより販売に力を入れている理由について

佐：以前インタビュー内容かWEBを見たんですけども、そこでレンタルより販売に力を入れている内容を見たんですけども理由をお聞かせいただければと思います。

伊：まあ、だから、その七五三も当日のお参りを大事にしたいというのと同じで、レンタルが悪いわけではなくて、レンタルは一つの選択肢なんだけど、レンタルでいいやって考え方

が嫌なんです。成人式でも一生に一回しかないんだから。レンタルでいいやというふうなどうせ一回しか着ないしレンタルでいいやという文化が嫌なので。ここ数年はそっちのほうが強くなってきている。まあ、あとは産地を守るっていう大義名分でしょ。レンタルは貸しても戻ってくるんで。販売するとうちから物がなくなるでしょ。消費者のところに行くから。じゃあ逆に仕入れができるわけじゃないですか。そうするとみんなが喜ぶってことは間違いなくあるんですけど。でも文化とかそういうものを大事にしようと思うとレンタルでも着ない人よりはましかなと思いますけど、でもね、やっぱり、ちょっと済ますとかそういうのではなくて、一応二十歳で振袖を着ましようっていう文化が残っている以上はもうちょっと大事になればいいかなって。ほんとそれぐらいです。実際はそこまで力を入れているというかほんとと表面上の部分でいうとほんとにもうメーカーさんにいろんなものを作ってもらいたいから売れたほうがいいなっていうのが一番ですけど文化的なことも危惧しているところも少し最近は出てきたかな。

佐：ありがとうございます。

9. 群馬県産のものを扱うことについて

坂：群馬県産のものを扱うことにつて、先ほど糸の話もありましたが、現在どのくらいのを扱っていますか。

伊：さっき言った通り生産数が圧倒的に少ないので、全部の商品を群馬県産でやるというのは不可能に近いですね。偏ってしまうので。ここの機屋さんやメーカーさんは群馬県産の糸を使ってやっているけど、ここはやってないとなると、やってないことのほうが多いので、そうするとそこのお店の専門店みたいになってしまうから、それはあまりいいことではない。商品をそろえている全体の中で群馬県産のものも使っていますよというのがあります。結構こっちに引っ越してきて思うんですけど、割とグンマーと馬鹿にされることの多い土地じゃないですか。でも結構郷土愛は強いんですよ。強いけど、本当にこういうものに対して興味がない人が多いんですよ。はたから見ているとすごい不思議な県民性。だったらそれを大事にしたら？と思う。これも僕の中では投げかけみたいなもの。割と呉服屋さんも嘘ついて商売しているとまでは言いたくないですけど、そういうお店も多い。日本の絹ですと何にも知らずにやっている人も多いですが、ブラジルの糸でも中国の糸でも輸入して日本で織ったら日本製の生地になるんで、それを日本の糸だと言い切っちゃう人もいるから、それはもう嘘つき。そういう商売をしたくないから、あえてそういうこともちゃんと言って大事にしたい。じゃああれ中国の糸なんですか、ブラジルの糸なんですかと言って。でも今世界中で見て評価されているのはブラジルの糸ですから。エルメスはブラジルの糸しか使っていないですよ。そう聞くと、ああすごいなと思うでしょ？大体みんなそんなもんです。ここまでちゃんと切り切ればいいのに言わないから、今度は業界への投げかけも含んでます。ちゃんと言おうよっていう。生産地偽装が騒がれたこともありましたけど、牛肉とか、同じなんですよね。フグだって下関で取れていない、水揚げしてるだけ。だからそういうことを価値

があることだからちゃんとやってという投げかけ。地産地消のどこが悪いんだろうと思う。

佐：さっき社長さんが言ったように、群馬県民として群馬では絹や蚕が有名ですよ、世界遺産になった製糸場があったりするんですけど、実際何に使われているんだろうとか、その先どう使われているんだろうとかは全然知らなかったの、そこへの興味がわきました。

伊：2人とも前橋の人ですか？

坂：いえ、私は富岡です。

佐：私は玉村町です。

伊：富岡製糸場が世界遺産になってますけど、日本で一番古い製糸工場は前橋なんですよ。それがすぐそこにあって、その次の次の年くらいに富岡製糸ができて。日本のシルクロードは八高線から横浜線を通して、横浜の港から糸を輸入して。前橋ってヨーロッパのほうでは、糸のことを前橋って言うくらい。絹産業で栄えた県なので。こういう話を群馬県の人にするようになったっていうね。そういう県民性っていうのは本当に不思議ですね。悪い人はいないんですけどね。誇りに思っていると思うんですよ、絹だって。世界が認めた絹ですからね。その富岡製糸の動力、機会を作った人とかがみんなブラジルのほうに行って、さっきブラジルの話したけど、ブラジルの糸が世界一って言われているのは、あれ実は日本の技術なんですよ。日本の移民が作った会社が今一番とされている会社ですよ。ブラ拓社という、そこがもう松阪牛みたいな A5 ランクみたいなランクの糸を作ってて、それをエルメスが全部使っているんですよ。ブラ拓というのはブラジル拓殖工業、そういう拓殖っていうのは日本の名前ですから。だからほんとに日本ってすごいんですよ。そういう日本の良さをこういう機会で学生の皆さんに言えるのが、今は一番いいことかなと思っています。

坂佐：ありがとうございます。

10. その他

坂：少し気になってたんですけど、この小川屋さんのマークってあるじゃないですか。これってどういった意味があるんですか。

伊：小川屋の小をもじったやつ。

佐：これはずーっと変わらないんですか。

伊：これはもう商標登録を取ってあるんですけど、東京に小田急っていう会社があるんですよ。その小田急百貨店のロゴがおんなじ小の字を使っていて、昔小田急から言われたことあるらしいんですけどね。うちこれ商標登録とってうちのほうが古いので。僕も代替わりして初めてその商標登録しますかという仕事があって、あれ期限あるんですね、10年とかね。更新しましたがお金払って。

佐：色とかに意味あったりするんですか。

伊：いや、たぶんないです。赤というのが何かあったみたいですね。でもいろいろな、包装紙とか色違うし、あんまり意味はないんじゃないかな。今ちょっとロゴの新しいのを作って、今のロゴとプラスしてね。今包装紙とか作ってますけど。

伊：質問があったんですけど、東京に残らず前橋に来た理由の一つで、最終的には東京に出るという夢はありますね。今はあまり考えてないですけど。どうせやるからには大きくしたいなというのはありますし。チャレンジはしたいなとは思いますがね。銀座とか日本橋って世界のいろんな人が来ますからね。対等に渡り合えるかは全然わかんないですけど。

坂：東京へはお店を出店する感じですか？

伊：もちろん。

佐：出身が群馬ではないにも関わらず、郷土愛のような、群馬への愛着というのがすごいあるように感じたのですが、なぜそんなに愛着があるのかが気になります。

伊：そんなにないけど。冗談ですけど。わかんないけどな。子供ができてから余計かもしれないな。子供からしたらここは生まれ故郷になるから。実際僕は八王子出身で東京でも端っこだから、そんなに大都会にいたわけじゃないから。魅力はあると思いますけどね。いいところはいっぱいあるのになんか言わないですよ。住みやすいですけどね。

今前橋のまちなか活性化に参加しているからですかね。他人事じゃなくなったというのはありますよ。かかわると自分のことなんで。

佐：ありがとうございます。

坂：建物が五階建てとあったんですけど、扱っている商品の数はどのくらいになるんですか。

伊：振袖千枚くらいあるんじゃないですか。貸しているのもあるんでね。数えたことないからわかんないけど、枚数で言ったらやっぱり多いですよ。振袖と七五三はいちばん多いので、レンタルも入ってるから。展示会になると2階3階も使っ足りるので。3階までなんです、売り場は。4階は事務所と食堂があって、5階は電気の大本しかありません。

2019 年度取材インターンシップ 感想

心理・人間文化コース 2 年 坂田優香

訪問先：株式会社小川屋

日時：2019 年 9 月 11 日（水）午後 2 時

場所：小川屋本店

インタビュー：代表取締役社長 伊藤大介様

インタビュアー：共愛学園前橋国際大学

心理・人間文化コース 2 年 坂田優香

国際コース 1 年 佐々木麻友

私たちは 9 月 11 日に前橋市にある呉服店小川屋様にてインタビューを行いました。その感想をまとめていきます。

伊藤社長のお話を伺い、小川屋の魅力について触れることができました。インタビューを通して、昔からの伝統を形式だけではなくきちんとした形で传承するという社長のこだわりが随所に見えました。そして伝統の継承のために小川屋ができることや強みを常に考えているのだとわかりました。職人や後継者が不足しているというお話では「一生懸命頑張っている人に光が当たらないとよく言われるけれど、知っているなら当てればいいじゃないかと思う」とおっしゃっていたように、自分の強みや周囲に与える影響を把握し行動する姿勢は大変勉強になりました。

また学生時代にやっておくべきことについて伺った際に、伊藤社長は「やっておくべきことは、とにかく経験を、何でもいいからとにかくやってみるほうが絶対いいと思う。生きない経験は一つもない。」とおっしゃっていました。その言葉は大変印象に残りました。学生だからということにとらわれず、経験を積んでいこうと思います。

また全体を通して、インタビューの仕方について難しいと感じる場面が多くありました。話を広げる質問ができず、一問一答形式になってしまうことがありました。さらに会話の間ではない沈黙を作ってしまうこともありました。それらを踏まえ、会話の中のキーワードを抑え、それについて掘り下げる必要があったのだと実感しました。しかしこうした中で話を広げるきっかけづくりについての発見もありました。伺ったお話の感想を述べたり、感想から出てきた疑問点を伺ったりすることで会話のきっかけができるということを感じました。

取材インターンシップを通して多くの学びを得、自身の至らない点について発見しました。日常生活や社会に出た際に円滑なコミュニケーションを行うために、これらの点を改善し生かしていきたいです。

取材インターンシップを通して

国際コース 1 年 佐々木麻友

研修日当日

13:00 現地集合

名刺受け渡し

学生プレゼンテーション

学生質問

先生質問

・プレゼンテーション 感想

事前研修でのプレゼンテーション内容を見直し、訪問前に内容を訂正しました。小川屋さんについて公式ホームページだけではなくインタビュー記事を読んだり、ブログを読んで内容の濃いものにしました。

当日のプレゼンテーションでは、緊張もありあまり口が動かなく、もどもどしてしまいました。あっという間に発表が終わってしまったように感じました。

・プレゼンテーション 反省点

小川屋さんについてのインターネット記事が少なく情報収集に苦勞したが、ブログを拝読すればもっと小川やさんについての情報が得られたと思いました。

スライドに載っていることだけではなく、さらに詳しい情報を口で説明出来たらよかったと思いました。それにはたくさんの情報を知る必要があると思いました。

また、何を言うのかが曖昧なままに当日を迎えてしまったのもっと事前準備が必要であると思いました。

さらに、プレゼンテーションを作る上で自分の伝えたいことが伝わるプレゼンテーションの知識が必要だと思いました。

・質問 感想

当日は社長のみの質問でした。あまり会話ができず、ほとんどが質問とその質問に対する返しの繰り返しになってしまいました。社長の話を聞きながら、「何を聞けばよいのか」「これは聞いてよいのか」ということが頭をめぐっていました。会話を続けるということができずとてもいい機会なのに惜しいことをしてしまったなと思いました。

・質問 反省点

会話の中のキーワードを拾って話を広げることが必要だと思いました。

小川屋さんの会社のことでなく、着物のことなど知っておけばもっと会話が広がったと思いました。また、自分の好きなこと知っていることを交えて質問出来たらよかったと思いました。やはり、それには知識が必要だと思いました。

何事にも興味を持つてみるのが人との会話で役立つのではないかと思います。

2019年9月17日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 群馬トヨタ自動車株式会社様
日時 2019年9月10日（火）午後2時
場所 群馬トヨタ自動車株式会社 本社
学生 共愛学園前橋国際大学
情報・経営コース2年 久保田凱 武井絵里香 武井奈々子（チーム K）

インタビュー記録

代表取締役社長 横田 衛 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

→簡潔にまとめられていて良かった

学生らしいトピックスで、車の話以外もあって良い

クロスカントリーの話題など、2年生らしい内容だった

仕事に対する満足度が伝わっていて嬉しい

2. 御社について伺います

○ 主な業務内容について教えてください。

→ホームページに書いてある通り、新車や中古車、そのほかのサービスも取り扱っている。

車を中心とした情報通信サービス、ものなどをその店のみで購入、入手することができる。

○ 代表取締役社長である横田様のお仕事について教えてください。

→外交や、スタッフの中で埋もれているアイデアを引き出すフラットな雰囲気を作る。

ポジションが決まっていないため、様々なことに対しての仲介業務

○ 御社は自動車販売においてどのような将来性を持っていますか

→交通のインフラ弱者に対して「ちょいそこ」というオンデマンドバスがある（現在は豊明市のみ）

カーシェアの際スマホで全て管理、決済できるようになる。

「マイルート」というアプリを普及していくことで、使用してもらいたい交通機関に誘導することができる。

- 群馬県内における自動車販売の面白さ、難しさは为什么呢

→顧客の多さは良くも悪くもある

最先端の技術を使用した車が時代とともにたくさん出てくる。

太田にあるスバルの工場の近くでトヨタ車を売るのは難しい

- トヨタを選んでもらうためには、どのような工夫をしていますか

→スポンサーを行っている。例えば、ガトーフェスタハラダでの職内展示により購入件数を増加させる。

今後は GIA や、地域のキッズダンスコンクールにもスポンサーとしてついでみたいと考えている。

- 御社の同業他社にはない強みは何でしょうか

→群馬トヨタという地域の名前や、会社の名前がそのまま入っていて利用しやすいということ

- 若者の車離れについてどう考えていますか

→地域としてみると、あまり感じられずむしろ増加している気がする。しかし、全体としてはあるかもしれないとのこと。

- 離職率が低いと聞きましたが、その理由にはどんなことがあるのでしょうか

→採用までのステップが多いため、入社してからのミスマッチが少ない

3. 横田様ご自身のことについて伺います

- 会社設立の経緯および入社の際の経緯を教えてください

→色々なことをやっていた、あまり話したくないとのこと。

- 仕事をする上で苦労したことはなんですか

→会社の代表として、社外に対して謝罪をすること

4. 学生へアドバイスをお願いいたします。

- 採用したいと思う学生はどんな学生ですか

→元気と意欲、笑顔のある学生

学生らしく、話していて面白い学生

- 学生の時期にやっておくべき事は为什么呢

→たくさん遊んで、後悔しないよう今やりたいことをやっておく

経営推進部 人材育成 G

主任 長谷川 梨奈 様

五十嵐 圭太 様

1. お仕事について伺います

- グループの主な業務内容について教えてください。

→インターンシップの内容を考えるなど、入社を希望する学生を増やす業務
社長のこともスタッフの一人として仕事を振ることがある

2. ご自身のことについて伺います

- 入社の経緯を教えてください

→自分の興味のある分野の商品に魅力を感じ、また採用担当の方に憧れを抱いたため入社を決意した

3. 学生へアドバイスをお願いいたします。

- 学生の時期にやっておくべき事はなんですか

→アルバイト以外に熱中することをなにか1つ持つておくの良い。

時間や知らなかったこと、気づきを大切にすること。

インターンでも行っている、「卒業までの TO DO リスト」を作成し、友人や家族にシェアすること。

たくさんのかを経験してみる。

以上御協力ありがとうございました。

今回、群馬トヨタ自動車様を取材させていただき、会社のことだけではなく様々なお話を伺うことができた。その中で特に記憶に残ったものの感想を述べていく。

まず社長の横田様の業務内容のお話について、今までは会社の社長というと、「会社の顔」という大まかなイメージしか分からず、普段はどんな業務を行っているのかは全く想像できなかった。今回の横田様のお話では、「社内でのアイデアを出しやすくしたり、仲介業務をしている」「ポジションが決まっていないため、色々なところを繋ぐ役目をしている」とあり、社長という立場だからこそできることがあると分かったと同時に、社長自ら社員の方と連携をとってお仕事をされていることに少し意外だと感じた。そのため、今まで持っていた社長のイメージを払拭することができ、とてもいい機会だと思った。

次に、au・KDDI等の情報通信サービスについて、お話を伺うまでは自動車産業と情報通信サービスにどんな関係があるのか全く理解できず、なぜ群馬トヨタ自動車様でau・KDDIのサービスを取り扱っているのか不思議で仕方なかった。しかし今回の取材でスマートキーボックスの存在・仕組みを知り、たしかにこれは車のことが分かっていないとできないサービスだと納得した。また、こういった便利なサービスをどんどん普及させることで、様々なニーズに合わせた車の在り方を作っていけるのではと関心が湧いた。

次に、オンデマンドバスについて、このお話には特に興味を持った。人がいない停留所には向かわずに最短距離で運行することができると知り、なんて便利で無駄のないバスなんだろうと思った。私も運転免許を取得する前はよくバスを使って移動しており、目的地まで時間がかかると感じていた。しかしこのオンデマンドバスがあれば、時間はもちろんバスの燃料も削減することができるため無駄がなくて良いと思った。また、高齢者の方に有効に利用してもらえれば、運転免許証の返納もしやすくなり、事故を減らすことにも繋がるのではないかと感じた。

次に、五十嵐様と長谷川様のお話について興味や関心を持った点を述べていく。

まず、お二人の業務内容についてわかったことは「入社したい学生を増やすこと」ということで、そういった役割もあるのかと新しい発見だった。インターンシップの内容を考えるのも業務内容の一部だとあり、学生と距離の近いお仕事をされているんだなと感じた。私もぜひお二人の考えたインターンシップに参加してみたいと思ったので、機会を見つけてみたい。

次に、入社の際について五十嵐様が仰っていた「採用担当の方にときめいた」というお話で、入社後の待遇は最後の判断材料で、まずは社員の方との出会いや関わりでどう感じるかが大切だと分かった。採用に至るまで担当の方と深く関わる中で、この人と一緒に働きたい、この人についていきたいと思うことができれば、入社後の会社とのミスマッチが少なく働きやすくなるんだなと思った。

学生のうちにやっておくべきことの質問の中で「アルバイト以外で熱中することをなにか1つ持っておく」との回答があり、今の私には当てはまるものがなく、少し焦りを感じた。就職活動までもう長い時間はないため、今から熱中できるものはなんだろうと考えたがすぐに思いつかないので、日々の生活の中から些細なことでもいいから見つけることができればと思った。また、お三方とも「学生のうちに遊んで、できることをやっておく」と仰っていたので、言う通りに遊んでおこうと思った。社会人の方が仰っているなら遊んで間違いはないと思うし、今の私

は時間があればアルバイトしかしていないので、もう少し時間の使い方を工夫して、友人と遊びに出掛けたりやりたいことをする時間を設けようと思った。

今回群馬トヨタ自動車様取材させていただいて、会社のことや社員の方のプライベートなお話まで伺うことができ、二度とない貴重な体験をすることができた。お話を伺う中で印象に残ったのは、社長の横田様と社員の五十嵐様、長谷川様の仲が大変良く、様々なことを楽しそうにお話してくれたことである。想像していた社長と社員の関係とは違った様子を知ることができ、とても魅力的な会社だと感じた。就職活動の際はぜひ群馬トヨタ自動車様に挑戦させていただきたいと感じ、それまでに必要な準備を今から始めていこうと思う。

私は今回の取材インターンシップを通して、たくさんのことを学んだ。その中で3点挙げながら感じたこと、学んだことなどを述べていこうと思う。

まずは、代表取締役を含めた、今回取材を受けていただいた3名の社会人の方柔軟さがあげられる。私たちはあらかじめ、インタビューリストなるものをお配りしていた。しかしながら、そこに書いていない質問もインタビューのうちに、いくつかさせていただいた。それに対しての回答が素早く、聞いていてとてもためになるお話ばかりであった。事前にお配りしていた質問も同様である。私は1つ質問を投げかけられた場合、その質問に対して1つ答えるので精いっぱいであったため、1つの質問に対して、回答が倍以上返ってきたことにとても驚いた。やはり社会で経験している分、場面によって柔軟に対応することや、予想外の質問が飛んできた際の回答を、素早くすることが可能であるのではないかと感じた。もちろん学生であってもそのように対応できる人もいると思われるが、やはり常に社会人と接していて、経験も多いからこそでもあるのではないかと感じた。

次に、インタビューの難しさである。私は今回の取材インターンシップで、「インタビュアー」を任されていたが、優れたインタビュアーになることはできなかったと自身で感じている。これまでインタビューという形で社会人の方にきちんとした場面で接することはあまりなかった。強いて言えば、昨年「バーチャルカンパニー」という講義で、会社の代表取締役の方とお話をする機会があったが、それ以降きちんと社会人の方とコミュニケーションをとる機会はなく、今回のインターンシップはとても緊張してしまい、頭の中が真っ白になってしまった。自分の中ではどのように質問すればよいかを考えながらお話しているつもりであったが、発せられる質問はまとまりがなく、何を聞きたいのかがよくわからないものとなってしまうと感じた。しかし、今回のインターンシップで、自分の至らなさや、足りない部分、弱み、強みを知ることができたので、ほかに機会をつくり、この経験を忘れないうちに次に活かしていきたいと思う。学んだだけでは意味がなく、実践して自分のスキルとして身に付け、就職活動などの場面で活かしていければと考える。

最後に、会社の雰囲気である。私は、実際の会社をあまり見たことがなかったため、群馬トヨタ自動車様のフラットで、社長との距離が近いところにとても憧れを抱いた。様々なハラスメントで騒がれている中、このような楽しく働くことができそうな会社が存在するのだと、会社に対しての希望を抱くことができた。就職する際は、このようなメリハリがきちんとあるように感じられる会社に就職したいと考える。

以上の3点が、私の中で特に強く感じたことである。今回の取材インターンシップはたくさんの学びがあり、たくさん経験することができ、自分を成長させるための材料を得ることができた。また、今回取材に協力していただいた方々のお話はとても面白く、ためになるものばかりだったので、非常に楽しく、時間の経過が早かったように感じた。限られた時間の中で、社内の雰囲気や距離感などを感じ取ることができ、素敵な会社であるということが大いに伝わってきたように感じた。またお話を聞くことができる機会があれば、時間を気にせずお話をさせていただきたいと感じた。

今回の取材インターンでは今までの自分の知りえる知識や情報だけでは全く想像がつかないような事やあまりわからなかったことが多く分かりました。

まず、社長についてです。今まで自分が思う社長という人物は冗談が聞かないいわゆるお堅い人の人物像を思い浮かべていましたが、実際のところそうではありませんでした。

取材させていただいた横田社長はユーモアセンスに溢れ部下に対しても立場をフラットにして振る舞うおおらかな方でした。横田様曰く、皆それぞれの役割があり、仕事という形でその役割を演じる事が必要とお話をしてくださいました。

同時にインタビューさせていただいた五十嵐様と長谷川様の両名に関しては肩書だけをみれば部下という立場であるにも関わらず良い意味で私達とも社長とも友人のように接していました。

社長の人柄が社内に影響し、良い社風になっている証拠であると思います。そして、実際に企業に行って見た際に一番感じたのは自分の思う企業の像と実際の企業像とのギャップです。それまで思う企業の像は厳しい仕事をして十分な給料はえられず苦しい生活を強いられるという勝手な想像がありました。しかしながら、上記した社長の人物像と同じく実際は全く違うものでした。

話を聞くと入社をする際に給与は特に気にしていなかったと聞きました。理由を聞くと給与や福利厚生は当たり前基準以上にある企業だからだそうです。社員の事を大事にする事が当たり前であるという事に驚きでした。自分の周りにはつらい社員生活を送っている人が多くそういう人たちの会社が自分のイメージに強く残っていました。なので、取材中にも言ったように社長や社員さん達の実際に見た会社の様子や空気を通じて自分が持っていた社会に対する不安などを減らすことができたという結果になりました。以上の取材インターンシップにておいて得られた発見や学び、社会人としての心構えや目上の方に対する姿勢などを現役の社会人が実際にその力を発揮している場面を目の当たりにすることで社会を直に感じる事ができました。このような経験は今後私の人生において大いに役立つと思いました。

以 上

2019年度取材インターンシップ 取材記録(チームL)

訪問先 前橋市役所 文化国際課様
日 時 2019年8月26日(月) 10時
場 所 前橋市役所 12階
学 生 共愛学園前橋国際大学
国際コース2年 小林 友美 (チームL)
心理・人間文化コース2年 大澤 千夏 (チームL)

インタビュー記録

係長 大嶋 智之 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

前橋市の第七次総合計画から入り、文化国際課の仕事内容、イベント情報、などを前橋市のホームページから研究されたのだろうと感じました。プレゼンの画面が共愛カラーでまとめられていると感じましたし、内容も簡素にまとめられていて相手に伝えようとするものとしてよくできていたと思います。

2. 「前橋四公祭」は前橋の魅力を発信する大切なイベントだと思います。

(ア) どういった人たちが参加して、協力していますか？

このイベントは市を内外にアピールするためにできたイベントで歴史はそんなにはないのですが、地域ごとに顕彰する組織がありそれぞれでも単独でイベントはしているのですが、年に一回集めています。市役所が取りまとめ役にはなっていますがお寺の住職さんや宮司さん、独自に研究所している方などが中心になっています。

他にも活躍されている大名や家はありませんが、何故前橋四公なのですか。

もちろん縦の軸で行けばそれだけいっぱいありますが、みなさんにわかりやすくお伝えするといった観点で行けば、丁度江戸時代初期から江戸時代末期にかけて活躍した前橋藩主を務めた大名を扱うことによってそんなに詳しくない方もとっつきやすく関心を持ちやすいことを意識しています。

(イ) 文化国際課のみなさんのお仕事や役割はどのようなものでしょうか？

まず、実行委員会があり、広告面などの事務局な役割をしています。当日も文化国際課の職員が交通整理たり、円滑に進むよう裏でイベントを進めたりしています。

(ウ) 前橋四公祭の観客の増加など、イベントの効果について教えてください。

去年は前橋祭りと合同開催をし、武者行列をしたことで視覚的にアピールできました。「お前はまだ群馬を知らない」のキャラクターを描いた人をお願いし、ポスターを作り色々アピールしている状況です。

イベントの効果は何を重視して把握されていますか。

イベント当日の参加状況や問い合わせなどです。上毛新聞で読者からの投稿があるのでそこをチェックして私たちの事業に関しての意見があるのでそれで振り返りをしています。

3. 前橋市民学芸員の養成について

(ア) 前橋学市民学芸員はどのように活躍をされているでしょうか？

この制度もまだ 5, 6 年と新しいですが全体的に 100 人ぐらいいらっしゃいます。学ぶ方はそれだけでなく伝える役割も担ってもらっています。

市民学芸員になってから伝えるまでにどういったステップがありますか。

講座が終わったかたにイベント情報をお伝えし大丈夫な方に当日の役割を伝えてガイドしていただいています。強制にはできないので積極的にお願いしています。

(イ) 「前橋空襲の語り部」はどういった方々がどのような活動をされていますか？

市民学芸員はもちろんなのですが、街中でのイベントになるので比較的前橋に住んでいる方をお願いしています。

ご担当の業務について質問します。

4. 文化国際課として地域面で重視していること、国際面で重視していることを教えてください。

国際面で行くと CIR といって外国の方来ていただいているのでそういった方にいろいろな場面で通訳をしてもらうなどあるのですが、国際的な面は、国の制度に左右されるので前橋市が独自にインバウンドや在住外国人を増やすための政策はなかなか難しいです。前橋には日本語学校がたくさんあるので、結果として七千人という在住外国人がいらっしゃるのでもそういう方々が住みやすいように橋渡しの役割を担っています。前橋国際交流協会が委託を受けていろいろな事業を展開しているのでそういった事業がより効果的に展開できるように前橋市も協力しています。

地域面は、歴史的なイベントをメインに近年始まったイベントも多く、そういうのは外部要因がありませんので、しようと思えばいくらでも自由にでき、効果も表れてくると思いますが、市役所がするといふよりいろいろな団体があるのでそのサポートやできればその地域だけで今後行っていけるように支援をし、連携ができるようにという思いでしています。補助金という金銭的バックアップは必要ですが、それを受けて活用できる核となる人が必要かなと思います。

5. 前橋市のビジョンは「めぶく」ですが、めぶくに関して文化国際課はどのようなアプローチを行っていますか。

めぶく思想が民間の視点で書いてあり、めぶくとなる市民と文化活動する団体が手を取り合っている。また、めぶく思想が前橋市文化振興条例と重なる部分があるので文化振興条例に従い私たちは事業を展開しています。

6. 個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

(ア) 仕事で失敗したとき落ち込んだとき、どう乗り越えてきましたか。

入社してから 25, 6 年になるが、表に出る失敗というのはないのです。個人の失敗でも周りがサポートしあいます。出た失敗を次にどうつなげるかが大事です。次にどういう行動を起こしていくかを人は注目しています。そういう視点で物事を前向きにか考えてもらえればいいのかと思います。

市役所に入ってから長いとおっしゃっていましたが、どのような経歴を積んできましたか。

事務職で入りまして、今はないのですが初めは建築部で事務の仕事をして 3 年間していました。企画部の交通政策課に入ってから 5 年間、そのうち 1 年間は出向という形で県庁のほうに行きました。職員課に 5 年間教育委員会総務課に 5 年間で今、文化国際課で 7 年目を迎えています。役所はいろ

んな所属があり人によっては三年で移動する人もいれば私みたいに 5,6 年で移動する人もいます。

前の部署での仕事が次につながることはありましたか。

役所入ってすぐのころはそういったことはなかったです。ただ役所には共通のルールがあるのでする上での基盤みたいのはどの職場に行っても変わらないです。行っている仕事の内容としては大幅に変わってしまうので生かせないことのほうが多いです。20 年以上仕事をしているとずっと前にしたことが生かせることもあります。

(イ) 学生時代にやっておけばよかったこと、やるべきことは何ですか。

自分のために時間とお金を使えなくなるのでそれが分かっているならば自分のために使うのが良いと思います。いろんな経験をしてもらい、その経験を生きたものにして将来に生かしてもらえればなお良いと思います。

大嶋さんは、実際に学生時代どういったことをされていましたか。

あまり勉強しなかったですね。バブルがまだはじけている頃だったのでいろんなアルバイトをしながら、公務員試験の勉強をしていました。

学生時代から公務員を目指していたのですか。

そうですね。公務員の勉強はしたのですが、大学の勉強はあまり真面目じゃなかったかな。でも、突拍子のないのが大好きで友達と前の日に決めて東北の 3 大祭りに行ってみたり、アメリカでレンタカーを借りて宿も取らずにぐるぐる回ってみたりしました。怖いもの知らずという面がありました。そういうほうが思い出には残りますよね。

公務員試験の勉強はどのくらいされましたか。

大学 3 年生ぐらいに多くしていました。その前から公務員試験に生かされそうな授業を選んでいました。

公務員を目指すきっかけはありましたか。

父が県庁職員でエンジニアでした。家に仕事を持ち込まない主義だったのでそういう姿勢が好きで父に影響されて目指しました。

公務員を目指すとしたら、採用されやすい基準などがありますか。

採用担当ではないので難しいのですが、前橋の人材育成というのがあります。前橋の職員としてどういう職員が求められているかが信頼にこたえる、チャレンジする、活力あふれるという 3 つがあります。信頼にこたえるというのは、自分に与えられた任務を確実にこなすことでちょっと面倒という気持ちだと市民からの信頼にこたえられないので信頼が大事です。決められたところ以外にも自分が興味あるものに手を出していくとか人間関係の中で仕事が成り立つのでそういった面で活気あふれる職員を考えています。気持ちの上でそういうスタンスでいてもらえると面接などでこの 3 点を意識してもらえると良いと思います。

インターンに参加することも自分に合っているかどうかを考えられるのでおすすめです。

前橋市役所に就職して一番よかったことは何ですか。

その場その場の部署でやりがいをもって仕事をしているのでどことは言えないです。

現在進行形で仕事しているのでこれから経験するかもしれないですね。どんな仕事についても自分の中で前向きにとらえてもらえればよいと思えばいくらでもできます。すればするだけ自分の中でも充実しキャリアになり自分のノウハウが蓄積されます。他人にどう評価されるのではなく、自分がどう気持ちよく仕事ができるか蓄積された知識をどう生かすかを考えたほうがいいです。経験する中で様々な場面での判断材料が身につくと思います。何をしても無駄なことはないです。

お仕事でのやりがいは何ですか。

今は係長なので、部下の仕事をした達成感やそこから生まれる笑顔が見られるとやりがいを感じます。

塩澤様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

比較のところの着眼点は面白いと思いました。高崎に多胡スタジオがあるので施設が目立つ一方、ソフト面がないわけではないので高崎市でいいなと思うものだと観光になってしまうのでどこまで比較できるかわからないですが高崎観光大使という事業をして市民に大使になってもらっています。そういうところも調べてみるといいなと思いました。逆に前橋も施設という面ではアーツ前橋や前橋文学館、市民文化会館もありますし、比較対象にはならないかもしれませんが前橋プラザ元気21もあります。全体的イメージは正しいのかもしれませんが、そうではない部分もどちらあるので調べてもらえればいいなと思います。

四公祭、リビングガイド、市民学芸員、多文化共生の中でどれか関わっていらっしゃるものはありますか。

主に国際関係の担当者は私しかいないので国際関係ですね。もちろん係長はいるのですが担当としては私しかいないです。基本的には国際がらみのことは自分が担当として仕事しています。

2. 外国人のための前橋市リビングガイドを制作した経緯を教えてください。

(ア) どういった市民にどの程度の部数を配布しているのでしょうか？

ネットのみの配信なので冊子での配布はしていません。昔は作っていた時期はあるのですがかなり前になります。インターネット上で見ていただく形です。

なぜインターネット上に移行したのですか。

広くいろんな方に見ていただくためと予算の関係もあります。

(イ) 外国のみなさんから、どのような問い合わせがありますか？

リビングガイドが直接ではないですが、外国人相談窓口を設置していて大部分は相談窓口でしています。

相談窓口の対応はどういった方がされていますか。

実はリビングガイドもそうなのですが前橋市役所から前橋市国際交流協会に業務を委託して教会のほうに業務を委託しています。協会からお願いされた方が業務を行っています。大体は外国の方が業務に当たっています。相談内容としては、日常生活に直結する税金の話や単純に翻訳通訳、日本語がわからない、住民登録、在留資格、病院、福祉に関することなどを質問受けています。年間500件ぐらいですね。

外国の方はこういった窓口があることの認識はどのくらいあるのですか。

人と人とのつながりの中で情報共有されているのが多いです。特にブラジル、ポルトガルの方はそういう情報をお互い交換しているので利用が多いです。いいアイデアがもらえれば宣伝活動していきたいですね。伝わっている国とそうでない国があると思います。

3. 国際交流・多文化共生に関するイベントについて

(ア) イベントに参加するにはどのようにしたら良いでしょうか？

国際交流協会と市内にある NPO 法人の3社で協力しながら多文化の集いというのを行っています。去年から本格的に始めた事業です。FACEBOOK で調べてもらえればわかると思います。年に一回12月に国際交流パーティーを行っていて毎年少なくとも 300 人、多くて 500 人ぐらいいて、外国の方も 3 割ぐらい参加しています。これも企画運営しているのが国際交流教会で毎年募集しているのでよかったですぜひ参加してください。誰でも参加することは大丈夫ですし学生ボランティアという扱いでしたら問題ないと思います。

前橋市職員のお仕事について質問します。

4. 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。

元々国家公務員になろうと思っていたのですが、大学院の時に担当の教授から民間の会社で発展途上国を開発する会社を面白いからやってみないかとおすすめされて面白そうだなと思って入り2年間働いたのですが仕事忙しく残業徹夜大変でした。そんな中で親から地方の公務員試験があるから受けないかと言われて受けて受かったので3月31日まで働いて次の4月1日から前橋市役所に努めて16年です。出身が前橋なので地元に戻ってきたようなものです。

市役所に就職されてから16年ということでしたが、今までどのような仕事を担当されてきましたか。環境関係の仕事を1年し、住民関係の仕事を2年間し、3年目から県庁に派遣されて県庁で地方自治や過疎問題を研究してほしいというお話を受けて県庁で2年働きました。戻ってきたら市民税課を4年間、その後にぎわい商業課で4年間働きその時に奥山先生と出会ってやる気の木プロジェクトなどを担当しました。その後移動して文化国際課で4年目です。

移動には今までの経歴は関係あるのでしょうか。

人事は唐突というか分からない部分が多いです。でもなるべく行きたい方向の勉強をしておくほうがいいですね。移動は全然違うことをすぐにやらされるので、例えば市民税などで行ってすぐ処理しなければいけないので確定申告などは分かっていると仕事ができないので行く前にも勉強したし行ってからも勉強しました。行けばその日からその担当なので、前任者に聞きやすい場合もあれば聞きにくい場合もあります。自分は聞きにくい状況におかれることが多かったですね。スペシャリストではなくても市役所の中ではその専門家なので資料や本で勉強することが大切です。大変ですけど嫌じゃなければその大変さが面白味かなと思います。色々なことを経験できるのが魅力の一つでもあります。

5. 一日の仕事の流れを教えてください。

まず初めにメールをチェックします。急ぎの仕事や新しく来た業務がどのくらい時間がかかるのか判断する目的でメールをチェックしそのあとに比較的締め切りが近いものからしていくのが大体の流れです。

6. 仕事と生活の両立はどのように行っていますか。

子供が生まれる前までは仕事優先で両立とまでは考えず、仕事が切りついてから自分のことをしていたのですが、子供が生まれてからは奥さんに全部任せるわけにもいかないので家庭を大事にしなくてはという意識が生まれました。早めに帰って子供の顔を見て少しでも子供の面倒をみたいので、時間を意識するようになりました。時間内でいかに仕事をできるか考えて仕事をしています。

7. 前橋市に就職する前後でのイメージの違いはありましたか。

元々あまりイメージは持っていなかったです。イメージというより民間は民間で公務員は公務員で良さがあると思います。

公務員の良さはどういう点だと考えますか。

民間に比べれば残業がなく比較的早く帰れるところですかね。

8. 学生時代に海外留学、サークル、ボランティアなどの経験があれば教えてください。

大学2年の時に大学の研修旅行でタイに行きました。それがきっかけで海外関係の仕事をしたいと意識するようになりました。特に力を入れていたのはサークル活動で大学2年から大学院の2年までしたのですが環境教育のボランティアで小中学生を対処にした環境教育を考えるプログラムを2か月に一回企画して当日運営するというのを5年間していました。企画立案の力は身についたと思いますし、イベント当日の危機管理能力は今に生かされています。

9. 最後に学生時代にやっておくべきことを教えてください。

勉強以外に何かこれをやりましたというのを言えればよいと思います。自分の興味のある中で取り組み、頑張ったといえるものがあると良いのではないかと考えます。

今回の取材インターンシップを通して、私はたくさんのことを学ぶことができた。

まず私は、事前研修でインタビューのノウハウについて学んだ。私は、インタビューのノウハウについて学んだことがなく、この講義で初めて学んだ。話してから話題を引き出すノウハウは、簡単なようでとても難しく、自分のためになったと考えた。

また、社会に出るために必要な準備などを考えることによって、自分がこれまで何をしていたか、自分がこれから何をすべきかなど改めて考えることができる機会になった。そして、普段の講義では学べない、企業が採用基準で重視する項目など自分が就職活動する上で知りたかった情報を知ることができた。

さらに、取材インターンシップでは、取材先である前橋市役所・文化国際課についてよく調べ発表する機会があった。調査し、発表する機会があったことによって、前橋市役所について深く知ることができ、自分が市役所に就職面接を受ける際にも役に立つのではないかと考えた。

また、調査報告と実際の取材では、文化国際課の人たちにインタビューリストを使いながら実際にインタビューをした。大学生にとって、社会人にインタビューする機会はあまりなく、とても貴重な経験となった。そして、自分が就職に対して不安に思っていたことや社会人にインタビューをしたいことが聞けてとても良かった。また、取材する前と取材した後での公務員の仕事に対する自分の中のイメージが変わった。

さらに、実際にインタビューを行い、学んだことは二つある。一つ目は、前橋市市役所職員の人たちは、前橋市民の方のことを第一に考えて仕事を行っていることを知った。二つ目は、仕事上で失敗をしても周りがサポートしあい、失敗をしたあとにどう行動し前向きに考えるかが大事と聞いた。私は、バイトやグループ活動などでたまに失敗することがあるが、前向きに考えることの必要性を改めて知ることができたと考えた。

これらのことから、私はこの取材インターンシップでたくさんのことを学んだ。今回取材させていただいた大嶋様と塩澤様には、お忙しいところ取材させていただき、とても感謝している。この経験を生かして、あと2年半の大学生活が充実したものになるようにしていきたいと考えた。

取材インターンを通して社会人の方と比べて自分に足りないものが見えた。マナーが足りていないと感じた。お話しする中で相手が話していただいているのにさえぎってしまう場面もあったため会話を行う上でもっと気を付けるべきだと感じた。また、敬語等自分の話し方もおかしい部分があったので様々な人と会話をする中でこのような力を身に着けていきたい。公務員ということもあり部署が何年かごとに変わるため切り替えが大事とおっしゃっていた。また、失敗したときなどもこれからの行動次第で周りからの評価が決まるそう。そういった日々の考え方は普段の大学生活から参考にできると思うため、すべての物事に前向きに取り組むように意識を変えていきたい。

文化国際課は、歴史関係のイベントやアーツ前橋や前橋文学館などで精力的に市民に対して前橋の文化・歴史を伝えることを念頭に考えていると取材を行う前は、考えていた。大嶋係長のイベントなどは、しようと思えばいくらでもできるが、市役所が主体というより市民団体やそれぞれの地域が自立できるような支援を念頭に置いているという言葉が印象的だった。市役所は、市民第一に考え市民にとってわかりやすさを考えていることが分かった。また、様々な団体に業務委託などをしており仕事ではどんな業務においても多くの方が関わっているということを知ることができた。インターネット上だけでは職員の仕事までは分かりにくい前橋市役所のことを知ることができて良かった。

インタビューを行うのは、共愛 coco の活動で昨年地域の方にインタビューした以来であるが、その時の反省点が生かされなかった部分もあった。インタビューシートにとらわれて質問してしまった点が反省点である。元の準備資料にとらわれすぎず会話をうまくつなげることを意識すればより良いインタビューになったのではないかと考えた。また、インタビューが仕事の都合で一度席を外したことでもう一方の方に質問する時間が逆に想定よりできたが、うまく間を繋げられない瞬間もあった。臨機応変に対応する力を身に着ける必要があると感じた。

取材インターンで感じたことや反省点をこれからの大学生活において意識し、より充実したものとなるようにしていきたいと考える。

以上

2019年度取材インターンシップ 取材記録まとめ

訪問先 前橋市文化スポーツ観光部文化国際化課様

日時 2019年8月26日（月） 10時

場所 前橋市役所 12階

学生 共愛学園前橋国際大学 国際コース2年 チームM 富岡千晶・高田奈緒美

文化国際課 係長 大嶋智之 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

発表した内容は正しく何も間違いがないので、よくまとめられていた。

パワポに共愛カラーを使用していて共愛をイメージしているのが垣間見られた。

2. 「前橋四公祭」は前橋の魅力を発信する大切なイベントだと思います。

(1) どういった人たちが参加して、協力していますか？

四公祭の目的は前橋の歴史を掘り起こして、それを市の内外にアピールして前橋市の魅力発信と共に産業（観光・商品開発）に結びつけ、経済の繁栄にできるようにしようと始めた。

前橋市各4地域に分かれていて、それぞれ専門的学習を受けた個人・宮士・自治会の関係の方などが集まって実行員会のような組織を作っている。

(2) 文化国際課のみなさんのお仕事や役割はどのようなものでしょうか？

四公祭のイベント時にはこれら民間団体が集まって運営しており、その取りまとめ役を市役所が行っている。

3. 外国人のための前橋市リビングガイドを制作した経緯を教えてください。

(1) どういった市民にどの程度の部数を配布しているのでしょうか？

実はリビングガイドは紙媒体ではなくインターネット上のもので、前橋市のホームページから、前橋市の外郭団体である前橋国際交流協会のリンクが貼られていてそこからアクセスできるもの。そのため、市役所ではアクセス数はわからない。

前橋市の歴史、観光情報、市民生活をする上で必要な手続きが簡単に書かれている。それを英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ルビが振ってある日本語の5ヶ国語で書かれている。最近ではベトナム人が増えてきたので、ベトナム語を準備している。

(2) 外国のみなさんから、どのような問い合わせがありますか？

月曜午後・木曜午前の週2回相談窓口を開いており、昨年は477人が窓口相談にきた。

1. 税金（納税通知が自宅に届いてどう支払うか、猶予はどうか）
2. 翻訳・通訳

3. 住民票などの市民課の窓口の内容
4. 健康について
5. 福祉について

(3) 前橋市の多文化共生をどのように進めていますか？

前橋市役所にはCIRと呼ばれる外国から来た職員がいる。今来ているのはアメリカテキサス州の黒人。通訳や市役所の英語が必要な業務に携わる

メインは前橋国際交流協会に補助・委託をして多文化共生事業を実施している。先ほどの相談窓口もその一環である。

その他には、日本語教室・交流事業を実施。

また、前橋国際交流協会にもイタリア人女性がおおり、イタリア語・英語に通訳してる。前橋市役所文化国際課と前橋国際交流協会が二人三脚で多文化共生を推進している。

4. 前橋市民学芸員の養成について

(1) 前橋学市民学芸員はどのように活躍をされているのでしょうか？

前橋の文化・歴史を売りにし、それをきっかけに前橋市民にも、市外民にも前橋を知ってもらうために作られた。

前橋市民学芸員は「自分の町を知ろう」制度化したものだが、ただ単に自分たちが知るだけでは学習の域で止まってしまうので、自分が学んだこと生かして、市外・県外の人たちに伝える役割を担ってもらっている。

講座を半年で10数回受けてもらい、受けてもらった地域活動に積極的に活動してもらうよう頼んでいる。今の所は7期までいる。

(2) 「前橋空襲の語り部」はどういった方々がどのような活動をされていますか？

市役所は様々な手段で戦争体験、平和の尊さを知ってもらう事業をしており、前橋市では、8月15日に戦没者の慰霊するほか、8月5日に市役所のロビーを使って前橋空襲の話をしている。寺社や教会中心に人に集まってもらい、一斉に慰霊をする。町中にはたくさんの寺社や教会があるため、市役所だけでなく市民学芸員の方たちが、自分たちが学んだことを伝える役割を担っている。

また、市民ミュージカルで前橋空襲を知ってもらう機会も設けた。

5. 国際交流・多文化共生に関するイベントについて

(1) イベントに参加するにはどのようにしたら良いのでしょうか？

前橋国際交流協会のホームページにイベント情報が載っているのでそれを確認すると参加しやすい。広報前橋を見れば情報があるので、定期的に確認すれば参加できるきっかけがある。また、ボランティアも募集しているのでボランティアという視点からも参加できる

市役所が主催するイベントはほとんどなく、共催という形で行っている。
例えば、7月にはJICAと共催して街中でカラオケ大会を実施した。

(3) 学生がイベントを企画することはできるでしょうか？

全くできないことはないと思われる。何かこうやったほうがいいことがあったら前橋市役所文化国際課に話してくれれば、面白いものであればできるかもしれない。

いきなり市役所は、、、と思うなら奥山先生に相談してみるといい。

例えば共愛学園前橋国際大学のオープンキャンパス時に留学生と何かするなど。大学周辺の小屋原町、駒形町の人たちとの交流。これは交流だけでなく多文化共生へのきっかけになるかもしれない。

ご担当の業務について質問します。

6. 文化国際課として地域面で重視していること、国際面で重視していることを教えてください。

国際面

前橋市に来る外国人は労働よりも勉強を目的としている人の方が多い。職業に役立てためのスキルアップをしようとしているため、日本語学校が多い。なので日本語学校などと連携をしながら事業を実施して行きたい。

また、前橋国際交流協会と連携をしながら外国人のニーズを把握して行きたい。

地域面

やればやるだけ効果が目に見えてわかるのでたくさんやりたいことがある。

まず、四公祭・市民学芸員と連携して事業を実施して行きたい。

そして、文化を振興するにあたって、市役所は市民や文化活動を行う事業者と手を取り合っていく。主体は行政ではなく、市民である。地域の人たちとバランスをとって、地域の人たちがやりやすい形で実施をして行きたい。

7. 前橋市のビジョンは「めぶく」ですが、めぶくに関して文化国際課はどのようなアプローチを行っていますか。

めぶくのビジョンが民間の視点で書いてあり、キーワードが民間共創である。めぶくという思想は、文化振興条例とクロスしているので、文化振興条例の精神にのっとって事業を展開いくことは芽吹くとマッチしている。

8. 個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

(1) 仕事で失敗したとき落ち込んだとき、どう乗り越えてきましたか。

市役所は組織で仕事をしているため、個人の失敗や成功は表に出ない。

ずっとその失敗に止まっていると進歩できない。周りの人は失敗したことを気にしておらず、むしろその後どう動くかを見ているので、そういう風に考えていけばいい。

(2) 学生時代にやっておけばよかったこと、やるべきことは何ですか。

社会人になると、自分のために時間とお金を費やすことができなくなる。

今は自分のために投資していくべき。バーチャルではなくリアリティを追求できるようなことに費やすと自分の人生の選択でいい指針になる。迷った時に実体験とか成功例が導いてくれるので判断基準が確立されていく。

(3) 仕事と生活の両立はどのように行なっていますか。

1. 家族 2. 仕事 3. 遊び

生活のペースをしっかりとしないといい仕事ができない。ただし、緊急な時は仕事を優先することもある。教育委員会に勤めていた時、東日本大震災が起こり、給食で放射能の問題がありこもりつきりだった。

文化国際課文化国際係 副主幹 塩澤典茂 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

比較の着眼点が面白いという印象を受けた。しかし、高崎はお金がかかる施設をつくっているように感じるが、側面が無いというわけではない。市民であれば誰でもなることできる、高崎観光大使事業というものもある。前橋市にもアーツ前橋、前橋市民文化会館、前橋プラザ元気21などの施設があり、イベントや講座を開催している。それぞれソフト事業やハード事業があるのでよく知る必要がある。

前橋市職員のお仕事について質問します。

6. 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。

もともと学生時代は国家公務員を目指していた。大学の教授のすすめもあり、発展途上国を開発する会社(海外開発)のコンサルタントの仕事に興味を持ち、2年間働く。当時、非常に忙しく徹夜もあり、激務だった。体調も優れず、母親のすすめで公務員試験を受験した。

7. どのようなお仕事を担当されていますか？

基本的には国際関係全般と文化関係を担当している。国際がメインで幅広くカバーしているが、その他に文化関係を担当している。国際関係で頻繁にあるのは海外とのメールのやりとりで週一回以上ある。姉妹都市のバーミングハム、ミシュランネットワークでフランスのクレルモン・フェランと連絡を取り合った。

実際に海外へ行くことはあるのか？

一昨年、友好都市のイタリア、ポンペイ都市へ行った。スローシティの加盟の手続き、10名の引率とタイムスケジュールの管理など、大変であったがよい経験になった。なかなか海外へ行くチャンスはない。

8. 一日の仕事の流れを教えてください。

出勤後、メールは必ずチェックする。締め切りが今日までということが希にある。急にやらなくてはいけない仕事、新たにどれくらいのボリュームの仕事がくるのか、期限を見つつ確認しなければならない。

その後、締め切りに近いものから業務する。特に締め切りを意識している。デスクワーク、たまにイベントがある。先日、前橋市民ミュージカルがあり、一日市民文化会館にいて手伝った。イベントの振り替え休日はある。

9. お仕事のやりがい、工夫していること、目標についてお聞かせください。

- ・国際関係は一人でやっていて、とても大変である。しかし同時にやりがいもある。
- ・テレビ、新聞に出ることで大学時代の先生、家族に見てもらえることは嬉しい。
- ・大変ではあったが、海外へ行けたこと

一人で担当していて大変ですが、人が足りていないのでしょうか？

前橋国際交流協会があるため、市役所の担当は少ない。

個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

10. 前橋市に就職して一番よかったこと、苦労したことは何でしょうか。

〈大変だったこと〉

まず「異動」がある点が大きい。県庁で2年間研究をし、確定申告を扱う市民税課への異動があった。先輩から教えてもらえることもあるが、そうはいかないこともある。異動する前に勉強することをおすすめするが、異動した後も本を買って勉強することも必要になってくる。

次に「期限」である。税金関係で他の班、近くの人がミスしたことがある。そのミスをカバーしなければならなかった。

最後に「クレーム」である。税金、環境関係で対応することがある。

失敗したときにどのように乗り越えるか？

なるべく失敗しないようにする。ミスは誰にでもあるが、まずは失敗しないことが一番。

11. 仕事と生活の両立はどのように行っていますか。

自分が一人(独身)の時、子どもが生まれるまでは基本的に仕事優先だった。自分の合格点が出るまで、とにかくいいものをつくるために納得いくまで時間をかけてやっていた。子どもを考えた生活するようになり、両立するために期限、締め切りを意識している。優先順位をつけて、限られた時間の中で最大限のパフォーマンスをする。

自分の時間はありますか、またほしいと感じますか？

ほしい。

時間はないが、将校団などの課外活動も行っている。

12. 前橋市に就職する前後でのイメージの違いはありましたか。

もともとイメージは持っていなかったため、変化は無かった。民間は民間のよさ、公務員は公務員の良さがある。公務員になってから、民間のときに比べると残業は無く、早く帰る

ことができる。しかし、転職して給料は大幅に減った。反対に民間は出張は多く、大変だが出張があるのはよい点と言えるかもしれない

13. 学生時代に海外留学、サークル、ボランティアなどの経験があれば教えてください。

大学2年のときに大学の研修旅行で一週間から10日間ほどタイに行く研修があった。それまで海外へ行ったことはなかった。海外に対してあまり興味を持っていなかったが、これをきっかけに海外を意識し始めた。アメリカ、ネパール、ベトナムに友人と旅行へ行った。

大学2年から大学院2年まで5年間くらい環境教育のボランティアサークルをやっており、小中学生を対象に2ヶ月に1回イベントを自分たちで企画していた。

そういった経験は役立ったか？

企画立案とイベント当日の運営、安全管理、今も当時の意識はある。かなりの回数をやっていたため、町中のイベントで活きている。また、発案の際にも役立っている。

14. 最後に学生時代にやっておくべきことを教えてください。

楽器はできると良かったかもしれない。

様々な分野があると思うが、学生時代に何かこれやったというものが1つあればよい。課外活動、学内活動を通して経験することで就活のとき、役に立つ力になるかもしれない。

とっておいたほうがよい資格は？

行きたい方向に合わせてとるのがよい。

必要かもしれないと考え、大学3年から教員免許のために授業を取り始めた。

アルバイトは何をしていたか？

ガソリンスタンドや塾講師、家庭教師などをやっていた。

いまの仕事でアルバイトでの経験は活きているか？

直接的にはない。生活の中で役に立つことはある。

感想（富岡千晶）

以前から興味のあった役場の業務について取材することができた。これまでの取材インタビューを通して学んだことや気づいたことを自分なりにまとめてみたい。

まず一つ目に、プレゼンテーション発表のために調査をする中で前橋市役所の果たしているさまざまな役割が見えてきた。ホームページのサイトを見ていると基本構想や推進計画などの他にもたくさんの情報があり、五分程度でまとめるのが非常に難しかった。そして、今回取材させていただいた文化国際課様の業務だけでも、文化国際係、文化振興課、アーツ前橋、前橋文学館など多岐に渡っていることを知った。

「高崎市と前橋市の文化の伝え方の比較」において、一概には言えないが「高崎市はハード事業が多く、前橋市はソフト事業が多いのではないか」という考察を発表した。しかし、塩澤様からご指摘いただいたように、高崎市にも前橋市にも両者は顕在していることを十分に理解していなければならなかった。一見すると高崎はハード、前橋はソフト、というように見えてしまうが、内部までしっかりと調べる必要があった。

私が興味を持った文化国際課の業務として「前橋リビングガイド」があった。外国人のためにくらしのガイドをホームページ上で提供しているサービスである。取材の中で、前橋市に在住している外国人への対応について詳しいお話を伺うことができた。市役所には相談窓口があり、税金・翻訳・住民票・健康・福祉等についての相談を受けるときいた。今後、さらに外国人の人口が国内で増えていくことが考えられる。時代に合わせて柔軟に変化していることに気づいた。

二つ目に、市民主体を重視していることに気づいた。前橋市全体としては、ビジョンに「めぶく～良いものが育つまち～」を掲げており、自らの手で土地を育て、芽吹き、成長を見守っていく意思が込められている。市民が主体となってまちづくりをしていくために、市役所ではそれをサポートする形で働きかけていることが分かった。

三つ目に、働く上での責任感の重さを感じた。どの職業であっても同じことが言えるが、責任感がないと人間関係でつまづいてしまう。信頼を築くためには不可欠なものとなっている。自分の担当する業務はもちろんのこと、周りの人の業務に対しても最後まで責任を持ってやり切る覚悟が必要であると分かった。

四つ目に、大嶋様と塩澤様への個人的な質問を通して得た学びをまとめたい。まず、私の印象に残っている質問が「失敗の乗り越え方について」である。私は失敗することが多々あり、そのたびに落ち込んでしまい立ち直れず、他のことも手につかなくなってしまう。質問の答えを聞いて、どうやって失敗を対処すればよいのかヒントを得ることができた。「仕事で失敗したことに対しては周りの人はあまり気にしていない。その失敗はみんなでカバーできる。失敗した後にはどうするのか、という部分を大切にしている。」とおっしゃっていた。「なるべく失敗しないようにして、失敗したときは頑張って取り返すしかない。」という声もあった。失敗に対して落ち込むことにエネルギーを使うのではなく、その後どう行動するのか考えることが重要であると分かった。

「学生時代にやっておいた方がよいこと」については「様々な分野があると思うが、学生時代に何かこれやったというものが一つあればよい。課外活動、学内活動を通して経験することで就活のとき、役に立つ力になるかもしれない。」というアドバイスがあった。私は何もかも中途半端で、一つのことを集中的にやるよりも様々なことに手を伸ばしたいと思って

2019年9月16日

いる。しかし、何か一つでも夢中になれるものを見つけて、自分のアピールポイントを発見したい。大学二年の夏期休暇を終え、学生生活もあと残り半分ほどとなってしまった。漠然と時間を過ごすのではなく、自分は何がしたいのかをよく考えて行動していきたい。取材の中で市役所職員の生の声を直接聴くことができたため、自分のライフキャリアを考える上でもよい参考になったと感じている。

最後に、反省点をまとめる。パワーポイントでの発表については直前で修正したが、少し簡素な内容になってしまった。さらに内容に厚みを持たせる必要があったと感じている。事前研修での他グループの発表から良い点を取り入れたが、限られた時間の中でもよりよいものが作れるようにしたい。取材日当日での反省は、うまく自分の意見を言えなかったり、下調べしたにもかかわらず深く聞き込むためのよい質問ができなかったり、後悔している点が多い。私自身、コミュニケーションをとるのが苦手であるので、普段から発言の機会を増やしていくことを心がけていきたい。

事前研修と取材を終えて、共愛12の力の「協働する力」、「構想し、実行する力」、「分析し、思考する力」が身についた。アポイントメントの電話もグループを代表して挑戦してみたが、とてもよい経験になった。残りの事後研修においては最終まとめを通して、さらに少しでも成長できるようにしたい。

感想（高田奈緒美）

今回は、取材インターンシップを通して前橋市役所、文化国際課の大嶋智之様と塩澤典茂様にお話を聞くことが出来て本当によかったです。

取材インターンシップではまず、前橋市役所様に訪問する前に事前研修にて前橋市のことや、前橋市役所様についてグループのメンバーたちと一緒に調べ、まとめ、発表しました。一通りプレゼンテーションを作成し終わってみて、正直に言って、あまり満足のいく出来ではありませんでした。そのままの状態では発表に挑んでみましたが、結果はやはりいいものではありませんでした。他のグループのプレゼンテーションを聞いて、そこをそう加えていたら良かった、や、パワーポイントで、もっとここを工夫すれば良かった、そういった考えがあるのか、など、自分たちのプレゼンテーションよりも遥かにいいものばかりで、衝撃を受けました。前橋市役所様に訪問する際にこのプレゼンテーションをするのは流石にどうかと思い、いくつか修正しましたが、納得のいくものではありませんでした。このことは今でもすごく後悔しています。なので、最終発表の際には、このような思いをしないうえにも、私も、同じグループのメンバーである富岡さんも満足のできるプレゼンテーションにしたいです。

前橋市役所様に訪問し、インタビューをした際、私は進行係として大嶋様、塩澤様に質問をしました。慣れないインタビューで声が小さくなったり、上手いコミュニケーションが取れなかったりと、反省ばかりのインタビューになってしまいました。ですが、このようなインタビューにも真摯に受け止め、答えてくださったお二人には本当感謝しています。いつかまた取材や、そういったスキルを必要とする場に直面した時のことを考えると、しっかりと質問の投げかけや受け応えが出来るようにする必要があると思ったので、そういったスキルを磨いていく努力をしていこうと決意しました。事前研修でもインタビューの練習はしたのですが、知り合いにインタビューをするのと、そうでない方にインタビューするのでは全く違うため、インタビューのスキルを上げるには違ったアプローチをしなければならないと思いました。

また、大嶋様も塩澤様も、私たちが事前に提出したインタビューリストに、それに対する答えをたくさん書かれていたので、仕事が忙しい中、作成してくださったと思うと嬉しさと申し訳なさがあります。

大嶋様と塩澤様にインタビューをして、お仕事の大体の内容や、前橋市の理念、個人的なことなどを知ることができました。市役所とは個人プレーではなく団体での仕事なので、どの部署も、前橋市役所の基本理念を軸にお仕事をなさっていることが分かりました。

大嶋様と塩澤様のお話を聞いていて、中でも特に印象に残ったのは学生時代のお話です。お話の内容ももちろん面白くて素敵なものでしたが、何よりもお二人とも懐かしむようにどこか嬉しそうに、楽しそうにお話ししていたので、学生時代の時間というのは本当に貴重で素晴らしいものだということが伝わってきました。学生の中に過ごした時間や経験などは、何年、何十年経とうと、忘れることのできない大切な時間だということがわかりました。私も残りの学生の時間をどう過ごすか、何に時間を割くか、などと大切に使っていきたいと思いました。

この度は、このような機会を得られてとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。これはすごくいい経験になりましたし、これからの大学生活や、就職活動、社会人になってか

2019年9月16日

らの生活に生かしていきたいです。最後に、忙しい中時間を作ってください、私たちの質問に答えてくださった大嶋様と塩澤様、このような貴重な場を作ってくださいだった奥山先生、一緒に事前研修でポスター、パワーポイントを作って発表してくれた富岡さん、大澤さん、小林さんに感謝します。本当にありがとうございます。

まだこれから最終発表を控えているので、訪問前に行ったプレゼンテーションよりも良いプレゼンテーションが出来るように、パワーポイントも発表も、グループのメンバーと一緒に協力して頑張っていきたいと思います。

以上

2019 年 9 月 13 日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市役所 環境政策課様

日 時 2019年8月29日(木)午前9時30分

場 所 前橋市役所

学 生 共愛学園前橋国際大学

チーム N 情報・経営コース 2 年 齋藤麻厘愛
設楽理紗
清水歩果

インタビューリスト

課長補佐 大山 幸成 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

よく調べられていてまとまっていたよかったです。

2. 業務内容について

- 環境政策課の事業内容を教えてください。

環境政策課には3つの係(環境森林係・環境保全係・赤城森林事務所)がある。

主に環境森林係では助成事業、生態系の保護、啓発事業(イベントなど)、新エネルギー設備(太陽光・小水力発電所)の導入などを行っている。

環境保全係では大気汚染、水質汚濁など前橋市の環境の監視をしている。

赤城森林事務所では市有林の管理、市有林に関わる有害鳥獣(鹿・イノシシなど)の対処

- 大山様のお仕事について教えてください。

全体の活動や係員の資料、書類などのチェックまたはその期限などを伝える進行管理に務めている。

- 環境政策課のお仕事の範囲が非常に多岐にわたりますが、職員のみなさんでどのように役割分担をしているのでしょうか？

時期や仕事の繁閑によって他の課と協力して活動を行っている。

新入社員にはやりやすい仕事から、プロジェクト活動などの取り組みはベテランを中心として行っている。

2～3年の間で業務を変えていろいろな仕事を実行することで分担も同時に行う。

- また地域のみなさんとどのような協力をしているのでしょうか？
より多くの市民の方々とふれあいを増やすために HP や広報で声かけをして自治会や環境についての講座を行っている。
主なイベントとしては子ども向けの自然体験イベントやエコクッキングなども行っている。
- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。
なかなか必要な資金が集まらない状況でも自分事業が認められ成功した時にやりがいを感じ、その事業に対しての協力が得られなかったり事業がうまく進まなかったりした時に大変だと感じる。
- 様々な業務を担当なさっていると思いますが、そのなかで何か困っていることはございますか。
社員のみんなに仕事の手伝いをしてもらいたいときどうすれば快く受け入れてもらえるか考えながら進めることが難しい。

3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

→6 月が全国で環境月間であるため、環境政策課は環境パネル展を行っている。

また、環境部が新エネルギー設備の導入、食品ロス削減の推進、小型家電等の回収に取り組んでおり、新エネルギー設備の導入として小水力発電と太陽光発電を行っている。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

→環境の学び舎授業として自然体験のイベントや講座を行っている。夏休みに前橋市の小学校に資料を配布して、家族で環境維持に協力してもらう活動をしている。また、環境基本計画を分かりやすくしたものを配布して、前橋市の小学 5 年生を対象に前橋市環境文化センターで環境教室を実施している。

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

→環境について考えること。

様々な面で環境維持のために協力すること。(ゴミを分別する、省エネを心がける、食べ残しをなくす、エコバックを利用する 等)

4. 「めぶく。」について

- 大山様は前橋市のビジョンである、「めぶく。」とはどういうこととお考えでしょうか。

→将来都市像などを実現するための基礎になる部分。

- 環境政策課では「めぶく。」というビジョンのもと、どのような政策を行っているでしょうか。

→現在の環境を守って、次の世代に繋げていく活動を行っている。具体的には、環境について考えてもらうための講座や啓発、こどもたち向けの体験活動を行っている。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

5. 大山様の就職の経緯をお教えてください。

当時は、群馬に就職し幅広い仕事をしたいと考えていたから。

6. 就職したての頃に苦労したことは何でしょうか。

就職したての頃は年上の方が多かったためなかなか職場に馴染むのが難しかった。

7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

行っている事業や活動の中、市民の方々と関わる上で感謝されるとうれしい、楽しいと感じる。

8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

市民の方々の中で役所がすることが不可能な取り組みをしたい、または自分の主張を通したいというクレームなどの説得や対処が難しいときに苦しいと感じることがある。

9. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。

仕事中和プライベートのめりはりをつけること。

仕事時は仕事に専念し、家にいるときは仕事のことは考えずにプライベートの時間を大切にする。

10. 業務においてやりがいを感じる時はいつですか。

自分のやりたい事業が、自分の想定していたスケジュールや内容で進んだとき。

11. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。

20代～30代の職員が多いため活気がある。

12. 前橋市役所では人材採用の際、どのような点を重要視していらっしゃいますか。

話をするときにアイコンタクトができているか。自分の主張をはっきりと言えるか。2次試験、3次試験が面接なので人物を重視している。

13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。

アルバイトを経験する(人付き合いやお客様との接し方を学ぶため)。
旅行をする。

環境企画係 主事 亀井慎太郎 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

よく調べられていてまとまっていてよかった。

2. 業務内容について

- どのようなお仕事を担当されているか教えてください。

太陽光発電所の維持管理、省エネ機器に対する補助金の窓口、自然環境調査(鳥や植物、昆虫などの生息調査)

- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

知らないことが多かったので勉強することが多く、知識が増えていくことにやりがいを感じる。

3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

環境配慮型社会の形成の基に地球温暖化の防止に努めていて、小水力発電所の建設から発電に至るまでを市町村で行っている。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

前橋環境家族(7、8、9月で子供にもできやすいようなものを家庭で実施してもらう。)、小学5年生で環境学習の実施(環境について知ってもらう。また、めだかの学校というもので生態系を知ってもらう。)

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

1人でやっても変えられないから、身近な環境について興味を持って考えること。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

4. 前橋市への就職の経緯をお教えてください。

大学で4年間東京に出たことで、周りの人に支えられていたことに気づき、一般企業で会社の利益のために働くよりも、お世話になった人に恩返しがあったため。

5. 就職前後を比べて変化したことをお教えてください。
業務について聞かれたときに、自分の発言が代表としての発言になるので、発言に対する責任感が重くなった。
6. 就職したての頃に苦労したことはどんなことですか。
いきなり社会に出て何もわからないことに苦労した。インターンシップにも参加したことがなかったので、社会人のマナーや仕事の進め方などわからなくて苦労した。
7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。
日々業務が変わっていく中で、業務をうまく対応でき、スムーズに進む時。
8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。
業務に対してうまく対応できない時。
9. 業務においてやりがいを感じることは何時ですか。
勉強することが多く、知識が増えていくことにやりがいを感じる。
10. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。
和気あいあいとしている。わからないことがあったときに助けてくれて、こえをかけてくれて、協力しながら問題解決でき、頼りになる方がたくさんいる職場。
11. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。
仕事と生活でメリハリをつけることがコツ。ジムなどで汗を流すことで切り替える。休日になるべく外に出てリフレッシュすることを心掛けている。
12. 前橋市をより良くするため、これから取り組みたいことは何でしょうか。
環境は変わるので、新しい助成金について検討し、充実させることで前橋市の家庭から出る CO2 の削減の寄与に取り組みたい。
13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。
挨拶大事。仕事ができなくても基本的なことをできるようにしておく。

以上

感想

情報・経営コース 2年 齋藤 麻厘愛

私は、取材インターンシップを受講する上で前橋市についてより理解を深めたいと考えました。私は地元が前橋市ではありませんが私は現在、前橋市にある共愛学園前橋国際大学に通っています。しかし前橋市についてあまり深い知識や考えたりする機会がありませんでした。そこで今回の取材インターンシップを通して、地域社会を大切に、自ら主体的に学ぶという教育理念のもと、前橋市役所が市のために実際に行っている市民活動や地域の環境政策またその取り組みについて深く追求したいと考え前橋市役所に行きさまざまなお話を伺いたいと思い今回の取材インターンシップに参加しました。

まず事前研修についてです。前橋市役所へインタビューをしに伺うのにあたって、インタビューをする上でのノウハウや具体的なマナーや態度について学びまし。相手の方がお話をしているときに、傾聴したり、表情を大切にしたりするなどの一般的なマナーであってわりと意識していないとできないことだと感じました。次に電話でアポイントメントを取るときのマナーについてです。電話をかける際にあらかじめ訪問する日にちをいくつか準備して相手の方の都合をお聞きしたり、電話を切る際は目上の人の場合は相手が先に切ったのを確認してから電話を置いたりなどまだ知らないマナーがたくさんありました。

また企業調査のプレゼンテーションを発表することを前提として作成したスライドに対する質問やつっこまれそうな部分は事前に応答を用意しておくべきだったと反省しました。またインタビューリストを作成するにあたり課長補佐さま、ご担当者さまでそれぞれに見合った質問をあまり用意できていなかったことがいまひとつだと感じました。

そして実際に前橋市役所に伺った際にプレゼンテーションの発表をしました。緊張して練習で発表した時のようにスムーズに発表ができずあまり前を向いて話せなかったことを少し後悔しています。次にインタビューリストにある項目についてお話を伺いました。前橋市のHPなどには載っていない具体的なプロジェクト活動や取り組みや課長補佐さまやご担当者さまの具体的な事業内容など詳しいお話を伺うことができました。また、各グループでプレゼンを発表した際の質問でもわからなかったお話を実際に伺い理解することができてよかったです。事後研修ではいよいよ最終プレゼンテーションの発表になるので、取材インタビューで学んだこと、得られた知識をもとによりよいプレゼンテーションの発表ができるように頑張りたいです。

感想

情報・経営コース 2年 設楽理紗

取材インターンシップに参加し、以前から興味、関心があった市役所取材できたことはとても良い経験になりました。自分で調べたり、取材をしたりするまでは市役所にどんな課があり、それぞれが具体的にどのような活動をしているのか知りませんでした。この取材インターンシップを受講して初めて市役所について調べ、グループで情報共有し、自分なりの言葉でプレゼンテーションをしました。私が取材したのは環境政策課というとても幅広い業務を担当されている課であったので、まとめるのが難しいと感じることもありました。特にSDGs（持続可能な開発目標）に関してはとても難しく、パワーポイントを作成する際に一番時間をかけた所でもあります。このように難しい部分もありましたが自分たちなりにまとめ、実際に前橋市役所にてプレゼンテーションをさせていただきました。緊張していて、分かりやすく伝わったか不安もありましたが、市役所の方にお褒めの言葉をいただくことができとても嬉しく思いました。また、自分たちがインターネットで調べただけでは分からなかったことや詳しい業務内容について一つひとつ丁寧に教えてくださいました。また、質問項目以外のこともお聞きすることができました。最初は緊張していましたが、市役所の方々が雑談を交えながらお話ししてくださったので、自然な流れで取材を進めていくことができました。時間もあっという間に経ってしまい自分たちでも驚きました。相手からの答えに対してさらに深く掘り下げて質問をすることで話が広がっていくことを実感することができました。そして、環境政策課は、現在の環境を守り次の世代に繋げていくような活動を沢山行っていることが分かりました。啓発活動の他に、子どもたち向けの体験活動などもあり幅広い世代の方に環境について考える機会を作り出していると感じました。このような機会を増やすことで、より良い前橋市になっていくのだと思います。私も環境のためにできることを、普段の生活でしていきたいと思いました。

この取材インターンシップを通して、インタビューのノウハウやマナーを学ぶことができたので良かったです。市役所職員は自分の将来の視野に入っているので、この取材で知ったことを参考にしたいと思います。

感想

情報・経営コース2年 清水歩果

今回前橋市役所に取材に行って、事前に調べていたけど知らなかったことや、自分が今後就職活動をする上で気になっていたことなど、様々なことを知ることができ、とても貴重な経験になりました。

取材当日の朝、私は事前研修でインタビューのノウハウを学んで、実際にインタビューリストの作成をしてはいたが、相手の話したがる話題に沿った質問をすることができるか、この質問数で質問時間いっぱい質問し続けられるか不安でした。しかし、実際に行った時に思っていたよりも長い時間、作成していたインタビューリストにない質問までお聞きすることができたのでとてもよかったと安心しました。当日の初めに市役所に行ってプレゼンを行った時に、初めて社会人の方の前でプレゼンを行ったのでとても緊張しました。正しい情報を言えているか正しい言葉遣いになっているかなど、学校の授業でプレゼンする時よりも色々なことを気にしていて普段の緊張とはまた違った緊張感がありました。その後のインタビューの時に、社会人でもプレゼンする機会があると言っていたので、学生のうちにもっとプレゼンが上手くできるようになる必要があると思いました。また、取材に行った時に、市役所の方が質問した内容をただ答えてくださるだけでなく、理由や関連したお話についても詳しく話してくださったので、自分も質問に答える時は、ただ質問の内容に答えるだけでなく、理由とセットで長く答えられるようにしたいと思うと同時に、普段は聞くことができないような深い話までたくさん聞くことができたので、この貴重なお話を自分の将来のために生かしていきたいと思いました。

今回の取材インターンシップの事前研修から実際の取材までを通して、コミュニケーション力や対人スキルが向上したように感じました。普段は実際に社会人の方と関わる機会ほとんどないので、経験値の高い社会人の方から直接お話を聞いたことでいつも以上に学ぶことがとても多かったと感じました。今回学ぶことができた多くのことをこれから生かしていけるように今回学生のうちにやっておくべきことなど、今からできることを聞くことができたので、それを今の段階から実践していきたいと思います。今回の取材インターンシップの貴重な経験を将来に生かし、自分の成長につなげていけるよう、無駄にしないようにしたいと思いました。事後研修前ですが、今回取材インターンシップを受講してよかったと改めて思いました。

2019年9月16日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市環境部環境政策課 様
日 時 2019年8月29日(木)午前9時30分
場 所 前橋市役所
学 生 共愛学園前橋国際大学
チームP 心理・人間文化コース2年 富樫季実
心理・人間文化コース2年 笛木茉悠

インタビュー記録

課長補佐(兼)環境森林係長 大山 幸成 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

分からない中で細かく調べてもらってよかったと思います。総合計画っていうのがなかなか職員一人ひとりに行き渡っていない中で調べてもらってというのは良かったと思います。もし調べるのであれば、みんな個人の興味があることだったのでみんなでひとつのストーリーとかになっているのもっといいのかなと。あとは調べた中で何を伝えたいかとかという部分をフォーカスしてプレゼンすると分かりやすいかな。この辺ができればもっといいかなと思います。

2. 業務内容について

・環境政策課の事業内容を教えていただけますか。

環境政策課というのはこととお調べいただいたように三つの係からなっておりまして環境森林係、環境保全係、赤城森林事務所で、私と亀井がいるところは環境森林係というところで環境基本計画という環境部の計画を立てているんですけども、その推進を主に業務としてまして、その環境基本計画というのはさっきお調べいただいた総合計画の下に位置する計画で総合計画がマスタープランという市の主計画になってそれを推進するために各部署で色々な計画だとか事業を実施してその総合計画の目標の達成に向かって事業とか計画を立てて推進するで、その一つの環境基本計画になっててその推進をする旗振り役みたいなのが私たちの環境森林係になっています。そういったところでの環境の色々な啓発事業みたいなのをしたりっていうことで、こういうの協力してくださいみたいな円滑な推進だとか、後は太陽光発電メガソーラーっていうのを市で作って、去年から小水力発電所っていうのを作って農業用水みたいな田んぼに入ってくるお水なんとか用水みたいなその田んぼに入ってくる水を田んぼに入ってくる前に発電所に水を入れてその水を使って発電してその発電したものは売電と言って東京電力に売っていてその売った収益みたいなのを

って市民の皆さんに色々市民還元していたりしています。そういった事業みたいなのをしているのも環境森林係ですね。環境保全係はさっきお調べいただいたように色々な大気汚染だとか環境の騒音だとか水質汚濁とか環境に干渉しているようなところが環境保全係。森林事務所っていうのは字の如く森林の担当してたり、あとは森林を食い荒らすような有害鳥獣、鹿とかイノシシとか熊とかの目撃情報があった時に対応しているのが赤城森林事務所になります。

・調べた中にはより実地的とあったのですが実際に駆除などは行われていますか。委託されていますか。

委託、猟友会っていう所に頼んでるんですけど、それは現場には行ったりで実際とる時もあるし熊野となかなか取れなかったりするんですけど実際に行ってるんは行ってますね。なかなか命がけのところもあるので。いつ出てくるのかもわからないので、出てくると当直に市民のところから連絡があってその当直から担当部署の方に連絡があって、夜間とかでも出て行くのが大変というのがありますね。

・大山様のお仕事について教えてください。

私は細かい業務が担当してなくて、職位が課長補佐って言う色々な係員の指示とか進行管理とかをしていたり、あとは課題が出てきた時の課題解決とか、何かしようと思うと自分の課だけではできなくて他の予算とかの関係があったり他にも関係する部署っていうのがいくつも出てくるのでそういったところの調整みたいなをしていますね。一つの事業するには環境政策課だけではできないのでいくつも課を集めて日程調整をしたり。あとは自分でやりたいような事業があればその中に入って調整をしたりするというのが僕の仕事になります。

他の方を率いているという感じですか。

そうですね。係員が6人いるのでその係員の進行管理をしているというような感じです。

・環境政策課では、職員の皆さんでどのように役割分担をしているのでしょうか。

分担は、大体の業務量というのが時間では把握していないけどどのぐらいの業務量があるのかっていう分かるのでその業務量が1年間でみんな平均で同じような量になるように分けています。で、中には困難な業務と色々な課題解決に向けた新しいプロジェクトとか、後は普通にやるような毎日毎日同じことをやるようなルーティーンといった仕事もあります。新しいプロジェクトっていうのを進めるのは難しかったりするので比較的年齢の高い人に割り振ったり、定例的な業務は若い人にやらせたりというのはあります。役所の移動スパンというのがだいたい3年から5年くらいになっているので、それをずっと続けても同じ職業についてマンネリ化しちゃうたりするので2年から3年のスパンで業務は変えていくつもの業務を経験できるような形で業務分担の方はわりふっているような感じです。

・移動などがあると全然違う業務につくこともあるのでしょうか。

民間企業だと同じような業務の違う部署に異動になるような感じだけど役所だと役所自体のの仕事が一つの社会全体の仕事になっているので課が変わると転職するようなもので。まだ環境部のなかであればゴミの仕事だとか環境の仕事だとかあと施設の管理をしたりで似たような仕事もあるけどそれが変わっちゃうとも転職しちゃうような、例えば福祉部に行けば生活保護の方の業務をしなくちゃだったり市民文に行けばいきなり何も知らないような市民課とかで証明の発行をしたり南西館に行けば農家さん相手に仕事をしたり 産業政策に行けば今度は事業者の方とかそれをやっている方と関わり合いの仕事をしたりとかで、もう全然幅広い仕事になっているので。

・また地域のみなさんとどのような協力をしているのでしょうか。

環境基本計画の中で色々な市民の皆さんに環境政策の仕事って啓発だったりするので自分のところだけでは仕事が進まなかったりするので、例えば地球の温暖化とかは私たちだけで行ってもどうにもならなくて市民の皆さん一人一人の取り組みが大きな力になって、これが市単位あるいは県単位みたいになって繋がっていくものなので、そういったところで市民の皆さんといろいろなイベントなどで関わり合いを持って協力をしてもらっているという感じですよ。主にイベントなどが多いです。後は色々な環境講座みたいなものが地域から依頼があって民間の会社や自治会さんの方から来たりって言うのでやってたりします。

・職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

目的というのは私たちだけでは環境基本計画の推進というのはできないので、そういった意味で協力をお願いしなくちゃいけないのでその協力の願いが目的になります。協力をお願いしているけれどなかなか数値になって現れてこない。前橋市の中でも環境基本計画の中で地球温暖化防止ので二酸化炭素温室効果ガスの削減を目標に掲げていて市民の皆さんに協力お願いしているけど、結果とすると今計画では来年度中に平成 21 年度から 11% 美味しく効果ガスを減らさなくちゃいけない目標を立てているけど実際は 10% 増えているような状況だったりするので、その辺がなかなか頑張っても数値に表れて来ないというのが難しいところかなという風に感じています。やりがいは、それが下がれば達成感が出てきてやりがいになると思うけど、、、。

一人にわかってもらうだけではだめですもんね。

それを家庭に持って帰ってもらって家族全体で取り組んでもらわないとその成果は現れてこないの。

・様々な業務を担当なさっていると思いますが、そのなかで何か困っていることはございますか。

年を取ってきて残業とかをすると次の日つらかったりする。

・何時ぐらいまでいることがあるのですか。

今の部署ではそんなにないですが前の部署だと8時9時ぐらいまで。もっと忙しい部署とかだと市民税課とかだと確定申告の時期とかに集中して業務を進めなくちゃいけないので毎日8時9時とかがずっと続くとか。自分も若い時やっていたけど。

3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

・前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

市の特徴的な取り組みというのは分からないけど、共愛では政策推進課が窓口になってない？そういう部門の方が詳しいと思うんだけど、私たちの所というのはこれがうちの方で毎年環境のパネル展をするって言うので今年課長も前政策にいたのでエスディーズのところちょっと取り入れてみるかねって言って実際は1階のところにパネルとしていくつも色々環境の業務を入れる中の2枚なんだけど、エスディーズってこういうものですよって言うのなんですけど。主なエスディーズの中のアイコンがいくつもあると思うんだけど、その中のアイコンはそういう業務であればこういう業務に該当しますよっていうのを拾っているんで、うちの所の課の業務いくつも細い業務をピックアップしたなかでうちの課の業務として該当しているのはこの新エネルギーの開発っていうのを今回取り上げてて、これはさっき説明した省水力発電所だったりメガソーラー太陽光発電であったりっていうのがどんなアイコンに該当するかっていうのを拾ったものがコレなので 再生エネルギーの関係だとか技術革新の関係だったりとかそういった循環型社会というか SD ディーズの根幹に來ている持続可能な社会とかそういうものにつながっていますよとかあとは気候変動に関係するからこういったものを進めれば原子力だとか火力発電は少なく済むからそういったところで二酸化炭素の削減になってそれが今起こっているような気候変動だとかを和らげるというかくい止めるっていうところになると思うので、そういったところでどの アイコンに該当するかなーっていうところがあるので。

・前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

環境活動っていうのは、、前橋の小学生だと全部じゃないんだけど夏休みとかに前橋の環境家族っていうのを学校に配って環境に対する取り組みをこういって磁石か何かで冷蔵庫とかに貼ってもらって取り組みをすると潰してもらって言うのを毎年行ってもらってて提出すると記念品がもらえるっていうような取り組みをしていてこういったもので簡単に環境に取り組んでもらうって言うのでこういったものに取り組んでいたたりしてたり、あとは前橋の小学生だと5年生になると児童文化センターというところで環境教室をするんだけど、こういった

ところでさっき説明した環境基本計画、これは分厚い冊子だけど それより親しみやすい形にしたものを通じて環境基本計画の推進に取り組んでもらおうというので子供向けのアイテムを作って環境に触れてもらって言うような状況があります。

・冊子などはすべて環境政策課で製作しているのですか。

そうですね細かいデザインの部分は印刷業者さんをお願いしている部分もあるけどほとんど内容は環境政策課の方で作っています。

・小学生の参加は多いですか。

多いですね。これは確か 2000 人ぐらい参加してくれて。

・身近な季節感じ隊ではサクラが多いなと感じたのですがそれは理由があるのですか。

身近な季節感じ隊は桜とセミと ツバメについて行っていて、季節を感じるものを取り上げているので春夏秋冬取り上げているわけじゃないけど、桜だと春だったりセミだと夏だったりっていうのを取り上げているので。

・環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

学生にもできることは、市民の皆さんをお願いしているのは、7 次総合計画もそうだし環境基本計画もそうだし温室効果ガスの削減っていうのを目標に掲げているので、それが削減されるような様々な取り組みがあるので、そういったところで一人組の協力をお願いしたいっていうのがありますよね。食べ残しであったりゴミの分別であったり後はエコ市役所にもあるが、大きいゴミ箱はあるけど職員の所には小さいゴミ箱ってひとつもないんですよ。そういうところでゴミの削減っていうのを市役所全体で取り組んでいたりするのでゴミの分別・減量だとか、なるべく公共交通機関を使って群馬は車の保有台数が多かったりするので。そういう部分で公共交通を使ったり、なかなか難しいけど乗り合わせを使って色んな所に行ったりっていうので協力お願いできる部分はいっぱいあるので冊子にでもお渡しする部分がいっぱいあるのでぜひご協力のほうをお願いしたいと思います。

・ゴミ箱の撤去後ゴミの量は変わりましたか。

変わったと思いますね。ただそれが役所だと減っているのかもしれないけど持ち帰っていたりするから。後は分別も細かくしていたりするから、コピーは裏面を使ってもう一回印刷をしていたり。市民の皆さんに配るような資料などは使っていないけど内部の資料に使うような紙だったりっていうのは裏面をもう 1 回印刷して有効活用していたりっていうのはあります。

4.「めぶく。」について

・大山様は前橋市のビジョンである、「めぶく。」とはどういうこととお考えでしょうか。

めぶく。についてはあまり意識していないけど、ここにあるように良いものが育つ街とあるんですけどいいものが育つ町の礎と言うか基礎を作るのが市役所の仕事であると思うので環境政策では特に自然環境とかもう仕事をしてたりするからそういったものを次の世代に引き継げるように頑張っに行かなくちゃいけないかなというのは考えています。二つ目も言っちゃったね。

・環境政策課では「めぶく。」というビジョンのもと、どのような政策を行っているでしょうか。

5. 大山様の就職の経緯をお教えてください。

就職してから時間が経っているからあまり参考にならなかったりするかもしれないけど、私は大学に出て地元に戻ってこようかなってというのがあったので、色々な幅広い仕事がしたいなと思っていたのでそうすると公務員がいいかなと。

・これまでどのような部署にいましたか。

市民税課、職員課、水道局、でも水道局にいても同じような総務課のような仕事をしてたので。後は今の環境政策課だったり、あとは人事交流で消防局にいたときもあったし。でも総務課のような仕事をしていたので総務全般の仕事をするような部署が今まで多かったですかね。

6. 就職したての頃に苦労したことは何でしょうか。

学生の頃は友達と同じような歳の人が多かったりするけど役所に入った後はお父さんお母さんと同じような歳の人と机を並べて仕事をするので、その辺はちょっとなかなかなじめない部分があったりしたので。

・どのように馴染んでいきましたか。

あまりいいことではないかもしれないけど言葉遣いとかには気をつけていたり、あまり強い言葉で言うと生意気だなんて思われたりするので、自分の意見は主張しながらもあまり角が立たないような感じでというのは意識していました。

7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

自分の思い通りに仕事が進められたらいいなっていうのはあって、こうしたいという思い通りに進められたら楽しいかな。

環境政策課の中などでもこういう事業がしたいなっていうのがあって、なかなかお金がかかったり色々な協力が必要だったりっていうのがあるけど、予算の確保ができて周りからの協力が得られて。どうしても協力を得るって言うのは他の課とかが自分の部署以外の仕事が増えたりするので、そういった部分でも協力してもらえて自分の事業を進めるために協力してもらって授業が進められた時は楽しいと言うか達成感みたいなものもあります。

・これまでに自分が提案して形になったものなどがありますか。

ありますね。環境政策ではイベント事だったりするし後は水道局の頃だと色々な計画を作ったり。

8.業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

逆のことで協力が得られなかったりということもあるし、市民の人のクレーム対応とか。自分が間違ったことをしていれば市民の方に怒られるのはしょうがないと思うけど、正しいことをしていても市民の人のある人にとっては正しいとか正しくないとかではなくて自分の主張が通るというのが重要な部分であったりするから、そういったところでなかなか説得できなかったりというのがある時は苦しいかなと感じますね。

・クレームの対応なども大山様が対応していたりするのですか。

しますね。どうしても係員が受けている部分で係員の対応ではどうにもならないというのは私は今課長補佐と言う職位だけどそうすると次は私とかが対応するということになりますね。

・実際にここに来るクレームは公害とかですか。

そうですね。

・結構多いですか。

まあ実際は隣の係の方でしているので比較的私の担当する係の方ではあまりないですね。

9.仕事と生活の両立のコツについて教えてください。

難しい質問だね。これはワークライフバランスとかそういうところ？仕事と生活はきっちり分けるということですかね。家に帰ったら仕事のことは考えないし、仕事の時は家の事を考えない。その切り替えができていいかなと思います。

10.業務においてやりがいを感じる時はいつですか。

やりがいはさっきみたいな自分の事業が進められた時とか。後はこの部署はそんなにないかもしれないけど市民の方に何かした時に感謝されるとかそういうのはやりがいを感じるかもしれないですね。

11.環境政策課の職場の雰囲気はどうか。

うちの環境政策課は比較的若い職員が多いので活気があるような感じですかね。年配の人がいっぱいいるから活気がないというわけでもないけど。

12.前橋市役所では人事採用の際にどのようなことに気をつけておられますか。

私もちょっと採用の現場じゃないから分からないんですけど、多分今は人物重視前だと思います。1次で筆記があってそれである程度できれば結構受かってたりとか、その後面接があるので面接で普通にしていれば受かってたのかなというのはあったような気がするけど、今だと2次面接3次面接っていうのがあって、より人物が重視されているというところが。筆記はある程度最初の入り口部分にすぎなくてその後の面接の方が重要視されていて人物重視という所があるのかなと。

13.学生時代にやっておくべきことはありますか。

色々な事を体験しておくのは視野が広がっていいのかなと思います。色々な所に旅行に行って色々な経験をするとか。後は勉強が本分だけどいろいろなアルバイトをするとそこで仕事と言うか色々な仕事も経験できるし、いろいろな人とも関わり合いになるので人付き合いを覚えると思うので。学校だと同じような年齢の人としか関わらないし、嫌いな人がいればあまり接触しなければいいだけだけど、社会に出れば嫌いな人とも仕事をしなくちゃだしそういった部分ではいろいろな、アルバイトバイトじゃなくてもいいかもしれないけど、アルバイトをするっていうのもいい経験になると思います。

・何かアルバイトはされていましたか。

自分の時は家庭教師と塾の講師と服屋さんみたいな所でバイトしてたり喫茶店みたいなところでバイトしてたり

・何の仕事が役に立ったりとかはありましたか。

でも全部のバイトが役に立ったと思いますよ。そのためにバイトしていたわけではないけど今思えば役に立ったなと。

環境企画係 主事 亀井慎太郎 様

※その場で考えた質問は○、環境政策課長 大原豊成様にお答え頂いた内容は△をつけています。

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。
わかりやすくよくまとまっていた。細かいところは中々ホームページだけではわからないところもあるので質問の中でうまく話せるようにしたいと思います。エコ・プロジェクトについては、平成 21 年、私が入る前からの事業になるので正直わからないところもあったので勉強になったと思いました。

○環境政策課が 3 年目なのですか。

そうです。ここが初めての部署です。入る前の事業については聞かないとわからないので。

2. 業務内容について

- どのようなお仕事を担当されているか教えてください。
市の方で太陽光発電所を 3 ヶ所持ってまして、その維持・管理業務というのがまず 1 つです。あとは、省エネ機器の補助金に関する窓口業務や申請の受理に関する事務手続き、あともう 1 つは自然環境調査といって、前橋に生息している生き物の調査を業者さんに依頼して、それを最終的には報告書にまとめて概要版にしてもらってという業務の連絡のやり取りや取りまとめをしています。大きくわけてその 3 つになります。

○この仕事は何人かでなさっているのですか。

副担当がついたりしますが、主担当は私が持っています。

○省エネの補助金は結構申請なさる方がいらっしゃるのですか。

結構多いです。エネファームという給湯器とヘムスは「幾ら電力が発電してますよ」というモニターのようなものに対する補助金を出していて、去年は年間 130、40 あってヘムスでは 50 件。トータルで 200 件弱あるということですね。昔太陽光の補助金の時は年間 300 件程ありました。少し減ったとは思いますがそれでもある程度の数はあるかなと思います。

※HEMS:Home Energy Management System の略称。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム。(出典:パナソニック株式会社 HP より)

○今は太陽光の方は受け付けていないということですか。

そうですね。

- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

私の担当ではないのですが、環境保全活動をする公共団体さんや自治会さんに補助金を出してまして、そういったところで保全活動に市役所も関わっているということになります。担当している人の様子を見てみると、環境活動をしたいけど資金がないという団体を補助することにより環境活動を支えていることにやりがいがあると思います。ただ、行う活動は団体さんに決めてもらうのですが、例えば少し観光要素が強い、歴史と環境のツアーみたいな内容で歴史の要素が強くなってしまって環境面が弱いと補助金の申請が受け付けられなくなってしまう。受付ができるように少し活動内容を修正させてもらったり、一部条件を設けたりして補助金を出したりするところが苦労しているところですね。中には活動の申請をしても参加者が集まらず泣く泣く中止になってしまうこともあるので苦労している部分です。

3. 学生から見た魅力として「SDGs の取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGs の取り組みを教えてください。

別段これといって、というところはあまりないかなと思うのですが、お調べ頂いた7次の総合計画6章の中に持続可能なまちづくりというのがあって、その中に環境配慮形社会の形成というのがありまして、その辺りが環境に関わってくる推進計画の1つということになるのですが、またその中に地球温暖化の防止というのがあって、そうすると再生可能エネルギーの推進などというのが業務に関わってきてその辺が特徴的な取り組みになるかなと思います。小水力発電所というのがあり、それが前橋市の環境政策課が自前で持っている発電所になっておりますので、維持管理など一定の業者委託などはしますが、群馬県内でも他の市町村では自前の小水力発電所を持っているのはあまりないのでそこが特徴的かなと思います。

○SDGs の取り組みというのは、その取り組みとして何かやっているというよりは、環境政策課の業務の中でそういった方向(SDGs の内容)で取り組んでいくということなのですか。

紐付けて、ということになりますかね。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。
環境啓発というところで、お子さんに向けて「まえばし環境家族」と、環境基本計画の概要版というのを作っていて、それを配布しています。「環境家族」であつたら、市立小学校の全校生徒さんに向けて配って、7月・8月・9月の取り組み内容を書い

て、それをお子さんに向けて取り組んでもらって、例えば簡単に冷蔵庫の開ける回数を減らすとか、夏休みの課題として学校さんに出してもらうこともあります。環境基本計画の概要版であれば、児童文化センターの方で小学校 5 年生になると環境教室というのがあって、その教室の中の教材の 1 つとして使っています。あとは私の担当する業務である自然環境調査では魚と水生昆虫の調査をしまして、児童文化センターの、メダカを通して自然を学ぶという「メダカの学校」の参考資料として自然環境調査の改訂版を配布して小学生に見てもらっています。

○実際に「メダカの学校」などで子供たちと関わったりなどなさるのですか。

それはやっていないです。児童文化センターの理科の先生がいらっしゃいますのでお任せしていますが、時には見学に行っていてどういった風に使われているのか見に行ったりすることはあります。また出前講座というのがありまして、市民団体さんや自治会さんから依頼がありましたら依頼内容に基づいて講座を行いますので、そういったときは市の職員がパワーポイントを作って説明しています。

○実際に亀井様が行かれたりするのですか。

行きますね。一昨年は元総社の公民館で水生昆虫や魚の説明をしました。

○その内容は実際に前橋の川にいるもので行うのですか。

そうですね。実際に川にいる魚などピックアップして「こういったものがありますよ」また、「こういったものがあるのでお子さんと川を見る際は説明してあげて下さいね」というのを伝えています。

○では、お子さんだけでなく結構色々な世代の方に説明などなさっているのですね。

そうですね。

○調査というのは、前橋市内は全域担当なさっているのですか。

そうですね。まあ全域というわけにはいかないのですが、ある程度ポイントを絞っています。全部で 27 の地点にわけて上手く散らばるように設定しています。

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

環境について理解して知ってもらおうということが大事なのかなと思います。なかなか環境はお2人(インタビュー2人)の力だけではなんともできないことが多いと思いますので、環境についてしっかり学んで、理解して、考えてもらうということが1番大事だと思います。細かい話などはホームページでも出していますが、わからないこともあったりするので発信には努めておりますが受け取る側の方もある程度興味を持ってもらい、環境について考えてもらうことが大事なかなと思います。

△あとは新聞の環境の記事をよく読んでもらって、現在の前橋がどうなっているか照らし合わせてもらうといいと思います

○環境関係の記事は新聞にはよく掲載されてらっしゃるのですか。

△環境とは大きいことですので、大体国関係だったりそういうところの取り組みで、あとは細かい取り組みであればこういう自治体で管理しています。結構掲載されていると思います。

ここからは個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

4. 前橋市への就職の経緯をお教えてください。

私は3年目になりますが、大学卒業後すぐに入職しました。大学生の頃は公務員1本に絞って就職活動をしました。3年生の時に、東京の学校に通っていたものですから地元を離れてみて改めて私自身が家族や地域の方々、お世話になった先生などに支えられていたんだなあということにすごく実感するようになりました。いざ就職するときに、企業に入って売上や業績に向かって仕事をしていくよりはお世話になった方々に恩返しができるような仕事がしたいと思って公務員に絞ったという経緯がございます。

○ご出身は前橋市なのですか。

生まれは前橋なのですが、今は伊勢崎に住んでいます。小学生になるまでは前橋に住んでいました。小学生に上がると同時に、伊勢崎にきました。ただ、幼い頃って結構色々な場所に行ったりしますよね。私は小さなころに両親に色々なところに連れてってもらって、好きだった公園があったのですが、幼かったので公園の名前がわかりませんでした。前橋の職員になって、仕事をするようになってその公園が嶺(みね)公園だったということがわかりました。だからやはり小さい頃の遊びの中で前橋が良い所だと思いましたし、また知り合いなども前橋に住んでいる方が多いのでそういったところから前橋で働きたいと考えるようになりました。

○伊勢崎の市役所に就職なさることはお考えになりませんでしたか。

もちろん考えました。色々な思いもありましたし、実際働いてみて前橋で良かったなとすごく感じました。

○前橋で良かったと感じる理由は何でしょうか。

視野が広がるといいますか、前橋に入って市役所が大手町にあることや嶺公園のことも初めて知りましたし、人としての視野が広がるといいますか、世間が広がったという部分が良いところだと思います。人口も前橋市の方が多いですし、その分業務や任せられている仕事も多いと思います。中核市ということは、普通の市町村とは県庁から委託されている業務が変わってきますので。例えば廃棄物対策課は仕事の中核市でないと請け負わない仕事になっていますので、伊勢崎市ならば廃棄物対策課の仕事は群馬県の方の事務所で一括してやって頂いている仕事になりますので、そういった業務の幅も広がっているところで前橋で良かったかなと感じます。

○他の市町村が行っていない業務を中核市として前橋市役所が行っているのは廃棄物対策課だけなのですか。

廃棄物対策課だけではないです。他にもございます。

5. 就職前後を比べて変化したことをお教えてください。
責任感を持つようになりました。窓口や電話対応など、私の発言が市役所 2000 人の代表の発言になってしまうので、発言については意識して一語一句噛み締めて話すようになりました。
6. 就職したての頃に苦労したことはどんなことですか。
わからないということに苦労しました。私は大学生の頃にインターンシップなどに参加せず、みなさん(インタビュアー)のような体験がなかったので、大学 4 年間終わった後にいきなり 1 日過ぎたら社会人になってしまっ、なにもわからず職場に入って挨拶して「さあどうしたらいいの?」という状態になってしまっ、基本的なマナーもそうですし、仕事の進め方など本当にわからないことだらけでした。環境政策という仕事柄結構専門的になりますので、そういった部分も苦労しました。

○環境政策課に配属するということはランダムで担当の部署が決定するのですか。

そうです。希望調査があり第 1 と 2 希望くらいまでは書くところがありますが実際その通りにならないことが多いようですので、3 月の中旬までは私がどの所属になるのかもわかりませんでした。

○大山様のお話から、環境政策課は若い方が多いという風に伺いました。

そうですね。比較的 20 代の方が多いです。

○それは他の部署と比べると珍しいことなのですか。

部署によります。私が入る前は環境政策課の環境森林係も結構歳が上の方が多かったものでなんとも言えないです。

○歳が近いからこそ気が楽、などということもございますか。

皆さん親切なのでやりやすさを感じます。

7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

業務がスムーズに進んで、こなせているときです。ある程度一定のスケジュールでやることは決まっているのですが、その中で業務が変わって来ることが多いです。環境政策課は業務に自由があるといいますか、スケジュールがある中でも自由な部分があるので業務が上手くできているときは楽しいと感じます。例えば雷が当たって発電が止まってしまったときなど対応がしっかりできて発電がすんなりと復旧できたときなど楽しいと感じます。

○今までで 1 番難しかった仕事は何でしょうか。

昨年度、アカカミアリというヒアリの同種であるものが出た際には現場に行ってアリを採取したり歩き回って小さな顕微鏡を使って地面を見たりしたのですが、そういったときに上手く事態を収束できたときには大変でしたが、良かったと感じました。

○亀井様の仕事には実地的なものが多いのですか。

そうですね。外来種の担当もしているのでアカミガメやミドリガメを捕獲したりしたこともありました。

8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

担当している業務がうまく行かなかったときです。

○担当なさっている 3 つの業務の中でしたら 1 番難しいと感じるものはどちらでしょうか。

太陽光については自然災害などによって止まってしまうこともあるので難しいかなと思います。

○3年目にして結構色々な業務を担当なさっていらっしゃると思いますが、他の職員の方も同じなのですか。

みなさん色んな担当があって、他にも小水力発電ですとか、電気自動車の充電機などの維持管理なども担当していらっしゃる方がいます。

9. 業務においてやりがいを感じる時は何時ですか。
自然観察会などのイベントで市民の方々が楽しそうに先生の話聞いていらしたり、満足そうな顔をしているときにはやりがいを感じます。毎年野鳥の観察会をしているのですが、その時の市民の方が楽しそうですし、それを見ているのも楽しいです。

10. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。
環境としては和気あいあいとしているところはあると思います。電話や窓口対応で困っているときなどは手伝って問題を一緒に解決してくれるのですごく良い先輩ばかりでやりやすい職場だと思います。

○環境政策課が最初のご担当ということですが、最初がこの課で良かったと感じますか。

感じます。色々な業務が担当できますし、良い人ばかりですし教えてくれることもたくさんあるので聞きやすい職場です。窓口業務も現場もあるので最初の職場にして色々な業務ができるので良いと思います。

11. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。
仕事と生活のメリハリをつけることです。私自身ジムに行くことが好きなので仕事終わりなどはジムに行って身体を動かすことでリフレッシュしてオン・オフをハッキリさせています。休日なるべく家から出るようにしてリフレッシュすることを心がけるようにしています。

12. 前橋市をより良くするため、これから取り組みたいことは何でしょうか。
省エネの補助金を担当してますので、家庭から出るCO₂の排出量を減少させるため、補助金のメニューの充実をさせたいと考えます。環境は常に変わるものなので、新たな時代のニーズに合ったような補助金を検討していければいいかなと個人的には考えます。

○もし補助金のメニューを増やすとしたならどのようなものが考えられますか。

蓄電池などがタイムリーなものかなと思います。

○ソーラーパネルはある程度の成果があったので廃止になったのですか？

一定の成果があったので廃止になりました。

○では前橋はソーラーパネルの普及率が高いのですか。

日照条件などからソーラーパネルをつければ儲かりやすい立地ですので高いと思います。

13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。

色々な経験をすることです。大学時代の4年間は自分で使える時間が多いと思いますので、勉強する時は勉強、遊ぶ時は遊んで時間を無駄にしないことが大切だと思います。旅行など時間があるからこそできることをやるのが1番かなと思います。仕事をすることになったら学生のうちの経験を活かせると思います。

○旅行の他にどのようなことをしたら良いとお考えですか。

私でしたら勉強はもっとしておきだったと思います。資格などあれば良かったと思います。

△有利になるというわけではありませんが今は結構資格を持っている人が多いと感じます。

○持っている人が多いな、と感じる資格は何でしょうか。

△普通免許です。車がないと仕事にならないかなと思います。

○大学時代の学部はどちらでしたか。

経済学部経済学科でした。

○環境と経済は直接的には結び付かないように感じるのですが実際に何か役に立ったことはございますか。

授業で環境経済学というのがありまして、公害問題などを勉強したのでそのようなことが役に立ったかと感じます。

○これから経済を活かした部署を担当したい、などの希望はございますか。

折角勉強したので活かせたらとは感じますが、経済に限らず色々なことができればいいかなと思います。

○これからどの部署を担当したいなどはございますか。

今とは全く違う業務をしてみたいと感じます。

○環境政策課でご自身は担当なさっていませんが少しやってみたいなど感じる仕事はございますか。

温暖化の関係などは興味があります。私が全く携わっていない仕事なので、自身の知識に深めるためにも受け持ってみたいと感じます。

○部署の異動はランダムで決まるということですが、担当業務は希望など出されるのですか。

△出しますが、希望が通る方もいますし通らない方もいます。

○亀井様の現在担当なさっている業務はやりたいと思って担当なさっているものなのですか。

やってからすごく興味を持つようになりました。仕事をするにつれ学ぶことが多いので担当業務をもててよかったと感じます。3年間同じ仕事を担当していますが毎年学ぶことが多いです。

○実際窓口などに生き物など持ち込む方は多いのですか。

多いのですが、実際に現地に行って採取しに行くことの方が多いです。

○固有種などのお名前をスラスラと仰っているように感じたのですが、覚えてらっしゃるのですか？

全部覚えているわけではないですが、頻繁に出てくるものは覚えます。また、生き物の先生にお会いする時などは専門的なものが多いので理解できるよう話に出そうなものは覚えるようにしています。

○どの業務でも興味を持って学ぶことが大切なのですね。

そうですね。

△あとはもう経験とノウハウですね。

○私(インタビュアー)は前橋と違い、所謂田舎の地域に住んでいるのですが、そういったところの役場などと前橋市役所様では仕事内容に違いはあるのでしょうか。

基本は同じだと思います。

△広く浅く、少人数での仕事になっていると思います。前橋などの中核市になると部署が大きくなってその業務に特化したものになると思いますが、やることは同じだと思います。

○公務員試験対策はいつ頃から始められましたか。

勉強は大学3年生の12月過ぎてからだと思いますが、やっていて遅いかなと思いました。できるのならできるだけ早くやっておけば良かったと感じました。

○採用試験での選考は人物重視と伺ったのですが、理想の人物像などございますか。

△面接官にもよりますが、質問に対して同じような受け答えが多いと聞いています。あまり奇抜なもの、とは思いますがそこからどうやって他の人と違いを出して行くかだと思います。

○面接の時意識したことはございますか。

姿勢を正しくしよう、また印象を良くしようとしたことです。集団面接の時なども言うことは他の方と被っていたので1番最初に喋るようにしていました。課長も仰っていましたが人と違うように見えるようにしていました。

○職員の方は地元の方が多いのですか。

△基本は地元の方ばかりですが中には遠方からの方もいらっしゃいます。

○何のアルバイトをなさっていらっしゃいましたか。

居酒屋で働いていました。4年間同じバイトをしてしまったのでできれば変えた方が
良いと思います。

○バイトの経験はやはり役に立ちますか。

立ちます。貴重な、仕事ができる機会だと思います。

以上

感想

心理・人間文化コース2年 富樫季実

今回、取材インターンシップという形で普段お話を聞くことができない社会人の方のお話を実際に聞くことができとても良い経験になったと感じています。一般の企業とは違う市役所の職員としての働き方やその業務の多様性、事前に調べただけでは分からなかった環境政策課様の詳しい業務内容など様々なお話をしていただきましたが、その中でも特に印象に残っているのは、大人だけでなく子供にもわかりやすく環境基本計画について学んでもらい協力するための活動です。前橋市役所の主な活動として、冷蔵庫を開ける回数を減らすなどの小さな取り組みをチェック式にした「まえばし環境家族」や、小学五年生を対象とした「環境教室」、「めだかの学校」などが挙げられますが、これらを実施することは子供たちの環境問題に対する理解を深め、実際に問題解決に取り組んでもらうきっかけになるだけでなく、家庭で子供から率先して行動することで大人へと輪が広がっていくことにもつながり、とても良いと思いました。また、私も「まえばし環境家族」や環境教室で配布されている冊子を見させていただきましたが、写真やイラストが使われていたり簡単な言葉で説明されていたりしてとても分かりやすくまとまっていました。大山様のお話では小学生だと環境基本計画の原文は難しいからとのことでしたが、原文よりも気構えずに読めて分かりやすく要約してあるこれらの冊子は中高生や環境問題への興味が薄い方にも環境問題の現状を知る入口としてとても良いのではないかと感じました。

環境問題の啓発や環境基本計画の推進は環境政策課様の主な仕事の一つですが、上記の活動についてお話をいただく中で、持続可能な社会を作っていかなければならないという環境問題解決に向けた取り組みはその性質上、これからの社会を担っていく子供たちがその問題について考え、協力することがとても重要であると考えていらっしゃることを感じました。

私は、取材インターンシップの意義はビジネスマナーを学び、実際に社会人の方に直接質問できるということにあると考えています。その点で、今回の取材では事前に用意した質問項目についてお話いただくだけでなく、その場で気になったことを掘り下げて聞くことができたことやお話の中で考え方を知ることができたのは良かったと思います。しかし、事前研修からの課題であったプレゼンやひとりあたり30分という時間に収まらず予定より長いお時間を頂いてしまったところは反省、改善しなくてはいけないと感じました。そして、今回学び、感じたことをこれからの学生生活や就職活動に活かしたいと思います。

感想

心理・人間文化コース2年 笛木茉悠

事前学習の前までは、「市役所の環境政策課」と聞いても具体的にどんな業務を行っているか想像ができませんでした。班の人たちと協力しながら調査を通してだんだんとイメージを掴んでいくことができました。ですが実際に市役所を訪れ、職員の方のお話を聞いてみなければ、きっとわからないままでこれから先も知ることがなかったであろう、環境政策課で行われている活動内容やそれについての目標としていることなど、詳しい部分をたくさん知ることができたと考えます。何より、社会に出て働いている方の話を伺うことで、より自分が約2年半後にどのように仕事をしているかイメージすることが以前に比べて楽になりました。私は今のところ公務員になることを目指しておりますが、ざっくりと公務員といっても色々な業務がありうまく自分の働いている姿が想像できなかったのも、職員の方の実際のご意見や、就職までの経緯などを聞くことができ本当に良い体験になったと思います。

また、大山様も亀井様もご自身でしっかりとしたお考えを持っていらっしやっただけで大人の方の意見としてもとてもよいお話を聞くことができ、仕事に対する姿勢や、市役所ならではの前橋に対しての見方など大変参考になるものを教えて頂きました。お話の端々から、前橋をよりよくしていこうという姿勢や、市民の方への心遣いなどを感じとることができ、自分が就職して働き始めた際の1つの指針のようなものになりました。これから事後学習で、取材で頂いた色々なものをもっと深めていくことで、更に得られるものがあるのではないかと期待しています。この経験を自分の就職活動やその先の実際に仕事に就いたときに活かせるようにしたいと考えます。

改善点としては、質問が思っていたよりもその場で思いついたものを多くしてしまっていて、その後のインタビューリストの内容と同じようなものをお聞きしてしまったことだと思います。その分物事を多角的な視点から教えて頂くことにも繋がったかとは思いますが、質問をする際にはすぐに口に出すのではなく、内容を吟味してから行いたいと考えました。

2019年9月14日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市役所 市民部生活課様
日 時 8月28日(水)午前10時
場 所 前橋市役所 2階 生活課(会議室)
学 生 共愛学園前橋国際大学
情報・経営コース2年 高橋瑞歩 中村有澄 チームQ

インタビュー内容とその回答

課長補佐 宮内 毅 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

地域振興係は285か所による自治会の支援が大きいと思います。プレゼンになかったのは市民生活センターについてですね。市民生活センターも市民生活課の業務の一つです。消費生活センターのところで放射線について書かれていましたが、今ではどちらかというとオレオレ詐欺等の対処を行っています。一つ、前橋七夕祭りの部分に少し疑問を感じました。

2. 業務内容について

➤ 市民部生活課の主な業務について教えてください。

地域おこし協力隊というものが入ってきてより外での活動が多くなりました。色々な団体さんや自治体さんとの協働で業務を行っています。男女共同参画はジェンダーにとらわれずに仕事や育児、生活についての相談窓口です。市民相談は大変ですね。どのようなことでも相談していただいて結構です。離婚について、隣人トラブル、相続相談等何でも乗る窓口です。法律や介護等更に詳しい方面へと繋げてくれます。ここは再雇用された先輩が活躍されています。

3. 学生から見た魅力として「地域づくり」があります。

➤ 地域のみなさんとどのような協力をしているのでしょうか？

この課は私たちよりも自治会のみなさんが中心のため地域のみなさんの協力あつての業務が成り立っています。人事交流は欠かせません。

➤ 職員のみなさんが地域活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

市民生活課は地域のみなさんの主体性が重要になっているため、こちらが先に行動してしまうのは違う気がします。行政の仕事になってしまいますからね。そのため、地域のみなさんにうまく行動してもらい、こちらはすぐ行動してはいけないというジレンマがありますね。やりがいはあるから感じる事ができる課だと思います。

4. 部署の異動と職場の雰囲気について

➤ 異動はどのように決まっているのですか？

基本的に異動がないということはありません。長くて20年近く同じ部署を担当していたと聞きました。最近では長くて10年近くですね。本当にずっと同じ業務を繰り返していて、大きな企画を再び任されたときは大変でしたね。

➤ いままで経験された職場の雰囲気、仕事の仕方などを教えてください。

今生活課に4年目なのですが、その前は保健所にいました。(6年)その前はという介護高齢課という介護関係の部署にいました。(7年)私は長い期間での雇用が多いですね。その前は群馬県での雇用で地方課というところで県内の市町村さんがお金を借りる起債という業務をしていました。(1年)それから商業観光課をしていました。そして最初は文化財保護課というところで発掘調査をしていました。楽しい担当課もあるし、そこでの業務はさまざまなため覚えなおしという苦労もあるため民間の企業に比べて飽きないという魅力はあると思います。

➤ 担当したい部署はありますか？

再び保健所での業務をしたいですね。大変だったのですが、生活市民との関わりが多く、使命感を持ちやすく、やりがいが大きかったです。そこではモチベーションを保ちやすかったです。今の市民生活課は地域中心のため、「動きたいけど動けない」というジレンマが働いてしまいます。そのため今の部署よりも早く成果を見ることができる部署は良かったですね。

5. 福利厚生について

➤ 有給休暇、育休（産休）の制度があると思いますが、男女とも取得できるでしょうか？

フレックスで勤務時間を選べる期間(6～11月)によりプライベートは充実できると思います。子供の活動時間に合わせて使うことができる環境が整っています。年休は20日で、これは繰り越すことができます。育休

は1か月～1年くらいまで可能です。男性でも最近まで育休をとった方もいます。やはり公務員はそのような面も良いです。

6. 前橋市への就職の経緯について

➤ 就職する前とした後の違いはどうでしたか？

ギャップというものはすごく大きかったですね。初出勤で現場（発掘現場）に訪れることもあり、すごく驚きました。部署は男女拘わらず派遣されています。希望部署を申告する機会はあるので、希望通りに異動をすることもできます。私はまだ希望通りに異動できたことはないです。あとは、絶対に残業0というわけではなかったです。

➤ 公務員試験対策などの勉強をされたでしょうか？

通信教材で勉強していました。

➤ 学生時代にやっておくべきことを教えてください。

社会と繋がることはしておくべきですね。特にインターンは参加しておくの良いと思います。あとはボランティアやMサポ等のイベントに参加するのが良いと思います。経験や知り合いを増やすことは大切ですね。

主任 鵜飼 和男 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

1日で作ったのですか？すごいですね。私が学生の頃はこのようなパワーポイントで発表する機会というのはなかったので本当にすごいと思います。社会人になってからパソコンに触れたのでやはり学生のうちからこのような知識を持つておくことは大切だと感じました。

2. 業務内容について

➤ ご担当の係の主な業務について教えてください。

この課は主に3人で分担しています。特に地域づくりに関する業務がこの課の大部分を占めています。前橋市を24地区に分け、その自治体ごとに情報交換を行い、より良い地域づくりに励んでいます。また、市民提案型パートナーシップ事業という事業を行い、市民と行政の協働が成り立っています。2年前から地域おこし協力隊の活動が盛んになっ

てきました。そのため、デスクワークだけでなく外でも仕事を行います。
個人的に地域のイベントを見に行くのは仕事外になってしまいます。

3. 学生から見た魅力として「地域づくり」があります。

- **地域づくりフェスタ、お祭りイベント、地域若者会議、地域おこし協力隊など、お仕事の範囲が非常に多岐にわたりますが、職員のみなさんが地域活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。**

地域づくりは実際に動いてくれているのは地域のみなさんなので私たちはあくまでサポートの立場にいます。そのため、どのように活動してもらうかをどのように言葉にするか難しいですね。私たちが先に行動してしまっただけの行政の仕事になってしまいますからね。

4. 部署の異動と職場の雰囲気について

- **職員の皆さんは3年から5年で職場を異動すると聞きましたが、なぜ異動するのでしょうか？**

異動とは転職のようなもので似ている課だと応用が利きますが、全くことなる業務をしている課に異動になると大変です。何年も同じ課にいと慣れてしまっただけの生活を送ることになります。そのため、異動があることで「こういうことが違うんだ！」という別の視点から見るができます。異動はメリット、デメリットの二面性を持っていると思います。

- **いままで経験された職場の雰囲気、仕事の仕方などを教えてください。**

前の職場は大学へ派遣され学校事務をしていました。慣れるまで半年かかりました。1年目はたくさん迷惑をかけてしまったので、2年目からはその分迷惑をかけないようにしようと思っていました。学校事務でしたが予算や物品の管理等をしていたので学生との関わりはほとんどありませんでした。その前は高齢福祉課にいて、その前は生涯学習課というところにいました。どちらかというと今の課に近いですね。その前はスポーツ課にいました。当時、前橋シティマラソンやニューイヤー駅伝の担当をしていたので気候によっていろいろ左右されますし大変でした。それぞれの課の雰囲気は人数の多さ、伝統により変わります。同じ階で担当する課が変わりますが同じ階でも仕事量が全く違うこともあります。

5. 前橋市への就職の経緯について

➤ 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。

大胡市で採用していただいたのですが、もともとは金融関係を第一志望としていました。大学時代は教員の道も視野に入れていたのですが公務員は異動などによりいろいろなことを経験できると聞き、最終的に公務員の道に進むことに決めました。

➤ 公務員試験対策などの勉強をされたでしょうか？

特にしていません。何より公務員試験ですね。

➤ 大学ではどのようなことを勉強されたでしょうか？

大学では会計学を学んでいました。ですが、就職時にはそれほど学科は関係ないと思います。業務内容によって大学での専門知識を生かすことができるかもしれませんが。

➤ 学生時代にやっておくべきことを教えてください？

先ほども言ったように学科や専門知識よりも何を学んだのか、自分の考えをしっかりと持ち、それをわかりやすく説明できるかが大切だと思います。それらをアプローチできるようになれば有利ではないかと思いますね。あとは、パソコンの使い方は必須だと思います。そしてプライベートのことだと学生の長期休みは謳歌してほしいです。社会人になると最長10日しか休みはないのもっと学生時代に長期休みを使って旅行や遊びをしておけばよかったなと個人的に思っています。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

6. 仕事でのやりがいや、つらいこと

➤ はたらく姿勢や、やりがい、達成感等はどんなことでしょうか？

担当していた大きなイベントが終わったときはかなりやりがいが感じられました。そしてその達成感により次の仕事へのモチベーションへと繋がりますね。ほかには、地域のみなさんや職場の方々でも誰かに感謝をされたときは「やってよかった！」というやりがいを感じられます。しかし、他の課では怒られることもあったため「向いてないな」とマイナスの自分を感じることもありました。推進大会では効果がすぐ出るというわけではなく持続することでジワジワと成果を生み出すことができるので後からやりがいを感ずることが出来ます。

感想（情報・経営コース 2年 中村有澄）

私は高校生のときに公務員の道を目指し始めました。しかし、その時にはまだ明確な理由がなく、「群馬県で就職したいけど専門職に就きたいわけでもないから何となく公務員を目指そうかな」という程度でした。そして大学生になっても私自身の気持ちはあまり変わらずこのままでは本気で就職のための準備ができないと焦り、今回取材インターンシップに参加することを決めました。今回の取材インターンシップに参加して本当に良かったと思いました。今まであやふやだった自分の就職活動に対する気持ちがかなり変わりました。実際に市役所で働いている方のお話から今まで知らなかった情報やプライベートな部分まで細かく聞くことができました。

また人と話すことが苦手だったはずの私がインタビューリストに載っていないことまで質問することができて、今までよりも人とのコミュニケーションに自信を持つことができました。これからアルバイトや大学生活、就職活動でもこの身についたビジネスマナーとコミュニケーション能力を発揮していけたらいいなと思います。

職員の方々の話でも出たように多くの経験と人脈づくりをしていきたいと覆いました。具体的には他のインターンシップにも参加したり、行政と地域が協働しているイベントに参加したりして両方の立場から異なった視野を見ていけたら良いなと思います。また、大学の先輩先生、就職した先輩や職員の方々にもっとお話を聞くことができる機会を増やしていきたいです。今回の取材インターンシップでは聞ききれなかったこともたくさんあるため、自ら率先して行動して疑問に思っていることや不安に思っていることを徐々に解決していきたいです。

一つ、反省点としてパワーポイントの発表の時緊張しすぎて、上手に言葉にできなかったです。練習のときは違って多数の職員の方がいて、真剣に私たちの発表を聞いてくださっている姿だったため、必要以上に緊張してしまいました。そのため、これからそのような機会があればもっと念入りに練習をして、グループ内だけではなくもっと場数を増やした発表練習をして本番に備えていきたいです。

緊張しやすい性格の私が深い話題まで聞くことができたのはグループのメンバーの協力と親身にお話ししてくださった職員の方々のおかげだと思います。今回の取材インターンシップに参加したことで就職活動へのモチベーションがかなり高まり、また、自分自身のコミュニケーション能力も高まったため本当に良い経験となりました。次は長期インターンシップにも参加したいと考えているため、それまでにもっと自分の能力を高めて今よりも成長した自分になって新たな活動に挑戦していきたいです。

感想(情報・経営コース 2年 高橋瑞歩)

私の考えの中での公務員というお仕事はあまりいいイメージが持てませんでした。確かに私の周りを取り囲んでいる大人達は、“安定した仕事”“お給料のいい仕事”など大人からだからこそその考え方をして私に公務員の仕事をすすめてくることが多いです。ですが私は今まで「公務員」という仕事に興味がなく、勝手なイメージだが仕事内容が単調で日々同じ仕事をするという偏見を持っていました。そのため、公務員対策などをまったく考えたことが無かったです。そんな私が今回この取材インターンシップで前橋市役所を選んだ理由は、周りの大人の意見ではなく私自身が自分の目で仕事の話を持直接聞いて「公務員」を新しい見方で見てみたいと思ったからです。

実際に今回取材インターンシップに参加してみて本当に私の中での公務員に対しての考え方が大きく変わりました。前にも述べた通り私はあまり公務員に興味がなく、人生の中の多くの時間を費やす仕事内容が単調なのは私には合わないと思っていました。だがお話を聞く中で、仕事内容はとても幅広く、発掘から、教育関係、税金に関すること、はたまたスポーツに携わることまで市役所の仕事に色々あることが今回のインターンシップを通じて知ることができました。今回お話を伺ったふたりの職員の方も本当に色々なお仕事を経験されていてとても濃い内容を聞くことができました。

今まで私の中で良い印象の無かった公務員という仕事ですが、今回実際に今現在公務員として前橋市市役所でお仕事をされている方にお話を聞いてみると、私の中の勝手なイメージとは全く違って、寧ろどんな仕事よりもやりがいがある飽きない仕事だということを知ることができました。今回の学びをこれからの就活へ生かし、広い視野を持って物事に取り組んでいきたいと思います。

以上

2019年9月17日

2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市役所 市民部生活課様
日 時 8月28日(水) 午前10時
場 所 前橋市役所2階 生活課(会議室)
学 生 共愛学園前橋国際大学
心理・人間文化コース2年 諸岡里南 久松みな美 チームR

インタビュー記録

課長補佐 宮内 毅 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

よく調べられていたと思う。総合計画とかもうまくまとめられていた。

2. 業務内容について

➤ 市民部生活課の主な業務について教えてください。

調べた内容の通りだが、細かくなるとネットに寄せきれないほど多岐にわたる。ざっくり
いうと、地域づくりの推進と市民づくりの支援、市民相談

➤ 宮内様のお仕事について教えてください。

市民部生活課の地域づくり係。市民相談だけでなく、地域おこし協力隊にも携わっている。

3. 学生から見た魅力として「地域づくり」があります。

➤ 地域づくりフェスタ、お祭りイベント、地域若者会議、地域おこし協力隊など、お仕事の範囲が非常に多岐にわたりますが、職員のみなさんでどのように役割分担をしているのでしょうか？

課によって携わり方が違う。お祭りイベントに関しては生活課ではなく観光課が行っている。

4. 部署の異動と職場の雰囲気について

➤ 職員の皆さんは3年から5年で職場を異動すると聞きましたが、なぜ異動するのでしょうか？環境が変化して大変ではないのでしょうか？

プレッシャーのかかる部門とそうではない部門とがあるから、役員の精神的な負担を軽くするという役割も一つあると思う。また、別の課に配属されることにより、そこでもまた様々な市民の皆さんとの関係を深めることができる。

➤ いままで経験された職場の雰囲気、仕事の仕方などを教えてください。

保健所や、長寿包括課、県庁、文化財包括課で発掘調査

5. 福利厚生について

- 有給休暇、育休(産休)の制度があると思いますが、男女とも取得できるでしょうか？

取れる。同じ生活課の高山さんは(男性)今年4月から1か月間とっていた。最大で3年取れ、民間企業よりもとりやすいと感じる。

6. 前橋市への就職の経緯について

- 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。

両親が公務員として、利益よりも人や地域のために働く姿を見てきたから。

- 公務員試験対策などの勉強をされたでしょうか？

大学3年生から、公務員試験の対策本で勉強した。

- 学生時代にやっておくべきことを教えてください？

このような、社会人の働く姿を見たり、コミュニケーションをとる。

Excelを使いこなせるようになると、仕事の効率が上がる。

課長補佐 宮内 毅 様 インタビュー内容(詳細)

R1 では、プレゼンのご感想をお願いします。

A1 そうですねー、うーん、まあ、総合計画とかもですねー、まあ、よく見て頂いてですね、確かに大事と言えば、一番大事な計画なので、前橋としてこれを指標にしてやっていきたいと思いますという事ですので、これはね全職員が本来的にはわかっていなきゃいけない部分なんですけど、まあさっきも言ったんですけど、中々ね、こういう大きい部分はね、我々は細かい業務をやっている中で、中々こういうところはね、政策推進課っていうところが担当でまとめてくれている感じになります。でもまあうまくまとめてくれてたかな。＜プレゼンの事前配布資料をご覧になって＞ここら辺なかったね？前橋の歴史とか。

R2 あ、そうですね。＜組織図とか＞こちらのほうは授業での事前発表ということでくあ、そういう事なんだ＞以前授業のほうで発表、こちらのほうで発表させ頂いたんですけども、その発表の後にグループで話し合って、歴史はいらないとなって

A2 見ないスライドもあったから、あれってなって、まあ、よく勉強してきていただいたな一つで感じですかね。この辺は皆ホームページに載っているっていう事ですかね(あ、はい)まあ、確かにさっき高山が言ったんですけど、やっぱ字面で、こう出てくるんですよ。こう、堅い感じで捉えられちゃうかなあ、うちの地域づくりなんかも、細かかったり、分野も色々なので大きい話をするとうちの地域づくりの推進と市民づくりの支援であって、その中にもいろいろな事業がぶら下がっているっていう感じだから、そういうのはね細かくね、まあホームページに書いてもしようがないかなっていう思いでこっちはいるので、まあ、ホームページを見て、勉強されるときには、こういう情報しかないんだなっていうのは、こちらとしても新たな発見というかそういう感じになりますね。他の消費生活センターなんかもそんな感じでどちらかというところの感じが書いてあるから、字面で見えないというか、字面からこう派生するような内容というのはこうやってインタビューしてもらったり直接話を聞いてもらわないと届かないという気はするのね。あと、生活課とすると、市民生活センターというのが市内に11くらいかな、あるんで

すけど。皆さん前橋の方ですか？（私は、地元が前橋です。）上川とか下川とか（はい）桂萱とか、まあこういうところに市民サービスセンターっていうものがある、そちらも市民生活課の所管であって、公民館っていう教育委員会的な位置づけと、市民サービスセンターっていう証明書発行とか色々な市民課の手続きのの出先機関というのを併せ持っているですよ。だから、市民サービスセンターっていうのも市民生活課の所管の一つになってますね。

R3 と言いますと、そちらの市民生活課の皆様が派遣されていくという事でしょうか？

A3 生活課にこういう係がズラーっとあって、そこと同じレベルで上川市民サービスセンターや下川市民サービスセンターというのが回ってるんさね。（あー、成程）で、同じレベルで生涯学習課っていうところで上川公民館や下川公民館っていう二足の草鞋を履いているっていうような感じなのでそこも生活課に入っているというように感じですね。（そうなんですね）そこで、一つ思ったのですが、この前橋七夕まつりっていうのは学生から見た魅力の一つに入っているようですが、これって何で入っているんですか？

R4 そうですね、こちらは前橋七夕まつりというイベントの協賛に携わっているといいますか…協賛という言葉があっているか分からないですけども、七夕まつりを開催するうえで力を

A4 なんか、地域づくり協議会がみんなに参加しあうみたいフレーズがあったのかな？

R5 そうですね、ちょっと読み取りが甘かったので

A5 そうだね。これは確かにみんなも違和感を持っていたかも。七夕まつりは、まあどっちかというと観光とか、にぎわいとか、今は商工会議所とかがやってたりするので、まあ、この辺ちよつとね

R6 祭には直接かかわっているという事ではないですかね

A6 そうだね、市民相談が大きいかな。市民であればどなたでも相談していただいて、そのあと法律に関係する事であれば、ま、法律相談というところをご紹介したり、介護の事であれば、介護のほうにつないだり、そういう役目を果たしているんで、まあ大変だったりします。市民生活課で、一般に関わるっていうのはね、どこにも関わらない様なのが生活課さんに来ますね。水道だったり、道路だったり、介護だったり、担当がわかればあれですけどね。まあ、生活課はそういう所ですかね。プレゼンに、関してはよく調べていただいて、楽しく見せていただいてね、ま、それ以上の評価は無いです。

R7 はい、ありがとうございます。

A7 何かありますか？このプレゼンで、七夕まつりはちょっとあれかなと思ったんですけど、市民生活課の、ちょっと言及されてない点、自治体のやっぱりこの点の位置づけというか、やっぱりここが大きいかなっていう、生活課からするとね。地域づくりもそうですし、活動支援とか、市の根底にある部分なので、ま、そこは一番重く受け止めてる部分ですかね。平和も大事だけど、まあここは一番ですかね。

R8 宮内様は地域づくり係に配属されているのでしょうか。

A8 そうです。

R9 先ほど、これから赤城山に行くと言っていたんですが、

A9 そうですね、この、学生から見た魅力1の協力隊があるんですけど、しってますか？

R10 そうですね、インターネットで調べて初めて知りました。

A10 この話をすると、総務省の移住の政策なんですよ。皆さんもそうかもしれないですけど、学生さんが東京とか首都圏のほうに行っちゃって、そのまま就職されて戻ってこないというような東京一極集中みたいな人口の問題があるじゃないですか。それをどうにかいましょうという事で、東京にいる若者たちをできるだけ地域で生活していただきたいのを促進しましょうっていう推進で、地域おこし協力隊っていうんですけど。都会から地方に移住してそこで生活していくっていう政策ですね。3年間財政的な支援をしてくれるんですけど、まあその3年が終わった時には自分で仕事を起こすとか、自分で続けなきゃいけないっていうのが難しい事業なんですけど。その子たちが今赤城山で活動をしているんですけど、白樺牧場っていうのがあります？(はい、あります)あそこに今羊が放たれているんですけど、協力隊っていうのがきて手掛け始めた事業なんですけど、その羊さんを、赤城山の上は冬は寒すぎるんで、下におろすんですけど、ここの牧場というか、柵を作るのに短管っていう鉄の棒を上から運んできて作るわけですよ。そういうのも地域づくり系のところで担っている感じですかね。今地域おこし協力隊は生活課と賑わい商業課と観光振興課とスポーツ課…今ちょっと増えてきてるんですけど、まあスタートの時はうちが一番初めです。前橋市で活動、移住してもらって、そのまま住んでもらおうとそんな感じで色々やり始めていますね。

R11 その、赤城山の活動は、赤城山のスローシティの政策に関係しているものですかね。

A11 関係してなくはないですね。スローシティってどっちかという概念的なものというか、今までの生活、スローな生活、地産地消な生活、そういう生活を大事にしていきましょうっていう概念的なものなので、まあそういうので紐づく活動や事業っていうのは、まあスローシティですね。だから地域おこし協力隊も、農業が好きな子だったり地産地消がやりたい子が入ってくるので、スローシティの政策っていうえば一つかもしれないですね。まあ、赤城山はね、スローシティっていう冠をつけてもらったんで、ほんとにそれを基に新たにつながりやすいツールにはなっているのかなっていう気がする。まあなんの意味があるのか分からないですけど。まあ、そういうのがあるとまた一つ繋がれるいい機会になるのかなと思います。そんな感じで私たちの仕事は広いんですよ。意味わかんないですよ？

R12 とてもインターネットだけでは調べきれないですね。

A12 そうですよ。地域づくりって言ったって色々あるから、市民活動もあるし。まあ言われているのが、我々行政と住民、企業さんなどの団体と共同ですかね。総合計画の中でもかなりフレーズがあったと思うんですけど、最初のほうにある将来都市像、行動指針、この辺が重要な。行政だけじゃ色々なことが足りないんだよね。人員、知識、ノウハウとか。いろんな団体さんと協力して市とか、県内とかを良くしていかなければいけないっていう時代になってきているので、住民さんとか企業さんと行政とで共同して事業を進めていくことが大事だよっていうのを進めていくっていうのがあります。それぞれが地域の課題を自分事として捉えて自分たちで何ができるかっていうのを考えて、できることは連携してやっていきましょう。そうすればみんなで頑張っていきたい前橋になっていく。というストーリーというか。要は、行政だ

けじゃもう手が足りないので、すみません、手を貸してくださいって感じなんだけど、まあ、そういう時代ですよっていうのをまとめたのが総合計画ですね。これの最初の部分を読んでいただくといいかもしれないですね。

R13 こちらの様々な係とか、あるんですけど、こちらは

A13 自治会とかの関係が大きいかな。さっき言った市民サービスセンターが11あるんで、そちらの連携とかが大きいかな。

R14 こちらはどのように配属されるのですか？最初に自分が希望を出して入るのですか。

A14 うーん、希望が通ればいいんだけどね。正直私も希望を書くんですよ。一回も通ったことが無いですよ。なので、ま、職務命令ですよ。あなたは何課って言われればそこに行って仕事しなければいけないし、嫌だったら辞めるしかないし、っていう所ですかね。

R15 公務員さんのお仕事は結構課の異動が多いというようにお聞きしたので、異動も自動的に決まるのですか？課の内容とかも。例えば生活課に異動となって、その中の地域づくり係と決まっていたり

A15 具体的に言ってしまうと、「あなたは何課の何係ですよ」っていう人事命令が出るんですよ。ただ、人事を司るのは、前橋市役所でいうと職員課っていうところがやっているんですけど、まあ、課とか係の状況を全て把握しているわけではないので、若干吸いきれない課の動きとか、国のほうで法例が変わって、例えば地域人口のほうの業務が大きくなりそうだったら、課の中で配属された人員の中でちょっと工面したり、ちょっとプロジェクトを作るとか工面して、ちょっとイレギュラーに人事異動があるかもしれないです。基本的には職員課さんのほうから指定されることが殆ど。

R16 ということは、それぞれの課に定員があるわけではなく比較的柔軟に動くという事ですか？

A16 基本的な定員はあって、それで1年間あって、4月に配属されて、もう6月くらいには来年の定員決めていくんですね。そういうのが部長さんとか課長さんとかに来年の人員を聞かれるんですよ。その間秋とか冬とかで大きな動きがあっても見えないから、その時予防できなかったら、急遽人事異動や嘱託さんをつけるとかで対応していく感じですね。自分も今地域づくり係にいますが、道路建設課とか前橋商業課とか異動が激しいと3年から5年で大体動いていきますね。そこに行って新しい仕事を覚えなきゃいけない感じですね。

R17 覚えるのが多いと大変ですよ？

A18 まあ、それぞれ課の特色があるんで、中々今までやってきたものとは違って、また新しい課で新しくその課のことを学んで業務をしていく感じですね。逆にそういう市民の皆さんに接するというのは広い意味で市役所の役割ですから、直接市民の人と関係を築けるしそういう意味では良いかなと。民間さんに行くと同じような仕事内容ですが、市役所だったり県庁とかだと結構変わるからね

R18 職場が変わると気分とかも変わりますか？

A18 そりゃあね、大変な課で頑張っ、そうでもない課では少し楽したいよね<笑>そういうのは少しあったり。大変な課は3年くらいで回してあげようとか、市役所の中でも危機管理部門とかは毎日毎日プレッシャーが大きかったり、残業が多かったり、社会福祉課の人たちは生活保護を受けている人たちとやりとりなどで、ま、そういうのが好きな人もいますけどね。ま、色々ですよ。

R19 ご自身は生活課の前にどのような課に配属されていましたか。

A19 ここが結構長いんだよね。生活課今4年目何ですけど、その前は保険所、保健相談課っていうところに6年、そのまえは長寿包括課に7年かな。その前は県庁に1年…一番最初に入ったのは教育委員会の文化財包括課で発掘調査をやってました。凄いですよね、よくわかんないですよ。

R20 発掘調査も職員の仕事なんですか？

A20 そういわれると、前橋市長部局っていうところとまえばし教育委員会とまえばし水道局があつて。ちょっと今学校法人になってしまいましたけど、前橋工科大にも人は行くし、なんか広いですよ。

R21 宮内様が今までやってきた仕事の中で、何か大変だったことはありますか？印象に残った仕事とか？

A21 保健所は6年いて危機管理的なことをやってたんで、3.11の東日本大震災があつて、その後大きく変わっていったよね。その時保健所で過ごしていたのは大きかったかなあ。あの時日赤は、あ、今は七中のほうに移りましたが、朝日町にあつて、あそこが研修エリアにあつて研修してたんですよ。まさにそういうときに、起きちゃってんですよ。研修をすぐにやめて、すぐ帰って、対応が始まった感じですね。一連の中で災害部門のネットワークを先生たちと立ち上げたことは一番大きな仕事だったかなあ。

R22 話が変わってしまうのですが、前橋市役所の福利厚生について教えてください。

A22 うちでいうと、職員課が担当しているんで、詳しいことはそちらに聞いていただきたいんですけど、休みとかですかね？

R23 そうですね、育休とか。

A23 成程、年間もらえる休みっていうのが20日あつて、で最大20日繰り越せるんですよ。だから、使わない人っていうのは年間40日くらい休めるんだよね。だからなんかあれば40日は休める感じですね。普段5から10行かないとか。まあ男女にも差がありますけどね。自分も最初入ったときは3日くらいしか休まなかったかなあ。やっぱりこう、勝手がわからないし、いつ休んでいいかわからないし、でも今はそういうのよりもライフ・ワーク・バランスっていうんですかね、今は取りやすいと思います。育休に関しては、女性のほうは公務員は安心してとっていい所だと思います。男性もそうですね、さっき言った高山君なんかは今年下の子が生まれたんですけど、4月から1か月育休をとってもらったね。半年とか1年ってなると代替え職員とか必要になるんですけど、ま1か月くらいなら私と鵜飼で何とか対応できるだろうと。1か月知らない職員さんが来てその人に教えるよりも、高山君が戻ってくるんだからま、そういう意味なら1か月頑張ろうっていう感じだったかな。

R24 男性も育休をとれるんですね

A24 そういう時代になってきていると思います。規制じゃないけど義務的なものになるかもしれないし、それで女性もそれで働いてもらわないとね。あとは、育休は3年ぐらいとれるのかな。公務員は、その辺は手厚いというか働く環境としては良いのかな。民間さんがどんなプレッシャーをかけられるか分からないですけどね。ま、もっと言う所もあるだろうしね。そんなところかな？

R25 なるほど、では、前橋市役所に入った経緯についてお聞かせください。

A25 じぶんですか？うーん、確かに公務員目指していて、就活の時は民間も少し行きましたけど、やっぱりこう芳しくなくて、民間っていうのは頭になかったというか、自分の両親も公務員だったし、利益のためというよりは人のため、地域のために働く姿を、いいなって思っていたし、働き方としては両親が充実した仕事をしているように見えていたので、自分もこうなるのかなぁと思っていましたね。質問にもありましたけど、大学3年くらいから公務員試験の勉強を شدしたんかなあ。分厚い参考書を勉強して備えたっていう感じですかね。

R26 もう公務員になろうって決めたのは大学入学してからですか？

A26 小中高…結構早かったですね。まあ自分で何かやりたいとかそういうのはなかったから、まあ好きなスポーツをやっていて就職を考えなくてはいけなくなったらばっと浮かんげ来るのは両親の働く姿っていうのが自然に浮かんできましたね。それで決めたのは大学1, 2年の時ですかね。皆さんは現在どうですか。公務員志望ですか？

R27 視野に入れている感じですね

A27 それくらいがいいんじゃないですかね？＜笑＞

R28 そろそろお時間のほうが来てしまうんですけど、最後に、何か今大学生の時点で何かしておくべきこととかありますか。

A28 自分の頃と比較すると、時間が経っているんであれですけど、やっぱりこういうことが大事だと思います。アルバイトとかで社会とつながるのもそうですけど、実際の仕事をしている人とコミュニケーションをとるかを経験して、自分の中の働くイメージを高める準備期間が大学生活だと思う。今事業を一緒にやっている大学生だっているからね。

R29 成程、ありがとうございました。

鵜飼和男 様 インタビュー内容(詳細)

R:1 先ほどのプレゼンテーションはどうでしたか。ホームページとかから調べただけなので不安なところとかもあるのですが。

A:1 先ほども話をしたんですけれども、私が大学生のころ2年生の時にはパワーポイントがいじれなかったというところから入って。あれ1時間くらいでできたんですか。1日でできたみたいな話を伺ったので。

R:2 そうですね。1日かけて作ったのかな。

A:2 以前プレゼンテーションの出前講座みたいなもので発表しに行ったり、去年もちょっと30分くらい話をしてと言われたことがあって、パワーポイントとかを作ったんですけれども、とても1日ではできなかったの。まあただそれだけ作っているわけにもいかないんですけれども。トータルで1か月くらい作ったという記憶があったので。そして発表自体も原稿を読むわけではなかったですし、そういったところでは短期間だったとは思いますが、非常に念密に練られていたのかなという感想を持ちました。

R:3 ありがとうございます。緊張して噛んじゃったりもしたんですけれども。

A:3 まあ、こういったことは経験や場数を踏むことで慣れていくと思うので。原稿なしでの発表ができていたので、これから慣れていけるとおもいますよ。

R:4 ありがとうございます。

R:4 これから質問に入ろうと思うのですが、先ほどはどんなお話をされましたか。

A:4 そうですね。一通りお話させていただいたんですけれど、業務内容ということだったので一応資料をお渡しをさせていただいたんですけれど。＜ありがとうございます。＞あの一応私共の係についての、主な業務は発表していただいた通り地域づくり推進に関わるものですか、後は協同に関わるもの、後は市民活動の支援とかですね。事業といたしましては、お配りさせていただいた資料に記載されているものを3人で行ってまして、私の業務については記載の通りの形になっているという感じです。

R:5 鵜飼さんはこちらの8項目を担当なさっているということですか。

A:5 副担当もありますので、副とついているものはサポートという形になるのでそれほどウエイトはないんですけれども、正とついているものに関しましては基本的にウエイトがかかってくる感じにはなりますかね。

R:6 ありがとうございます。この資料があるので質問がしやすいです。

A:6 地域づくり推進事業のことなんですけれども、先ほどのグループには少しお話させていただいたんですけれども、私が推進して何とかというものではなくて、地域づくり推進を支

援する、実際に活動していただくのは地域の方々なので、あくまで支援を行ってます。その支援も必要なことだとは思いますが、ウエイトとするとそういうところが私の中では大きいですかね。この地域おこし協力隊については5人おまして、2年前私が異動してきた時からスタートしている事業になるので、一応3年間委嘱期間があるので、今年が3年目になるので、毎年活動の内容は違うので、まだ手探りなところはあります。先ほどの管理職の方がバリバリとやっていたらいいと思いますので、そこは一人で悩むこともなくやっている感じですかね。

R:7 地域おこし協力隊についてなんですけれども、先ほど宮内様が赤城に行くとおっしゃっていたんですが、一緒に行かれるんですか。

A:7 行きますよ。協力隊員が、関係している事業がありまして、そのサポートといいましょうか。まあ、人数が必要とのことだったので、それでちょっと赤城の山のとっぺんまで行って、作業して帰る感じですかね。5人が5人同じ仕事をしているわけではないので、活動の組み立て等はみなさんそれぞれバラバラなので、なかなか全部が全部ついてはいけないっていうのはあるんですけれど。今回は市役所の担当課が絡んでいるので、一緒に作業するというような感じです。

R:8 頑張ってきてください。資料を見させてもらって見て、結構市民の方と関わる事業が多いと思うんですけれども、外でお仕事をされることが多いんですかね。

A:8 そうですね。デスクワークとは限らないので、状況によっては会議自体が外ということもありますので、ずっとここににいるということでもないですね。

R:9 じゃあ、結構外に出る感じなんですね。お忙しそうだなと思って。

A:9 そうですね。まあ、デスクで仕事が済まないということもあるので。やっぱり地域づくり推進事業は各地域にある地域協議会というのがありまして、それが今24地区あって23地区を見ているんですけれども、その会議が平日ではないこともあるので。

R:10 じゃあ、実際に会議は行かれてみている感じなんですかね。宮内様も支援とおっしゃっていたんですけれども、実際にはどんな支援をされているんですか。

A:10 個々の地域づくり協議会に関して、私の方では各地域づくり協議会活動するにあたって必要な助成金やほうふ業務が主にはなるんですけれども、実際には協議会の事務局担当者というのがおりますので、その方が直接指導してくださる感じですね。ただ、実際そこで何かイベントをがあれば、まあ、状況に応じて全部は行ききれないので、状況に応じては便宜を図るというのはありますね。

R:11 そんな感じなんですね。支援でどんなことをやっているんだろうというのがよくわからなかったんで、ありがとうございます。話が変わるんですけれども、職場の異動が結構あるとお伺いしたんですけれども、そのなぜ異動するのか分かりますか。

A:11 究極に言えば、職員命令という形なんですけれども、個人として思うのが、多分これに面性があるって、いい面で行くと一人の人がずっと見てるとなると一つの考えしかないんですけれども、異動という形で担当者が変わることによって新しい視点の中で、いい考えが生まれるというのが一つあるのかなと考えております。悪い意味で言うと、長くなるとやはり惰性

が生まれてごまかしてしまったりっていうことにつながると思うので、それは負の部分ですね。負の部分減らそうと思ってる異動というのがそういうところがあるのかなと思いますね。

R:12 地域もやはりどんどん変わっていくので、新たな風を吹かすではないですけど、人を動かすことで視野が広がったりするんでしょうね。

A:12 市役所での事業はそれが課題だからやっていうわけなんですけれども、やればいいみたいになってしまう可能性があるんで、そういう意味では異動というタイミングで新たな視点を「そろそろこれはいいかな」という視点も必要になってくるのかなと。新たな芽が入ることによって考えられて行くのかなと思いますので。プラスの面というのもあると思うんですけど、異動することによっておこるデメリットというのもありますので。

R:13 引継ぎとかは大変そうだと思いますね。

A:13 実際に異動すると決まって、異動しちゃえば新しい仕事をしなくてはいけないので、引継ぎとかの話をしたりはするんですけど、半日で全部吸収できたりとかはしないので、結局出前聞とかを半年ぐらいして、一人前になるのに一年ぐらいはかかりますかね。それから、真価を発揮するという感じはします。

R:14 こういう形態をとっているのってほかの会社でもあったりしますか。

A:14 やっぱ異動はありますよね。身内に銀行員の者がいるんですけども、ああいうところも長くやると、やはり怠惰が生まれてしますので、そういった理由での異動とかはするんでしょうね。3年から5年ということで最近長い方は長いみたいですけどね。ただ、短い方は短いんですけど。

R:15 鵜飼さんはどんな感じですか。

A:15 私は3年目なんです。私は5年を超えたことがないので。3年か4年ですね。

R:16 以前はどちらでしたか。

A:16 ここに来る前が、前橋工科大学の事務局員に派遣だったんですよ。その前が、今は名前変わっているんですけど介護高齢課、高齢者福祉の方にいたんですよ。その前が生涯学習課というところで、社会協力の推進をしていた課で。その前がスポーツ課というところなんです。その前が大胡町採用だったので、今はないんですけども、大胡、宮城、粕川、富士見が合併したという話知ってますか。

R:17 いや、私高崎に住んでいるので知らないですね。

A:17 平成16年12月5日に大胡、宮城、粕川が合併して、その後遅れて富士見が合併した形ですね。私は初めは大胡町採用で、現在は前橋市役所職員として働かせてもらっています。結構コロコロ変わっていますね。

R:18 そうですね。数が多いなと感じました。

A:18 数は比較的多い方だとは思いますが。長い方は長いので。介護高齢化と一緒に異動してきた方は6年間いましたね。目安としてはこういう感じなんでしょうけれど、管理職なんかはもっと短いですね。2年とか3年で動く方が多いような気がします。

R:19 逆だと思っていました。

A:19 管理職の方が係の仕事の判断を下すっていう面では、マンネリ化を防ぎたいっていうのがあるんじゃないでしょうかね。

R:20 色んな課を経験されてきたとは思いますが、課によって雰囲気というのは違ったりするものなんですか。

A:20 そうですね。課が多い少ないによっても違うんでしょうね。今の課はプレゼンで作っていただいた通り、あれだけ課はあるんですけども、実際男女共同参画センターと消費はここにはないので、別のところで仕事をしているので、そういう雰囲気はありますよね。あとちょっと漏れていたかなというのが市民サービスセンター、前橋市内に14、15あるんですけどもそれも一応生活課という括りにはなるんですよ。実際には違うところにいるので、同じ課という実感はしないですよ。業務もちょっと違いますし。

R:21 そうなんですね。ちょっと話を変えてしまうんですけども、前橋市への死亡した動機とかを教えていただきたいです。

A:21 先ほどもお話をさせていただいたんですけども、始めは前橋市志望ではなかったんですよ。大胡町職員だったの。もともと東京の大学に行っていたので、どうしようかなというのはあったんですけども、いずれにしろ群馬に戻って就職をしたいとは思っていて、元々は金融関係を志望していたんですがそちらとは全く縁がない状況でして、親から「いろんな仕事ができるからどうかね」と言われて、いいかなと思って試験を受けたら拾ってもらえたという感じですね。

R:22 そうだったんですね。公務員試験対策とかはその時にされたんですか。

A:22 それがしていないんですよ。当時の前橋市の試験って専門的な試験があったんですけど、今はそれが無いという話を聞いて。試験対策というのはだいぶ違うんだろうなというのはあります。

R:23 今とは違う試験だったということで。特段対策はなさっていないということですか。

A:23 特段何かしてないんですね。

R:24 じゃあ、大学の勉強が活かされたということですかね。

A:24 それもないですね。大学が商学部で、会計学のコースだったので全然違いますね。

R:25 じゃあ、どうして受かったんでしょうね。

A:25 試験自体が、そんなに専門性を問われるものではなかったということと、小論文みたいなものだけだったの。農業関係についてどうとかだった気がします。

R:25 じゃあ、自分の考えを述べるという感じですよ。

A:25 特段なんか、採用自体がイレギュラーなので、これに関しては参考にならないような気がします。

R:26 いえいえ。ありがとうございます。仕事と生活の両立っていうところがあるんですけど、そこについてきいてみたいんですけど、普段お休みの日とかって何をされてますか。

A:26 子どもに振り回されています。子供に振り回されてはいるんですけども、先ほども申しあげました通り、イベントなんかが休みの日とかにあると休みの日も仕事があったりするので、カレンダー通りにはいかないっていう風には思います。

R:27 イベントとかの参加ですか。

A:27 イベントの参加もありますし、主催するというケースもあるので、あとパートナーシップ事業の審査だったりとかもあるので、それが日曜日設定だったりすることもあるので、土日に仕事をすることもありますので。そこはカレンダー通りにいかないというのはありますね。そこは(子どもに)振り回されないということもありますかね。

R:28 お休みの日とかもお仕事が入ったりとかがある感じですかね。

A:28 入ることもありますね。

R:29 プライベート充実してますかね。お子さんに振り回されたりだとか。一緒に遊んだりしてますか。

A:29 一緒に遊んでいるというか、やられちゃっていうというか。

R:30 結構ちっちゃいお子さんなんですか。

A:30 そうですね。小学校2年と3歳児のなので。言うこと聞かないんですよ。

R:31 結構元気ですよ。その年代ですと。

A:31 いやー、言うこと聞かないですね。昨日も顔半分傷だらけにして帰ってきていたの。何やってんだよーと。

R:32 でも、一緒に遊んであげられているのはいいと思います。私の下に兄弟がいるんですけど、お父さんが仕事で疲れているのにやられちゃったりだとかを見てきたので。

A:32 いまの職場は遅い時間もあるにはあるんですけど、年がら年中遅いという感じではないので、そういった部分では、いいかもしれないですね。昔はイベント屋だったので、1か月午前様ということもあったので。若い時だったんで。今正直体がもたないなと思うし。その状況だと子供の寝顔しか見れませんということもあるでしょうし。そういったことは回避できるので、程よく保てているのかな。

R:33 今ワーク&ライフバランスというそういう言葉もありますけど、お話を聞いていると割と取れているかなって思います。

A:33 時期に応じては仕方ないのかとは思うんですけど。そのあたりについてはいいかなって思います。

R:34 将来の夢とかってありますか。生活とお仕事の両立していくうえで、お子さんと過ごす時間を保ちたいだったりとか。

A:34 んー。なんか四捨五入すると40代になってしまうんですけど、そうですね。夢という視点でものを考えなくなってきましたね。現実ばかり見ちゃって。なんだろうな。

R:35 ないってことは今に満足しているのではないですかね。

A:35 なんかあれなんです。20代のときに30の時までに結婚しようとかは考えていたんですけど、40歳以降を正直考えていなかったんですよ。その先は未知数で。とりあえず、ちょっとライフプランを考えていかなくてはいいけないですね。とりあえず、子供がしっかり自立するまではしっかりと見届けて、その後は自由にしようという感じですかね。

R:36 そうですね。お仕事では何かありますか。

A:36 仕事ですか。結構コロコロ異動が多いので、あれなんですけれど。イベントをやるじゃないですか、イベントが終わった後って達成感が生まれて来年もとなると思うんですけど、地域づくりはすぐ成果が出るものではないと思うので、イベントをやった多少効果はあると思うんですけど、継続してやっていかないときちんとした効果は出ないのだろうと考えておまして。少しでも、地域が少しでも良くなればよいなと。(地域で)話を聞いてると大変感が聞こえてしまうので、その負担が軽減できればと。それはどこの地区も悩んでいることでして。若者会議があると思うんですけど、若者会議の提唱をした方が言うには地域の担い手が全然入ってこないよねということから、それを後押しするために作ったと聞いたことがあるんですよ。

R:37 私のイメージする若者だと18から20、30かなと考えていたので、どうしてこの年代なのかなと思ったので、担い手っていう面があったんですね。

A:37 若者会議はリニューアルしておまして、前身のときはもっと40、50代の方がメンバーにもいて、一回年齢を括ろうかということで、今の年代設定になりました。担い手という面で35で線を引いたと考えられますね。

R:38 もっと前橋若者会議について聞きたいんですけど、毎年地区を変えていると聞いたんですが、これも何か理由があるんですかね。

A:38 もともと出発点は先ほど申し上げた通りなんですけれど、実際なかなかこういう団体があるんだけどなかなか入り口がないといいましょうか、会議をしようということから、現実こんな問題がありますというのを引き出すことを理想の形としているらしいんですよ。同じ地域に居続けるのもあれなので。市民協議会で場合によっては毎年同じというものもあるので、若者会議が入って新しい風を吹かせて新たな視点を持たせたいという狙いがあるんですよ。

R:39 そうなんです。私が実際に若者会議をやっている方に軽くお話を伺ったんですけど、1年でいろんなところが変わるから、地区のことを吸収できないうちに地区変わっちゃうのがもったいないと聞いていたので、なぜ毎回変わるのかなと疑問に思っていました。

A:39 状況によってはそういう方がいるのであれば、さらに知り合いを集めて引き続きやるというのもあると思うんですよ。前橋若者会議が付きっきりというわけにもいけないので。

R:40 23区全部回っていくんですかね。

A:40 微妙ですね。こちらから見ても回っている地区はあるので。真に困っていることって藁にも縋るではないですけど。藁ではなくちゃんとしたロープだとは思いますが、23区回っていたら23年かかってしまいますし。

R:41 新しい風を吹かすなら全部回るのかなと思ってしまっただけなので。

A:41 メンバーも変わりますしね。

R:42 長くやる人は長くやるけれど、結構変わると聞くので。

A:42 そうですね。メンバーを取り巻く環境が変わったり、年齢制限もありますしね。

私も聞いていいですか。公務志望ですか。

R:43 彼女は視野に入れていて、私も少し考えていますね。＜はっきりとは考えていないんですけど、候補の一つとして考えています＞

A:43 どうしてですか。

R:44 はじめは公務員志望だったんですけど、インターンシップや色んな社会人の方と接するうちに、こういうのもあるというのを知ってから考えたいなと思ひまして。公務員なるぞという感じではないですね。

A:44 さっき「ギャップはありますか」と聞かれたんですけど、ギャップだらけですよ。よく出勤退勤がしっかりしていていいなと言われるんですけど、そんなことはありませんし。課によって仕事が全然違うので、いろんな仕事がしたいという方には向いているのかもしれないですね。民間ではできない仕事に魅力を感じるのであるのであればありだと思います。

R:45 検討してみます。

A:45 福利厚生でしたっけ。育休産休はしっかりしてますので、男の人でも育休は取れますので。ありなんかなとは思ひますので。

R:46 最後に学生にメッセージやしておいたほうが良いことってありますか。

A:46 資格だとか、仕事を始めると業務的にエクセルとか使うんですよ、関数とかを使うにはある程度知っておいた方がいいと思います。民間でも通用しますし。仕事の簡略化につながることで。肩を抜いた話をすると、2年ですよ。＜そうです。＞大学4年の中で、1年は大学生活に慣れていないし、3年はゼミで忙しいと思うので、2年が一番時間があると思うんですよ。仕事を始めると長期休みなんか取れないんですよ。日本一周とか、長期休みでしかできない事をしたいと考えているのであれば、やった方がいいです。

R:47 もう夏休み折り返しに来てしまったんですけどね。

A:47 まだ冬休みあるし、春までは大丈夫ですよ。

R:48 時間があるからこそできることをした方がいいですね。資格は業務に生かせ雨量な資格の方がいいですね。

A:48 同僚でエクセルをすごく使える人がいて、その人は仕事がめちゃくちゃ早かったので、時間を稼げるところで稼いで頭を使うところに力を注げるようにしないとやることもたくさんありますしね。

R:49 エクセル苦手なので頑張ります。今日はありがとうございました。

実際に取材インターンシップを行う前と後では前橋市役所様に対する印象が大きく変化しました。インターネットだけではわからない情報などを教えてくださり、実際の職場の雰囲気などを聞いて、実際に聞いてみないと分からないことはあるのだと切に感じました。インタビューの姿勢といたしましては、相手が話したいことを感じ取れず、最も適切な返しがその場ですぐにできなかったことが反省点です。拙い質問にお答えして下さった担当の方には感謝申し上げます。

前橋市役所という職場を通して働くということについて改めて考えさせられた機会だったと思います。2年も後半に差し掛かり自分の進路について考え始めなくてはいけないと感じました。それに伴い自分の今後の大学生活の過ごし方についても考えながら過ごしていかななくてはいけないなと思いました。グループ内のメンバーには進路が明確に決まっており、2年の後期にインターンシップに行くことを考えている者もいたので、自分も何か動き出そうと考えました。具体的な計画としては、私の中で就きたい業界なども決まっていないので、業界を知るために資料で調べ、インターンシップなどで知ることから始めていきたいと思います。また、インタビューのお話の中で資格を取るなど、今だからこそできることをするべきというお話をいただいたので、その点につきましても考えていきたいなと思いました。ですが、あまり就職のみに特化した大学生活を送るというよりは、自分の趣味や好みに合わせて資格勉強に臨み、知識の習得に励んでいきたいなと思います。

事後学習の際にはインタビューでお伺いした話の重点を抑えて、自分の今後の学生生活のことも考えたプレゼンを考えていきたいと思います。

感想

心理・人間文化コース2年 諸岡里南

取材インターンシップを実際に行い、最初はうまくいかとても不安でしたが、いざやってみると意外と緊張していない自分自身に驚きました。この機会を通して、インターネットで調べた内容だけではなく、職場を訪ねることにより新たにたくさんの情報を得ることができました。インターネットの文面では知ることのできない職場の雰囲気や、その場で働く方々の姿なども実際に見て感じることで、私も社会人になるんだという実感が改めてわきました。私たちにとって、就職活動はまだまだ先の話かと思っていましたが、地域おこし協力隊や若者会議など将来のために今から頑張っている大学生の存在も知り、私も頑張らなければいけないという焦りを感じるとともに、就活に対するモチベーションを高めるきっかけとなったいい経験になったと思います。また、同じグループの友人が、2年の後期から1日インターンシップに行ってみようか考えているという話を聞きました。1日インターンシップという存在を知らなかった私は、皆よりも一歩出遅れていると痛感したとともに、私も調べてみたら、様々な企業が実施していることを知りました。取材インターンシップで、インターンシップの大切さを学んだので、私も後期授業の合間を利用して参加してみようと思います。

職場の雰囲気や、就活のモチベーションを高めることに繋がっただけではなく、インターネットには書かれていない様々な仕事内容も知ることができました。最終発表では、そうしたインターネットだけでは知ることの出来ない内容を上手くプレゼン出来るように頑張りたいと思います。

以 上